

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養科目 ■人間力	入門ゼミ (読替科目: 入門ゼミ) 全学科 全教員 (○各学科長)	1学期	1	1	60
	心と体の健康学 (読替科目: 心と体の健康学) 高西 敏正 他	1学期	1	1	62
	職業と人生設計 (読替科目: 職業と人生設計) 見館 好隆	2学期	1	1	63
	日本語の表現技術 (読替科目: 日本語の表現技術) 池田 隆介	1学期/2学期	2	2	66
	哲学と倫理 (読替科目: 倫理入門) 森本 司	1学期	2	2	65
	ジェンダーと日本語 (読替科目: ことばとジェンダー) 水本 光美	2学期	2	2	111
	工学倫理 辻井 洋行 他	1学期	3	2	1
■人文・社会	技術経営概論 佐藤 明史	2学期	3	2	2
	芸術と人間 未定	1学期	1	1	
	経済入門 (読替科目: 経済入門I) 中岡 深雪	1学期	1	2	61
	アジア地域入門 中岡 深雪	2学期	1	2	3
	文学を読む 未定	2学期	1	1	
	法律入門 未定	1学期	1	2	
	文明社会 菊地原 洋平 平成27年度以降は非開講	1学期	2	2	4
	経営入門 (読替科目: 経営入門) 辻井 洋行	1学期	2	2	64

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養科目 ■人文・社会	アジア経済 (読替科目: アジア経済) 中岡 深雪 開講学期に注意	2学期	2	2	67
	心理学入門 生田 淳一 平成27年度以降は非開講	1学期	2	2	5
	国際関係 千知岩 正継 平成27年度以降は非開講	2学期	2	2	6
	比較文化論 長 加奈子	2学期	2	2	7
	知的所有権 木村 友久 開講学期に注意	1学期	3	2	8
	企業研究 辻井 洋行	2学期	3	2	9
	地球環境概論 (読替科目: 地球環境システム概論) 寺嶋 光春 他	1学期	2	2	68
リサイクルシステム論 (読替科目: エネルギー・廃棄物・資源循環概論) 大矢 仁史 他	2学期	2	2	69	
環境計測入門 城戸 將江 他	1学期	2	2	10	
環境問題特別講義 (読替科目: 環境問題特別講義) 二渡 了 他	1学期	1	1	98	
生物学 (読替科目: 生物学) 原口 昭	1学期	1	2	99	
環境問題事例研究 (読替科目: 環境問題事例研究) 森本 司 他	2学期	1	2	70	
生態学 (読替科目: 生態学) 原口 昭	2学期	1	2	100	
環境マネジメント概論 (読替科目: 環境マネジメント概論) 松本 亨 他 開講学期に注意	1学期	2	2	101	
環境と経済 (読替科目: 環境と経済) 加藤 尊秋	2学期	2	2	102	

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養科目 ■環境	環境都市論 松本 亨 平成20～24年度入学生は開講学期に注意	2学期	3	1	11
■外国語科目	英語コミュニケーションⅠ (読替科目：英語演習Ⅰ) 植田 正暢 他	1学期	1	1	71
	TOEFL/TOEIC演習 (読替科目：TOEIC基礎) 酒井 秀子 他	1学期/2学期	1	1	72
	英語コミュニケーションⅡ (読替科目：英語演習Ⅱ) 植田 正暢 他	2学期	1	1	73
	英語コミュニケーションⅣ プライア ロジャー	2学期	2	1	12
	英語リテラシーⅠ (読替科目：Basic R/WⅠ) 柏木 哲也 他	1学期	2	1	74
	英語リテラシーⅡ (読替科目：Basic R/WⅡ) 柏木 哲也 他	2学期	2	1	75
	英語コミュニケーションⅢ クレシーニ アン	1学期	2	1	13
	ビジネス英語 クレシーニ アン	1学期	3	1	14
科学技術英語 クレシーニ アン 他	1学期/2学期	3	1	15	
英語表現法 プライア ロジャー 他	1学期	3	1	16	
英語リテラシーⅢ 植田 正暢 他	2学期	2	1	17	
■工学基礎科目	一般化学 (読替科目：一般化学) 大矢 仁史 他	1学期	1	2	78
	微分・積分 (読替科目：微分・積分) 山本 勝俊 他	1学期	1	2	77
化学実験基礎 (読替科目：化学実験基礎) 朝見 賢二 他 開講学期に注意	2学期	1	2	79	

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■工学基礎科目	微分方程式 (読替科目: 微分方程式) 朝見 賢二 他	2学期	1	2	80	
	化学熱力学 (読替科目: 化学熱力学) 上江洲 一也	2学期	1	2	103	
	基礎有機化学 (読替科目: 基礎有機化学) 秋葉 勇	2学期	1	2	81	
	基礎無機化学 (読替科目: 基礎無機化学) 鈴木 拓	2学期	1	2	82	
	環境と科学 門上 希和夫 他 開講学期に注意	1学期	1	2	18	
	物理実験基礎 (読替科目: 物理実験基礎) 村上 洋 他	1学期	1	2	76	
	電気工学基礎 (読替科目: 電気工学基礎) 水井 雅彦	1学期	1	2	94	
	力学基礎 (読替科目: 力学基礎) 岡田 伸廣	2学期	1	2	95	
	確率論 (読替科目: 確率論) 高島 康裕	2学期	1	2	96	
	認知心理学 (読替科目: 認知心理学) 中溝 幸夫	2学期	2	2	97	
	基礎生物化学 (読替科目: 基礎生物化学) 中澤 浩二	2学期	1	2	104	
	基礎化学工学 (読替科目: 基礎化学工学) 上江洲 一也	1学期	2	2	105	
	環境統計学 (読替科目: 環境統計学) 加藤 尊秋 他	1学期	2	2	83	
	■専門教育科目 ■専門科目	化学平衡と反応速度 (読替科目: 化学平衡と反応速度) 朝見 賢二	1学期	2	2	85
		有機化学Ⅰ (読替科目: 有機化学Ⅰ) 李 丞祐	1学期	2	2	86

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	無機化学 (読替科目: 無機化学) 今井 裕之	1学期	2	2	87
	物理化学実験 (読替科目: 物理化学実験) 黎 暁紅 他	1学期	2	4	84
	化学工学 (読替科目: 化学工学) 山本 勝俊	2学期	2	2	90
	分析化学 (読替科目: 分析化学) 吉塚 和治	2学期	2	2	89
	大気浄化工学 高倉 弘二 開講学期に注意	1学期	2	2	19
	有機化学実験 (読替科目: 有機化学実験) 秋葉 勇 他	2学期	2	4	88
	反応工学 西浜 章平	1学期	3	2	20
	分離工学 西浜 章平	1学期	3	2	21
	構造化学 黎 暁紅	1学期	3	2	22
	機器分析 鈴木 拓	1学期	3	2	23
	水質工学 寺嶋 光春	1学期	3	2	24
	先端材料工学 李 丞祐 他	1学期	3	2	25
	環境分析化学 門上 希和夫	1学期	3	2	26
	化学演習 大矢 仁史 他	1学期	3	1	27
	環境分析実習 吉塚 和治 他	1学期	3	4	28

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	電気化学 吉塚 和治 他	2学期	3	2	29
	エネルギー化学プロセス 黎 暁紅	2学期	3	2	30
	触媒工学 天野 史章	2学期	3	2	31
	エネルギー資源化学 天野 史章 他 開講学期に注意	1学期	3	2	32
	地圏環境論 伊藤 洋	2学期	3	2	33
	水処理工学 石川 精一	2学期	3	2	34
	高分子化学 秋葉 勇 開講学期に注意	1学期	3	2	35
	エネルギー循環化学演習 エネルギー循環化学科全教員(○学科長)	2学期	3	1	36
	エネルギー循環化学実習 門上 希和夫 他	2学期	3	4	37
	化学産業技術論 飯田 汎 第2年次生、第3年次生も受講可能	1学期	4	2	38
	資源循環工学 安井 英斉 他 第3年次生も受講可能	1学期	4	2	39
	数値計算法 清田 高德	1学期	3	2	40
	環境保全学 周 国云 他	1学期	4	2	41
	生物化学 (読替科目:生物化学) 河野 智謙	1学期	2	2	106
	統計熱力学 (読替科目:統計熱力学) 櫻井 和朗	2学期	2	2	107

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	分子生物学 (読替科目:分子生物学) 木原 隆典	2学期	2	2	108
	有機化学Ⅱ (読替科目:有機化学Ⅱ) 櫻井 和朗	2学期	2	2	110
	環境政策概論 (読替科目:環境政策概論) 乙間 末廣	2学期	2	2	109
	微生物学 森田 洋	1学期	3	2	42
	環境シミュレーション 野上 敦嗣 他	1学期	3	2	43
	環境リスク学 二渡 了 他 開講学期に注意	2学期	3	2	44
	錯体化学 磯田 隆聡	1学期	3	2	45
	遺伝子工学 木原 隆典	2学期	3	2	46
	生態工学 上田 直子	2学期	3	2	47
	環境計画学 松本 亨	2学期	3	2	48
	環境経営学 二渡 了 開講学期に注意	1学期	3	2	49
	生物工学 中澤 浩二	2学期	3	2	50
	食品工学 森田 洋	2学期	3	2	51
	バイオインフォマティクス 河野 智謙 他	1学期	4	2	52
	■卒業研究	卒業研究Ⅰ エネルギー循環化学科全教員(○学科長)	1学期	4	4

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■卒業研究	卒業研究Ⅱ エネルギー循環化学科全教員(○学科長)	2学期	4	4	54
	卒業研究(基盤) 基盤教育センターひびきの分室全教員 単位数は各学科の卒業研究にならう	通年	4	8	55
■留学生特別科目 ■基盤・教養科目(人間力)読替	日本事情 (読替科目:日本事情) 水本 光美	1学期	1	1	91
	総合日本語基礎 未定	1学期	1	3	
■基盤・外国語科目読替	総合日本語A (読替科目:総合日本語A) 池田 隆介	1学期	1	2	92
	総合日本語B (読替科目:総合日本語B) 池田 隆介	2学期	1	2	93
■基盤・外国語科目読替	技術日本語基礎 (読替科目:技術日本語基礎) 水本 光美	1学期	2	1	112
	ビジネス日本語 水本 光美 履修学年、履修学期に注意	1学期/2学期	3	1	56
■補習	数学(補習) 荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代	1学期	1	0	57
	物理(補習) 平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成	1学期	1	0	58
	化学(補習) 溝部 秀樹	1学期	1	0	59

工学倫理

(Engineering Ethics)

担当者名
/Instructor

辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)
吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~), 奥田 正浩 / Masahiro OKUDA / 情報システム工学科 (19~)
中武 繁寿 / Shigetoshi NAKATAKE / 情報システム工学科 (19~), 山崎 恭 / Yasushi YAMAZAKI / 情報システム工学科 (19~)
黒木 荘一郎 / Soichiro KUROKI / 建築デザイン学科

履修年次 3年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○		

対象学科
/Department

【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

授業概要

現代社会における製品・サービスの生産・供給は、高度化・複雑化した技術を基盤として成り立っています。技術者は、多様なステイクホルダーの持つ価値観の間で、ジレンマに苛まれながら難しい判断を迫られることが少なくないといえます。この授業では、技術者として様々な倫理的課題に直面した時に、どのように対処していけばよいのか、自ら考え、仲間と話し合いながら判断するための方法を身につけます。この種の「倫理」についての問題は、往々にして暗い内容です。しかし、それらに上手く対応するスキルを身につければ、技術者にとって、明るくやりがいのある活躍の場が広がっていることなのでしょう。製品・サービスの利用者を守り、自分と仲間を守る方法を考えるのが、工学倫理なのです。

達成目標

- (1)工学倫理（技術者倫理）、技術倫理に関連する概念を説明することができる。
- (2)与えられたケースを読み取り、倫理的課題を指摘することができる。
- (3)与えられたケースの倫理問題が生じた原因を検討し、指摘することができる。
- (4)法令遵守を越えた倫理の観点から、技術者としての行動を設計し、説明することができる。
- (5)「倫理的意思決定のセブンステップ」を運用し、自らの判断を評価することができる。
- (6)複数名でケースを把握し、組織としての倫理的行動を設計し、評価することができる。
- (7)各学科専門領域の倫理的課題を検討し、必要な解を導くことができる。

教科書 /Textbooks

中村収三・一般社団法人近畿化学協会工学倫理研究会（2013）：技術者による実践的工学倫理（第3版）、化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野城・札野・板倉・大場（2006）：実践のための技術倫理、東京大学出版会

工学倫理

(Engineering Ethics)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス 工学倫理・技術倫理の概念、必要性
- 2 『技術者の自律』(ビデオ教材) 技術者に求められていること、自律的であることの意味
- 3 個々人の技術者としての倫理が問われる場面(工学倫理・技術者倫理)
- 4 組織人・企業人としての倫理問題への対応(技術倫理)
- 5 製品・サービスなど製造物に関わる責任(製造物責任法)
- 6 『ソーラーブラインド』[ビデオ教材]: 技術者として製造物責任に取り組む姿勢について
- 7 製品・サービスの安全性問題と技術者の行動(安全と工学倫理)
- 8 リスクをいかに捉えて対応するのか。(リスクの評価と工学倫理)
- 9 直接的な利害を超えた倫理課題への対応(環境・資源問題と工学倫理)
- 10 法律を守ることの大切さと難しさ(技術者と法規)
- 11 自他の権利を守ることの意義(知的財産権と工学倫理)
- 12 振り返り
- 13 各学科講義(1)
 - エネルギー循環化学科・環境生命工学科: 技術士における工学倫理
 - 機械システム工学科: 機械技術者の倫理
 - 情報メディア工学科: コンピュータシステムの信頼性
 - 建築デザイン学科: 建築行為における説明責任/法令遵守について
- 14 各学科講義(2)
 - エネルギー循環化学科・環境生命工学科: 知的財産(特許)の考え方・特許明細書の構成分析
 - 機械システム工学科: 学会・研究の倫理
 - 情報メディア工学科: コンピュータシステムの冗長設計
 - 建築デザイン学科: 技術の利用に伴うリスク管理に関する事例とその検討
- 15 各学科講義(3)
 - エネルギー循環化学科・環境生命工学科: 生命科学における工学倫理
 - 機械システム工学科: 企業の倫理
 - 情報メディア工学科: 情報セキュリティと情報倫理
 - 建築デザイン学科: 法令遵守/説明責任/倫理的意思決定に関する事例とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

- 達成目標(1): MoodleでのQuiz [10%]
- 達成目標(2): 演習課題 [20%]
- 達成目標(3): 演習課題 [10%]
- 達成目標(4): 演習課題 [10%]
- 達成目標(5): 演習課題 [10%]
- 達成目標(6): 演習課題 [10%]
- 達成目標(7): 提出物 [30%]

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

クイズや課題提出のためにMoodleを活用します。必ず利用者登録をして下さい。また、情報伝達のためにActiveMailを用いますので、受信するための設定を整えておいて下さい。登録キーは、ee2014(イー・イー・2014)となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書を用いた事前学習と授業中の演習を軸として、学習を進めて行きます。十分な準備をすることで、より理解が進んで、楽しさを感じられる授業にしようと思います。

キーワード /Keywords

工学倫理、技術者倫理、技術倫理

技術経営概論

(Introduction to Technology Management)

担当者名 佐藤 明史 / Meiji SATO / 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
 /Department

授業の概要 /Course Description

人間力および就業力育成の仕上げるの科目であり、工学技術を社会で活用するのに必要なマネジメント能力を実践的演習で育成する。環境問題が惹起した環境経営の重要性とベンチャー企業の必要性を学び、イノベーションの創出とそれに続くベンチャーや企業における新規事業、自治体における新規企画とその実現へ挑戦できる基礎を養う。授業の前半は、技術経営や環境経営の実践方法を講義で学習し、チーム演習で興味ある分野の過去10年間の技術ロードマップを調査作成し発表することにより「洞察力」を育む。後半では、技術経営、環境経営、ベンチャーの事例を学習し、チーム演習でフィールドワークとベンチャービジネスモデル検討による提案発表を行うことにより「構想力」「構築力」を醸成し「技術マネジメント能力」を習得する。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 環境経営の実践マニュアル、山路敬三、国連大学ゼロエミッションフォーラム
- ・ 起業のマネジメント、小林忠嗣著、PHP出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義概要と技術発展ロードマップ、ベンチャー提案作成の手引き
- 2 技術経営概論(1) - なぜ技術経営が必要か
- 3 企業のビジネスモデルの調査
- 4 技術経営概論(2) - 技術発展ロードマップテーマとチームの決定
- 5 技術ロードマップ作成1(背景・課題の整理と情報収集)
- 6 技術ロードマップ作成2(発表シナリオ、発表スライドの作成)
- 7 技術ロードマップのプレ発表
- 8 技術ロードマップの本発表
- 9 事例に学ぶ - ベンチャー人材に必要な能力
- 10 事例に学ぶ - 環境ベンチャー事例
- 11 事例に学ぶ - ビジネスモデルの作り方
- 12 ベンチャー提案テーマとチームの決定
- 13 ビジネスモデルのレベルアップとベンチャー提案発表準備
- 14 ベンチャー提案プレ発表
- 15 ベンチャー提案本発表

成績評価の方法 /Assessment Method

技術ロードマップ発表 30%
 ベンチャー提案発表 60%
 学習態度 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の好きなことを考えるときは楽しい。好きなことをビジネスにする演習授業なので授業外の活動も必要になるが能動的に夢を持って取り組むこと。
 自由討論やビジネス演習など授業への自主的かつ積極的な参加が理解の基本である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学部および大学院での就職活動にも非常に役立つ内容になってます。学外活動も奨励しています。自分も出来るぞと思える舞台が必ずあります。講義外の学習時間も多くなりますが、楽しめると思っています。常に学生諸君の建設的な提案を待っています。

キーワード /Keywords

アジア地域入門

(Globalization and East Asia)

担当者名 /Instructor 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

アジア各国の社会情勢、政治体制、経済状況について学ぶ。アジアの国々はそれぞれが歩んできた歴史や文化が異なり、政治や経済においても各々の特徴がある。日本と地理的に近い東アジアと東南アジアの国を取り上げる。授業では各国の状況を映像資料等も用いて説明するが、講義を聞いているだけでなく、どの国でもよいので関心を持ち、一つの論点について考察してほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣ブックス、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN
- 2 位置確認とアジア地域の多様性
- 3 韓国について
- 4 北朝鮮について
- 5 中国について
- 6 香港、台湾について
- 7 シンガポールについて
- 8 マレーシアについて
- 9 インドネシアについて
- 10 イスラム金融について
- 11 ベトナムについて
- 12 東ティモールについて
- 13 アメリカと新興国経済
- 14 時事問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%
課題を含む授業参加への積極性50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

取り上げている国の立地や基本条件等を事前に調べておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

それぞれの国について詳しく説明します。これをきっかけに名前を聞いたことしかなかった国についても興味を持って、理解を深めて下さい。将来国際的に活躍する人材になるためまずは近隣諸国のことを知りましょう。

キーワード /Keywords

アジア 東アジア 東南アジア

文明社会

(Civilization and Society)

担当者名 菊地原 洋平 / Yohei KIKUCHIHARA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 当該科目は平成27年度から非開講となります。(今年度が最後の開講です。)

授業の概要 /Course Description

科学は日々発達している。それゆえ、かつては正しいとみなされた科学知識や理論が訂正され、現在ではとうに忘れ去られたものも数多くある。しかしながら、当時それらが正しいとみなされたのには、それなりの根拠があった。この授業では、そうした過去の間違った科学知識や理論、あるいは忘れ去られた科学用語を、その時代の科学や思想の状況、および歴史的・社会的背景とともに考察していくことで、科学の歴史を見直していきたい。

本講義を受講するにあたり、とくに以下の点を学習して欲しい

- (1) 西洋の古代から近代に至る科学の歴史に関して基礎的な知識を修得する。
- (2) 歴史的に人間がどのように自然を認識していたのかを理解する。
- (3) 科学知識や理論は過去から現在に向かって連続的に進歩しているのではなく、各時代のなどさまざまな要因(社会的背景や思想的風潮)のもとで構築され、断続的に変化してきたことを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに：授業紹介など
2. 火星の運河：天文学の歴史と宇宙人について
3. ノアの洪水を目撃した人：地質学の歴史と謎の化石について
4. 南方大陸：地理学の歴史と幻の大陸について
5. N線：物理学の歴史とオカルトについて
6. ニッポニウム：化学の歴史と元素と日本人について
7. カルヴァーニズム：電気学歴史と動物実験について
8. 大海蛇：動物学の歴史とUMA(未確認生物)について
9. 地球空洞説：地球科学の歴史と地下世界について
10. 定向進化説：生物学の歴史と動物の進化について
11. 四体液：医学の歴史と性格診断について
12. 性体系：分類学の歴史とセクシャリティについて
13. 固定空気：化学の歴史と未知の気体の発見について
14. オリザニン：栄養学の歴史とビタミンと脚気について
15. ピルトダウン：古人類学と捏造事件について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験80%
日常の授業への取り組み20%(レポートを課す場合もある)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業回数の2/3以上は必ず出席すること。
この条件を満たしていないものは、試験を受けることはできない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

間違いの科学、科学の死語、科学と社会、科学思想

心理学入門

(Introduction to Psychology)

担当者名 /Instructor 生田 淳一 / Junichi IKUTA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 当該科目は平成27年度から非開講となります。(今年度が最後の開講です。)

授業の概要 /Course Description

「心理学入門」の講義では、心理学を初めて学ぶ学生を対象に、人間の心理と行動の基礎的しくみについて紹介する。本講義では脳と心、感覚と知覚、学習と記憶、思考と言語、感情と性格、発達と対人心理、そして臨床心理などのテーマを通じて、環境を認識し適応するしくみとしての心の働きについて、また自己および他者を理解する心のしくみについて解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

著者名 / 金城辰夫・藤岡新治・山上精次
書名 / 図説現代心理学入門 3訂版
出版社・出版年 / 培風館 2006
著者名 / 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行
書名 / はじめて出会う心理学 改訂版
出版社・出版年 / 有斐閣 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.心理学を学ぶ
- 2.脳と心(1)【脳のしくみ】
- 3.脳と心(2)【脳のしくみと働き】
- 4.感覚と知覚の心理
- 5.学習の心理
- 6.動機づけの心理
- 7.記憶の心理
- 8.思考の心理
- 9.言語の心理
- 10.感情の心理
- 11.性格の心理
- 12.発達の心理
- 13.対人心理
- 14.臨床心理
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加・小テスト等 / (30%)
学期末試験 / (70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

心理学用語について調べ、対人関係や身近な社会現象に関心を払うこと。
私語、居眠りなどしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自己理解、他者理解、社会理解の視点をもって受講してほしい。

キーワード /Keywords

脳、感覚、知覚、学習、動機づけ、記憶、思考、言語、感情、性格、発達、対人心理、臨床心理

国際関係

(International Relations)

担当者名 千知岩 正継 / Masatsugu CHIJIWA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 当該科目は平成27年度から非開講となります。(今年度が最後の開講です。)

授業の概要 /Course Description

この授業では、国際関係に関わる様々な問題のなかでも、とくに戦争と平和、安全保障の問題にフォーカスします。具体的には次の三つの問いを念頭において授業を進めます。①世界大戦や内戦など、戦争はいかなる原因によって引き起こされるのか。②戦争を防止し、平和を築くために国際社会はどのような措置を講じてきたのか。③戦火で苦しむ人びとをいかなる原理にもとづき、どのような方法で保護するのか。これらの問いに対する答えを「人間の安全保障」の観点から探り、現代における平和の意味、平和の条件を一緒に考えたいと思います。

教科書 /Textbooks

長 有紀枝『入門 人間の安全保障-恐怖と欠乏からの自由を求めて-』（中公新書、2012年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 最上敏樹『いま平和とは-人権と人道をめぐる9話-』（岩波新書、2006年）。
アマルティア・セン [著]、東郷えりか [訳]『人間の安全保障』（集英社新書、2006年）。

その他の参考文献については授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション-現代世界における武力紛争のパターン-
- 2 国家とは何か： 主権、近代国家、国民国家
- 3 国際社会の成立と展開①-： ウェストファリア、ユトレヒト、ウィーン
- 4 国際社会の成立と展開②-： 世界大戦、冷戦、脱植民地化
- 5 武力行使の違法化と国際人道法： ハーグ国際平和会議、国際連盟、国際連合
- 6 冷戦の終焉と「新しい戦争」の登場： グローバリゼーション、内戦、アインデンティティ
- 7 「人間の安全保障」概念の形成と発展： 国家安全保障、解放、人間開発
- 8 「人間の安全保障」への取り組み： 国家、NGO、国際機構
- 9 「恐怖からの自由」と「欠乏からの自由」： 子ども兵、紛争ダイヤモンド、小型武器
- 10 ポスト冷戦期の人道的介入①： イラク北部、ソマリア、ルワンダ
- 11 ポスト冷戦期の人道的介入②： ボスニア、コソヴォ、東ティモール
- 12 保護する責任 (R2P)： 責任としての主権、ダルフル紛争、リビア紛争
- 13 対テロ戦争①： テロリズム、国家テロ、グローバル内戦
- 14 対テロ戦争②： 予防戦争、特例拘置移送、標的殺害
- 15 まとめ-「人間の安全保障」実現に向けた日本の役割と課題-

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%
授業への積極的参加とホームワーク：50%
ホームワーク：教科書と授業内容をふまえた宿題を2回だします。宿題の提出は期末試験の受験資格になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前もって指示するので、教科書と配布プリントで予習・復習をしてください。
情報量の多い授業です。それなりの集中力を要します。授業を欠席したり、授業中ボーっとしていると、たいへんなことになります。授業にはしっかり出席し、ノートをとってください。また、プリントを大量に配布します。配布プリントを整理し、授業毎に必ずもってきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分たちは世界の人人々々とのようにつながっているのか。また、グローバル化の進展する世界で次々に生じる戦争や貧困の問題にたいして、わたしたちはどのように向きあえばよいのか。国際関係論をとおして、これらの問いを一緒に考えてみませんか。

国際関係

(International Relations)

キーワード /Keywords

人間の安全保障、国家安全保障、国際安全保障、人道的介入、保護する責任、対テロ戦争、国連

比較文化論

(Comparative Culture)

担当者名 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

我々が日常取っている行動や我々の考えというのは、我々が持つ「文化」に大きく影響を受けている。この授業では「文化」というものに焦点をあて、異文化コミュニケーションの基本を学ぶ。「異文化」というと「日本とアメリカ」や「日本と中国」のように、国と国、民族と民族の間の問題ととらえられがちだが、実際は「男性と女性」、「教員と学生」、「上司と部下」など、社会的立場の違いや世代の違いの間に発生する問題も「異文化」の問題である。本講義ではこの様な視点に立ち、多様性（ダイバーシティ）の時代である21世紀を生き抜くために必要な知識とスキルを身につける。特に授業では、様々なアクティビティを通して、異文化コミュニケーションの状況を疑似体験すると共に、映画を通じた異文化コミュニケーションの分析を行う。

教科書 /Textbooks

特になし。必要に応じて授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, 「文化」とは何か・「コミュニケーション」とは何か
- 第2回 それぞれの考え方・それぞれの利益(1)
ひょうたん島問題(あいさつと祭礼)
- 第3回 それぞれの考え方・それぞれの利益(2)
ひょうたん島問題(教育に関する問題)
- 第4回 それぞれの考え方・それぞれの利益(3)
ひょうたん島問題(居住地に関する問題)
- 第5回 それぞれの考え方・それぞれの利益(4)
ひょうたん島問題(共有資源に関する問題)
- 第6回 文化の多層性
- 第7回 映画の分析 "Bend It Like a Beckham"
- 第8回 「異文化」間コミュニケーションを体験しよう
アクティビティ: BARNGA
- 第9回 カルチャーショック
- 第10回 映画の分析 "Chocolat"
- 第11回 文化の5つの側面: IBMの事例より
- 第12回 ビジネスコミュニケーションと文化
- 第13回 事例分析
- 第14回 談話分析
- 第15回 「多様性」の時代を生きていくために

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度 20%
ミニレポート(アクティビティ) 30%
ミニレポート(映画) 20%
ファイナルレポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

比較文化論

(Comparative Culture)

履修上の注意 /Remarks

この授業は、グループでのアクティビティやディスカッション中心の授業のため、積極的に参加することが求められる。なお「英語」の授業ではないので、注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

我々の文化は我々の考えや行動に多大な影響を及ぼしている。その為、単に「英語力」を身につけただけでは「国際人」とは言い難い。異文化コミュニケーションに関する様々な知識やスキルを身につけ、真の意味で、国際的に活躍できるエンジニアになってもらいたい。

キーワード /Keywords

異文化コミュニケーション, 多文化, 多様性, ESD (Education for Sustainable Development)

知的所有権

(Intellectual Property Rights)

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

知的財産法を理解する前提として、法学や法律についての基本的な理解を進める。その上で、知的財産法である特許（実用新案）法、意匠法、商標法、著作権法及び不正競争防止法の制度及び運用について基本的理解を深める。題材は知的所有権に関わる具体的な判例や客体情報を用い、社会における知的財産法の機能・役割及び課題についての理解と実務対応能力形成を図る。

教科書 /Textbooks

木村研究室HPからスライド、ワークシート等を配信します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最高裁判所ホームページ「裁判例検索システム」、INPIT特許電子図書館、木村研究室HPを利用する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 法学概論並びに財産法の基礎知識
- 2 特許権、著作権事件を通じた我国の訴訟制度概論
- 3 特許情報の内容理解と情報検索実務
- 4 特許訴訟と特許発明の同一性判断
- 5 特許要件と明細書作成実務
- 6 企業活動と特許戦略 その1 ノウハウの保護
- 7 企業活動と特許戦略 その2 不正競争行為の態様
- 8 ソフトウェア、ビジネスモデルと特許
- 9 環境関連技術と特許
- 10 パテントマップと作成
- 11 パテントマップの意義
- 12 著作権法に規定される各種の権利概論
- 13 プログラムおよびデータベースと著作権
- 14 コンテンツビジネスと著作権（技術の進歩と著作権を含む）
- 15 特許情報報告書発表並びに総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験50%
最終判例評釈レポートや授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、技術戦略や研究開発等の実務的側面から特許情報を読むことをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ひびきのキャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権

企業研究

(Enterprises and Industries)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

ビジネスモデル・キャンパスを用いながら、企業調査やパーソナル・ビジネスモデルを描く作業を通じて、仕事の選択や必要な学習・経験について具体的なイメージを持つことができるようになります。また、自分自身で継続的にキャリア設計を行ない、自分自身で望む仕事を探すことのできるスキルを身につけます。
 履修者は、この授業に参加することで、次のことができるようになります。

達成目標

- (1) 任意の実在する企業について、ビジネスモデルを描き、説明することができる。
- (2) 自分自身に関するパーソナル・ビジネスモデルを描くことができる。
- (3) 北九州市内の企業についてのビジネスモデルを描き、パーソナル・ビジネスモデルと関連づけながら説明することができる。
- (4) 特別授業を通じて、働くことの意義、仕事を作り出すことの意義について検討し、考えを整理することができる。
- (5) 自身の職業観・キャリア観を整理し、説明することができる。
- (6) 授業内容のまとめ、整理ができる。

教科書 /Textbooks

ティム・クラークほか (2012) : ビジネスモデルYOU、翔泳社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

業界地図、東洋経済新報社 (2014)
 就職四季報、東洋経済新報社 (2014)

企業研究

(Enterprises and Industries)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
(1)学習目標と作業内容の説明
(2)ワークショップ①：私の職業観・キャリア観
- 2 企業研究の方法
(1)ビジネスモデル・キャンバスとそれを用いた企業研究のメリット
(2)調査ワークシートの使い方
- 3 ワークショップ②
(1)ビジネスモデル・キャンバスと調査ワークシートを用いた企業研究の相互発表
(2)模擬就職面接に向けた準備作業
- 4 ワークショップ③：模擬就職面接（第1回）
- 5 パーソナル・ビジネスモデルの作成①
(1)パーソナル・ビジネスモデルを作成することで得られること。
(2)誰のために、どう役に立ちたいのか。（私の役割分析）
- 6 パーソナル・ビジネスモデルの作成②
(1)人生の棚卸しをしよう（ライフライン曲線分析）これまでの半生を振り返る。
(2)ライフライン分析チャートの共有
- 7 特別授業①仕事を生み出すことの意味
- 8 パーソナル・ビジネスモデルの作成③
(1)自分の能力やこれまでの半生を通じて得たスキルを棚卸しする。
(2)自分の個性の傾向に関するチャートを作成する。
- 9 パーソナル・ビジネスモデルの作成④
(1)パーソナル・ビジネスモデル・キャンバスを書き上げる。
(2)完成したキャンバスを共有する。
- 10 ワークショップ②：模擬就職面接（第2回）
- 11 北九州市内企業の研究①
(1)北九州市内に本社のある企業についての情報提供
(2)就職したい市内企業について、ビジネスモデル・キャンバスと調査ワークシートをPPTスライドで作成する。
- 12 北九州市内企業の研究②
市内企業の情報の共有：スライド（紙プリント）を用いたプレゼンテーション
- 13 北九州市内企業の研究③
スライドの掲示とコンテスト「いいね！」
- 14 特別授業②「働くことの意味について」
- 15 振り返り ワークショップ②：私の職業観・キャリア観（再び）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 達成目標(1)：20%
- 達成目標(2)：20%
- 達成目標(3)：20%
- 達成目標(4)：20%
- 達成目標(5)：5%
- 達成目標(6)：15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この授業では、学内ネットワーク上のMoodleを課題提出などのために活用します。必ず利用者登録をして下さい。また、情報伝達のためにActiveMailを用いますので、受信できる環境を整えておいて下さい。
Moodleサイト名；企業研究2014【基盤科目】、ゲストアクセス・パスワード；EI2014（イー・アイ・2014）
担当教員のメールアドレス：tsujii@kitakyu-u.ac.jp

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ワークショップや提出物が多く、作業量の多い授業になりますので、覚悟して履修して下さい。w

キーワード /Keywords

キャリア設計、ビジネスモデル・キャンバス

環境計測入門

(Environmental Measurement)

担当者名 /Instructor 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科, 山本 郁夫 / Ikuo YAMAMOTO / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

地球環境問題を考える上で、多くの良質な環境情報を収集し、有効に活用することが重要である。本講義では、大気、海洋、陸地の分野において、地球環境に重要な影響を及ぼす地球環境情報パラメータとそれらの計測法、および、計測されたデータの活用方法の基礎を学習し、具体的な適用事例を学びながら、地球環境問題の解決を考えていく上での工学的な応用力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

計測工学入門 中村邦雄編著 森北出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 地球の成り立ち
2. 地球環境問題
3. 問題解決への国際的取り組み
4. 地球環境パラメータと計測
5. 地球環境を測る仕組み
6. 環境計測の基礎
7. 測定方法(1) [有効数字]
8. 測定方法(2) [地球の大きさを計測]
9. 測定方法(3) [統計処理]
10. 大気分析について(1) [計測パラメータ]
11. 大気分析について(2) [実計測法]
12. 水質分析について(1) [計測パラメータ]
13. 水質分析について(2) [実計測法]
14. 総合演習
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回 100%
欠席 減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プリントの予習・復習
環境計測技術は専門用語が多いので、確実な理解のためには復習が必要である。また、常日頃新しい技術の情報に目を通しておくことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わが国は、環境先進国として世界をリードしており、持続的可能な社会の実現に向けてさらに環境問題に取り組んでいかなければならない。環境問題は地球規模で考え、足元から行動することが重要で、環境計測は工学上身近なところから実践できる学問であることを認識して、意欲的に授業に臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

環境都市論

(Urban Environmental Management)

担当者名 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 開講期が第1学期から第2学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

アジア各国で進行している産業化、都市化、モータリゼーション、消費拡大とそれらに起因する環境問題には、多くの類似性が見られる。日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するこれらの諸国への先行モデルとして高い移転可能性を持つ。本講では、北九州市を中心とした日本の都市環境政策を題材に、環境問題の歴史と対策を紐解き、その有効性と適用性について考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない(講義ではプリントを配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東アジアの開発と環境問題(勝原健、勁草書房)、その他多数(講義中に指示する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロ(松本亨)
- 2 日本の環境政策の歴史的推移(松本 亨)
- 3 産業公害に対する環境政策:北九州市洞海湾を例に(福岡女子大学・山田真知子教授)
- 4 都市の土地利用・土地被覆と熱環境(崇城大学・上野賢仁教授)
- 5 都市の廃棄物問題の現状と対策(日本環境衛生センター・大澤正明理事)
- 6 都市交通をめぐる環境問題とその総合対策(九州工業大学・寺町賢一准教授)
- 7 北九州の生物をめぐる水辺環境の問題(エコプラン研究所・中山歳喜代表取締役所長)
- 8 水資源と都市型水害(福岡大学・渡辺亮一准教授)
- 9 物質循環から見た循環型社会の姿(松本亨)
- 10 再生可能エネルギーの産業化と低炭素社会を目指す九州の取組(九州経済調査協会・徳田一憲主任研究員)
- 11 再生可能エネルギーを利用した村落単位の電化促進:インドの取り組み(国際東アジア研究センター・今井健一主席研究員)
- 12 バイオマスから持続可能を考える(NPO九州バイオマスフォーラム・中坊真事務局長)
- 13 北九州市のアジア低炭素化戦略(北九州市アジア低炭素化センター・飯塚誠マネージャー)
- 14 ソーシャルビジネス概論~社会を変えるアイデア~(西日本産業貿易コンベンション協会・古賀敦之課長)
- 15 環境対策の包括的評価(松本亨)・

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への積極的参加)10% ※2/3以上出席すること
毎回の復習問題 60%
期末試験 30% ※毎回の復習問題(選択式小テスト)の復習

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する復習問題(選択式)を実施するので集中して聞くこと。
欠席すると必然的にこの得点が無いので注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市の環境への取り組みの現状と課題について、その第一線で関わってこられた研究者・行政担当者に講述していただきます。学生諸君は、北九州市で過ごした証に、北九州市の環境政策について確実な知識と独自の視点を有して欲しい。

キーワード /Keywords

英語コミュニケーションⅣ

(English Communication IV)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

This is a presentation and discussion-based English communication course. Students will learn basic presentation skills, especially how to correctly construct and deliver effective presentations. Focus will be on writing the presentation, teamwork, visual aid design, English fluency, and body language. Students will learn two presentation styles, comparative and persuasive, and be assigned various tasks to help them acquire proficiency. They will be required to do group and individual presentations during this course. Students will also learn the skills to discuss in English various topics with teachers and classmates. Emphasis will be placed on acquiring the necessary vocabulary and grammar skills to make this interaction possible.

教科書 /Textbooks

English With Confidence!
Presentation and Discussion About Important Topics in Today's World
Anne Crescini and Roger Prior

Available in the University Bookstore

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Children; Presentation Skills #1
Week 3: Children; Presentation Practice
Week 4: Working Holiday; Presentation Skills #2
Week 5: Working Holiday; Comparative Presentation #1
Week 6: Education; Presentation Skills #3
Week 7: Education; Comparative Presentation #2
Week 8: Midterm Review
Week 9: Family; Presentation Skills #4
Week 10: Family; Family Role Play
Week 11: Career; Presentation Skills #5
Week 12: Career; Presentation Practice
Week 13: Technology; Persuasive Presentation #1
Week 14: Technology; Presentation Skills #6
Week 15: Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments-10%
Presentations-40%
Final Presentations-20%
Final Exam-30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are encouraged to bring an English dictionary to class every week.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English communication course taught by native English speakers. Please keep in mind that you will be expected to speak English in this class, and your teacher will do the same.

キーワード /Keywords

英語コミュニケーション III

(English Communication III)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

授業の概要 /Course Description

This is a presentation and discussion-based English communication course. Students will learn basic presentation skills, especially how to correctly construct and deliver effective presentations. Focus will be on writing the presentation, teamwork, visual aid design, English fluency, and body language. Students will learn two presentation styles, overview and process, and be assigned various tasks to help them acquire proficiency. They will be required to do group presentations during this course. Students will also learn the skills to discuss in English various topics with teachers and classmates. Emphasis will be placed on acquiring the necessary vocabulary and grammar skills to make this interaction possible.

教科書 /Textbooks

English With Confidence!
Discussion and Presentation About Important Topics in Today's World
Anne Crescini and Roger Prior

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Communication; Presentation Skills #1
Week 3: Communication; Presentation Practice
Week 4: Stereotypes; Presentation Skills #2
Week 5: Stereotypes; Overview Presentation #1
Week 6: Sports; Presentation Skills #3
Week 7: Sports; Overview Presentation #2
Week 8: Midterm Review
Week 9: Food; Presentation Skills #4
Week 10: Food; Process Presentation #1
Week 11: Travel; Presentations Skills #5
Week 12: Travel; Process Presentation #2
Week 13: The Environment; Presentation Skills #6
Week 14: The Environment; Final Review
Week 15: Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments 10%
Presentations 40%
Final Presentation 20%
Final Exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are encouraged to bring an English dictionary to class every week.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English communication course taught by native English speakers. Please keep in mind that you will be expected to speak English in this class, and your teacher will do the same.

英語コミュニケーション III

(English Communication III)

キーワード /Keywords

ビジネス英語

(Business English)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

現代社会において、英語は技術者の「常識」の1つである。科学技術に国境はなく、最先端の情報を得るためには、英語をコミュニケーションツールとして用いることができることが必須である。本科目では、技術者に必要な英語のうち、特に、就職した後、企業等で必要となるビジネス関係の英語を学習する。英語の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のすべてを扱う。

教科書 /Textbooks

Tech Talk: Pre-Intermediate, Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, レベルチェック
- 第2回 What's the job?
- 第3回 Is that correct?
- 第4回 What are the numbers?
- 第5回 How does it work?
- 第6回 What happened?
- 第7回 Can you fix it?
- 第8回 I need some more information
- 第9回 What should we do?
- 第10回 Take care
- 第11回 What's it like?
- 第12回 How do you do it?
- 第13回 Watch out!
- 第14回 Out and about
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度 20%
課題 30%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

科学技術英語

(English for Scientists and Engineers)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室, 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

エンジニアとして、また研究者としてそれぞれの分野で活躍するには、英語は必須のツールである。本講義では、主に大学院進学希望者を対象として、研究活動に必要な基本的な学術英語について、リーディング、ライティングに焦点を当てながら向上させる。

教科書 /Textbooks

S. Philpot. Headway Academic Skills (Reading, Writing, and Study Skills) Level 2 (2011) Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Oxford Grammar for EAP (2013) Oxford University Press

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業概要、演習課題の説明、チェックテスト
2. Unit 1: Reading methods, Describing people, Dictionary work (1)
3. Unit 2: Skimming, Paragraphs, Collocations
4. Review: Units 1 & 2
5. Unit 3: Scanning, Punctuation, Recording vocabulary
6. Unit 4: Making notes, Linking ideas, Dictionary work (2)
7. Review: Units 3 & 4
8. Unit 5: Predicting contents, Writing email, Spelling
9. Unit 6: Using visuals, Writing definitions, Homophones
10. Review: Units 5 & 6
11. Unit 7: Topic sentence, Using pronouns, Prefixes
12. Unit 8: Avoiding repetition, Summaries, Facts and figures
13. Unit 9: Organizing notes, Grammar errors, Reliable sources
14. Review: Units 7, 8, & 9
15. Review: Unit 1-9

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度30%
小テスト40%
期末試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法

(Advanced English)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室
林 南乃加 / Nanoka HAYASHI / 非常勤講師, 原田 洋海 / Hiromi HARADA / 非常勤講師
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

英語でのライティングの基礎となるセンテンスから、論文の基礎的要素であるパラグラフ構成まで学習する。パラグラフに必要な不可欠なトピックセンテンスやサポート（根拠、裏付け）、そしてまとめの書き方を学ぶ。英語の語彙力と文法力を強化するとともに、論理的に構成されたセンテンスとパラグラフを英語で書けるように考えを整理する能力を養う。

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 1: Sentences to Paragraphs (Second Edition), by Linda Butler (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において各担当教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Chapter 1 Introductions
- 第 3 回 Formatting and Sentence Structure
- 第 4 回 Chapter 2 Everyday Routines
- 第 5 回 Grammar: Simple Present and Present Continuous; Adverbs of Frequency
- 第 6 回 Chapter 2 The Writing Process and Peer Review
- 第 7 回 Chapter 3 Every Picture Tells a Story: Topic Sentences
- 第 8 回 Sentence Structure: Simple Sentences Compound Sentences
- 第 9 回 Chapter 5 Your Hometown: Supporting Sentences
- 第 1 0 回 Grammar: Location/Time Prepositions and Prepositional Phrases
- 第 1 1 回 Chapter 7: Remembering an Important Event
- 第 1 2 回 Grammar: Simple Past
- 第 1 3 回 Chapter 8: Memories of a Trip: Concluding Sentences
- 第 1 4 回 Grammar: Past Time Clauses
- 第 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験: 50 %
ライティング課題: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題が比較的に多いコースなので、毎回授業の予習・復習をしっかりと行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業ですが、努力すれば、英語文章の表現力が必ず伸びます。

キーワード /Keywords

英語リテラシー III

(English Literacy III)

担当者名 /Instructor 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室, 新貝 フランセス / Frances SHINKAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 「専門英語II (日英語比較論) 」の受講生が「英語リテラシーIII」を受講する場合、当該授業の参加に加え、日英語比較論に関するレポートの提出を求めます。

授業の概要 /Course Description

この科目は決まったテーマについて自分の考えを英語で論理的に表現できるようになることを目的とする。考えを練ることから文章を書き上げるまでの過程を通してパラグラフの構造や学術的な文章で必要となる文法事項や語彙を学び、様々なタイプのパラグラフが作成できるようになることを目指す。したがって、この科目では以下の5つを達成目標とする。

- ① 考えを練ることから文章を書き上げるまでの過程を理解し、実践できる
- ② パラグラフの基本構造に則って文章を書くことができる
- ③ パラグラフの種類によって必要になる情報を組み込んだパラグラフを作成できる
- ④ 文と文の論理的なつながりを理解し、論理的なつながりを意識して文章を作成できる
- ⑤ 学術的な文章を作成する際に用いられる文法や表現を用いることができる

教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs. 3rd ed. (By Hogue, Anne) Pearson Education. ¥3,220 (本体価格)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者より指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <合同授業> オリエンテーション
- 2回 Chapter 1: Describing people (1): パラグラフとは
- 3回 Chapter 1: Describing people (2): 文章を書き上げるプロセスとは
- 4回 Chapter 2: Listing-order paragraphs (1): 列挙のパラグラフとは
- 5回 Chapter 2: Listing-order paragraphs (2): パラグラフの構成要素について
- 6回 Chapter 2: Listing-order paragraphs (3): まとめ
- 7回 Chapter 3: Giving instructions (1): 指示のパラグラフとは
- 8回 Chapter 3: Giving instructions (2): 指示のパラグラフの組み立て方
- 9回 Chapter 3: Giving instructions (3): まとめ
- 10回 Chapter 4: Describing with space order (1): 描写のパラグラフとは
- 11回 Chapter 4: Describing with space order (2): 描写のパラグラフの組み立て方
- 12回 Chapter 4: Describing with space order (3): まとめ
- 13回 Chapter 5: Stating reasons and using examples (1): 理由や事例を用いたパラグラフとは
- 14回 Chapter 5: Stating reasons and using examples (2): 理由と事例を効果的に用いたパラグラフの組み立て方
- 15回 Chapter 5: Stating reasons and using examples (3): まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

パラグラフ・ライティングの課題 : 50%
小テスト : 30%
宿題・課題 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語表現法を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境と科学

(Environment and Sciences)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
石川 精一 / Seichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科, 上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)
寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

/Department

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

科学は新しい発見や技術開発を通して人類を豊かに幸福にしたが、一方で環境汚染など様々な問題も引き起こしている。特に、科学技術を基盤とした人類の活動は、21世紀に入り地球の環境容量を越えるまで拡大してきた。また、従来の技術に基づく資源浪費型社会も行き詰まりを見せてきた。これらの問題に対応するため持続可能な社会が提唱されており、その創造にはこれまでとは異なる視点で科学を活用する必要がある。本科目では、21世紀の科学が目指す方向を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、講義の都度資料を必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境における科学の役割
- 2 地球環境の変遷と将来
- 3 文明崩壊と科学
- 4 大気と科学
- 5 水環境と科学
- 6 土と科学
- 7 資源・エネルギーと科学
- 8 農業・食料と科学
- 9 生物多様性と科学
- 10 環境汚染と科学
- 11 放射能と科学
- 12 ライフサイクルアセスメントと科学
- 13 持続可能社会の最新技術
- 14 国際環境協力と科学
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト 42% (15分以上の遅刻は欠席とし、ミニテストも0点とする。)
期末試験 58%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布する資料を綴り、復習や期末試験の勉強に活用すること。
本教科では、環境分野の複数の教員が毎回テーマを変えて環境・資源・エネルギー問題の基礎を講義する。15回全てに出席して完全に習得すること。
細かな内容を記憶するのではなく、全体を考える。授業で先生が何を伝えたいかを考える。授業で先生が伝えたいこと(全体)と、それを裏付ける個々のデータ(情報・知識)との相互の関係を把握する。個々のバラバラの暗記は身につかない。
講義中は私語をせず、講義に集中すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学科、環境生命工学科に在籍する学生が、本学部で学んでいく上で必要な環境に関する基礎を習得するための科目である。

環境と科学

(Environment and Sciences)

キーワード /Keywords

大気浄化工学

(Air Pollution Control Technology)

担当者名 高倉 弘二 / Koji TAKAKURA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

近年の環境意識の高まりから、社会は環境をキーワードとして動いていると言っても過言ではありません。この授業では、私たちの健康に直結する大気環境を取り上げ、特に工場などから排出される排ガス等を管理する大気汚染防止技術について講義します。ここでは、将来環境関連の業務に携わる事を想定して、大気汚染防止について幅広い知識を取得することができます。また、この知識を生かして環境関係の資格試験（大気関係公害防止管理者等）の受験に備えることができるように講義内容にも配慮しました。

教科書 /Textbooks

授業用の資料は毎回配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

深く学びたい方にはお薦めです。
公害防止管理者試験 大気関係標準テキスト 青山芳之、畑和子、新田武明著（オーム社）
新・公害防止の技術と法規 大気編（社団法人 産業環境管理協会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.大気汚染概論I(公害総論)
- 2.大気汚染概論I-2 (公害総論)
- 3.大気汚染概論II,III (大気概論)
- 4.燃焼と燃焼管理 (大気特論)
- 5.排ガス処理技術 (SOx処理)
- 6.排ガス処理技術 (NOx処理)
- 7.大気測定技術
- 8.前半のまとめ
- 9.排ガス処理技術 (総論)
- 10.排ガス処理技術 (実例)
- 11.排ガス処理技術 (集じん技術I)
- 12.排ガス処理技術 (集じん技術II)
- 13.排ガス処理技術 (大気有害物質特論)
- 14.拡散等 (大規模大気特論)
- 15.総括 (演習問題により理解を深める)

理解度に応じて授業を進めていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(質疑応答等) : 30% (希望者によるプレゼンテーションも加点対象になります)
期末試験 : 70%
・ 選択マークシート
・ 選択記述

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中講義のため集中力を高める工夫をして下さい。
例えば「十分な睡眠を取る」「前もって参考書を一読する」等
皆さんからの積極的な発言をお願いします。そして、授業の理解度を深めるため、希望者には提示するテーマに沿ってプレゼンテーション(3~5分間程度)する機会があります。これは成績評価の対象になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会は環境をキーワードに動いています。様々な環境情報を身に付けてください。

キーワード /Keywords

地球環境、大気汚染、排ガス、ばいじん、窒素酸化物、硫黄酸化物

反応工学

(Reaction Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

反応工学は、反応装置を合理的に設計し、操作するための工学です。本講義では、反応速度や反応率、反応装置と設計法、反応操作の最適条件の選定について学習する。

教科書 /Textbooks

培風館 「改訂版 反応工学」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学同人 「ベーシック化学工学」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 化学反応の分類
- 2 . 反応器の分類
- 3 . 反応速度論の基礎
- 4 . 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法 (定容系単一反応)
- 5 . 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法 (定容系複合反応)
- 6 . 回分式反応器による反応速度式の実験的解析～積分法 (容積変化を伴う反応) ・ 微分法・ 半減期法
- 7 . 気相反応における全圧追跡法
- 8 . 前半まとめ
- 9 . 回分反応器の設計
- 10 . 半回分反応器の設計
- 11 . 流通式槽型反応器の設計
- 12 . 回分反応器と流通式槽型反応器の比較
- 13 . 直列流通式槽型反応器の設計
- 14 . 管型反応器の設計
- 15 . 管型反応器と流通式槽型反応器の比較

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義をよく復習し、演習問題をきちんとこなすこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、化学工学系の科目の中で、反応工学と呼ばれる分野を学習します。講義を聞くのみでは理解が難しいかもしれませんが、自分で演習問題を繰り返し解くことで、必ず理解できます。

キーワード /Keywords

回分式反応器、流通式槽型反応器、管型反応器、反応速度論

分離工学

(Separation Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

目的物質を混合物から分離する操作は、化学工業プロセスの中核をなす重要な操作である。また、分離操作は、化学工業のみならず、製造業や環境保全においても不可欠である。この講義では分離法の中でも特に重要な、ガス吸収・蒸留・抽出・吸着について、化学工学的な観点から学習する。

教科書 /Textbooks

化学同人 「ベーシック化学工学」
培風館 「基礎化学工学」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

朝倉書店 「化学工学通論 I」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 物質の分離の原理と方法
2. ガス吸収 (Henryの法則、二重境膜説)
3. ガス吸収 (吸収装置、充填塔)
4. ガス吸収 (吸収塔の高さ)
5. 吸着 (吸着平衡)
6. 吸着 (速度、回分吸着)
7. 吸着 (固定層吸着)
8. 前半総括
9. 蒸留 (気液平衡、ラウールの法則)
10. 蒸留 (単蒸留、フラッシュ蒸留)
11. 蒸留 (精留)
12. 抽出 (液液平衡)
13. 抽出 (単抽出、多回抽出)
14. 抽出 (向流多段抽出)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義をよく復習し、演習問題をきちんとこなすこと。
本講義の理解のためには、基礎化学工学・化学工学を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、化学工学系の科目の中で、分離工学と呼ばれる分野を学習します。講義を聞くのみでは理解が難しいかもしれませんが、自分で演習問題を繰り返し解くことで、必ず理解できます。

キーワード /Keywords

ガス吸収、吸着、蒸留、抽出

構造化学

(Structural Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

物質の構成単位である微視的粒子（原子・分子）について、量子化学の観点から解説する。微視的な粒子の世界を支配する法則について学び、物質の構造や反応といった、化学基礎となる問題を理解する能力を養う。

教科書 /Textbooks

物理化学、David W. Ball、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

物理化学、D.A.McQuarrie、J.D.Simon、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1原子スペクトル
- 2原子構造
- 3光電効果
- 4量子論
- 5水素原子についてのポールの理論
- 6ドブロイの式
- 7波動関数
- 8不確定原理
- 9シュレーディンガー方程式
- 10箱の中の粒子
- 11三次元の箱の中の粒子
- 12水素原子のシュレーディンガー方程式
- 13水素原子の波動関数
- 14スピン、多電子原子
- 15演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加:20%
最終試験:80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

電卓を持参すること。
微視的粒子の運動は、一般の物理学で用いられるニュートン力学の法則に従わず、量子力学の法則に従う。本科目を勉強するとき、ニュートン力学の概念を捨て、量子力学の概念を受け入れることが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

微視的粒子の世界は我々が日常暮らしている世界（巨視的世界）とはまったく異なっている。このように物質の微視的世界では、量子の概念を用いて物質中の電子のエネルギー準位、元素の周期表を統一的に説明できる

キーワード /Keywords

機器分析

(Instrumental Analysis)

担当者名 /Instructor 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

環境情報把握には、微量のサンプルを多数、高速分析する必要があり、分析機器を駆使する必要はますます高まっている。本講義では計測分析センターに設置してある分析機器群を中心に、各種分析機器の原理を解説し、前処理を含め分析技法の概略を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

機器分析のてびき 化学同人 泉美治他 監修

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

粉末X線解析の実際 中井 泉(編集), 泉 富士夫(編集) 朝倉書店
 ベーシック機器分析化学 日本分析化学会 近畿支部編 化学同人
 走査プローブ顕微鏡と局所分光 重川秀実, 坂田亮, 河津璋 裳華房
 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクダクシヨン
- 2 蛍光X線
- 3 単結晶X線回折
- 4 粉末X線回折
- 5 電子顕微鏡
- 6 EPMA
- 7 TG-DTA / DSC
- 8 AFM/STM
- 9 FT-IR
- 10 ESCA/軟X線分光分析
- 11 ICP / 原子吸光
- 12 NMR
- 13 比表面積測定と粒子径分析
- 14 電気化学測定法
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は特に要しない。授業で使用するpptファイルはひびきのe-learningシステム上または講座HPにて配付するので、復習などで必要であれば各自ダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文研究などで必要となる各種分析機器の原理、前処理、測定限界、精度などについて講義します。

キーワード /Keywords

水質工学

(Water Quality and Engineering)

担当者名 /Instructor 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

河川、湖沼、海域などの水環境を保全するためには、水質を把握し制御することが必要となる。講義は、水環境の実態を把握するために必要不可欠な水質について分析試験方法も含めて工学的な視点から進める。これらをもとに、水を利用するため、および水環境を理解するための基本的な反応・解析の考え方を習得する。

教科書 /Textbooks

なし
必要に応じて参考資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 水環境と水質の概要
2. 水環境と水質汚濁
3. 水質汚濁の現状
4. 水質汚濁の指標
5. 各種水質基準
6. 水の物理的性状
7. 水の化学的性状
8. 水使用の合理化(1): 概要
9. 水使用の合理化(2): 循環利用
10. 水質汚濁の機構と水理
11. 排水処理の分類
12. 固形物の除去
13. 有機物の除去
14. 有害物質の処理(1): 概要
15. 有害物質の処理(2): 具体例

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・小テスト 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

電卓を持参すること。
また、化学、生物学は物理学や数学を基礎とするところが多い。そのため本講義においても参照することが多いので、高等学校や大学における物理や数学を習得しておくこと。
用語・公式・定義、および原理に関わる基礎事項が多いので、確実な理解のためには復習が重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習問題を多くとりあげるので、知識が身につきます。

キーワード /Keywords

先端材料工学

(Advanced Materials)

担当者名 /Instructor 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~), 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

大きな産業発展は材料に基づくことが多く、これまで様々な材料の開発により社会および生活環境が大きく変化している。その中でナノテクノロジーは、バイオ技術、情報通信技術に並んで、地球の未来を左右する環境・エネルギー問題と深く関わる核心技術である。本講義では、ナノテクノロジーの基盤となるナノ素材の合成、物性などについて解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンスとイントロダクション
- 2 多孔質材料
- 3 ゼオライトの構造と物性
- 4 ゼオライトの合成
- 5 新しい多孔質材料
- 6 論文発表I
- 7 論文発表II
- 8 前半総括
- 9 機能をもたらす分子：分子認識
- 10 機能をもたらす分子：超分子化学
- 11 機能をもたらす分子：ナノ粒子
- 12 分子機能の設計：自己組織化
- 13 自己組織化に基づいた界面設計
- 14 新しいセンサ素子
- 15 後半総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境分析化学

(Environmental Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

本教科では、分析化学を履修した学生を対象にして、法律に定められた分析法（公定法）を中心に環境汚染物質の分析法を教育する。環境試料中の様々な汚染物質の分析に使用される分析機器の原理、同じ物質でも大気、水質、土壌など試料毎に異なる前処理法を具体的に学ぶ。また、信頼できる分析値を得るために必要な分析精度管理を理解し、正しい測定値を得るために必要な知識だけでなく、分析依頼者として分析値を評価する知識とノウハウを習得する。

教科書 /Textbooks

授業時にテキストや参考資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) 環境の化学分析, 日本分析化学会北海道支部, 三共出版, 1998
- 2) 環境と安全の科学 演習と実習, 及川紀久雄他, 三共出版, 2007
- 3) 環境分析技術手法, 日本環境測定分析協会, しらかば出版, 2001
- 4) Environmental Chemical Analysis, B.B.Kebbekus, S. Mitra, Chapman & Hall/CRC, 1998

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス, 基準項目と分析法 (調査の目的・意義, 調査計画, 調査項目, 調査地点, 調査時期)
- 2 調査目的, 計画とサンプリング (準備, 器具, 洗浄法, 容器, 採取・運搬・保存)
- 3 紫外・可視吸光度法, 原子吸光度法
- 4 クロマトグラフィー (GC)
- 5 クロマトグラフィー (HPLC, IC)
- 6 質量分析法 (GC/MS)
- 7 質量分析法 (LC/MS, ICP-MS)
- 8 前半のまとめ・中間試験
- 9 水質一般項目 (COD, BOD, SS, T-N, T-P, ECなど)
- 10 水質の有害項目前処理 (重金属, VOC, CNなど)
- 11 水質の有害項目前処理 (半揮発性化学物質)
- 12 大気有害項目前処理
- 13 土壌, 底質, 生物の有害項目前処理
- 14 分析精度管理
- 15 検出値の評価・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテストおよびレポート: 50%, 中間試験: 20%, 期末試験: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミニテスト: 上記の2~15回の授業で実施。1回前の授業内容から出題する。中間試験: 前半の授業内容から出題する。期末試験: 全15回の授業内容から出題する。

ミニテストの結果が悪くなければ、再履修は不可避である。集中して聴講すると共に、配布したテキストや資料を用いて予習・復習(特に復習)を欠かさずに行うこと。

参加型授業・考える授業を目指し、授業中に質問するので、自分の考えを必ず発表すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境質を評価するための種々の分析について、実際に使用されている方法を中心に講義する。環境分野に就職を希望する学生だけでなく、環境測定値を評価するために必要不可欠な知識である。履修者はしっかりと勉強してほしい。

キーワード /Keywords

化学演習

(Exercises in Chemistry)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19 ~)
西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

これまでに学んできた物理化学、有機化学、無機化学など、化学の基本的な学問領域について、演習を行うことにより一層理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 化学演習 1 基礎化学 (SI単位、圧力の計算)
- 2 化学演習 2 化学工学 (液液平衡と三角線図)
- 3 化学演習 3 化学工学 (液液平衡におけるこの原理)
- 4 化学演習 4 化学工学 (液液平衡に関する演習)
- 5 化学演習 5 基礎科学 (濃度の計算)
- 6 化学演習 6 基礎科学 (気体および溶液の計算)
- 7 化学演習 7 基礎科学 (酸塩基反応)
- 8 化学演習 8 物理化学 (単位の換算と次元)
- 9 化学演習 9 物理化学 (物質収支とエネルギー収支)
- 10 化学演習 10 物理化学 (物質移動と反応)
- 11 化学演習 11 有機化学 (NMR分光法による構造決定)
- 12 化学演習 12 有機化学 (IR分光法とその解析)
- 13 化学演習 13 有機化学 (スペクトル解析演習)
- 14 化学演習 14 物理化学 (管内流動)
- 15 化学演習 15 物理化学 (粒子の沈降)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の演習 60%
レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義中に配付した資料により演習を行う。2年生までに履修した内容を復習しておくことが望ましい。
演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~)
原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~) , 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

環境分析の必須項目である一般項目 (SS、TOC、ガス分析など) 分析から、金属成分および有機物成分の分析 (原子吸光分析、ガスクロ分析、HPLC分析、イオンクロマト分析など) に至るまで、水質、大気および土壌の環境指標項目の定性及び定量分析の実習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。実験書を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。また、実験室に参考書を配備している。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 実験説明会、安全指導、実験準備、データの統計的取扱説明
- 2 金属イオンのイオン交換分離と原子吸光法による定量分析
- 3 キレート滴定法による金属イオンの定量分析
- 4 ゼオライトの合成と水の硬度測定
- 5 金属含有廃水の処理
- 6 ガスクロマトグラフィー
- 7 室内汚染物質 (ベンゼン・アルデヒド類) の定量分析
- 8 粒子状物質の定量分析
- 9 浮遊物質 (SS)、n-ヘキサン抽出物質測定
- 10 全有機炭素量 (TOC)、全窒素量 (TN) 測定
- 11 窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx) の定量分析
- 12 三成分液液平衡
- 13 土壌分析 1週目
- 14 土壌分析 2週目
- 15 総括 (実験室清掃、後かたづけを含む)

成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作の実施 : 60%
レポート : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず、事前に実験書の予習を行うこと。実験を始める前までに、実験操作の手順等を実験ノートに書いておくこと。全ての実験について出席した者で、かつ、全てのレポートを提出した者のみ、成績評価対象となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境分析は、水質、大気、土壌 (底質)、騒音の分析から成り立っている。このうち、環境分析実習では、主として水質、大気、土壌分析について様々な分析手法を用いて行う。これらを知得すれば、環境分析のエキスパートとなることのできる。全ての項目についてしっかり学習して欲しい。

キーワード /Keywords

環境分析、定性分析、定量分析、機器分析、水質分析、大気分析、土壌分析

電気化学

(Electrochemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~), 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

酸化還元やイオンの移動現象に関連する電気化学反応は、電池やメッキなどの日常生活にも関連が深い。化学分析法としても広く利用されている。この講義では、溶液中の酸化還元反応について学習し、化学分析や電池反応を行う上で重要な電気化学反応の基礎について習得する。また、ポテンシオメトリー、pH電極、イオンセンサなど電気化学分析法や様々な電池、電気化学の応用技術について講義する。

教科書 /Textbooks

環境分析化学 (合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田共著、三共出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎からわかる電気化学 (泉、石川、片倉、青井、長尾 共著、森北出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 電気化学概論
- 2 酸化還元反応 - ネルンスト式 -
- 3 酸化還元電位 - 電池の構成と起電力 -
- 4 酸化還元平衡 - 自由エネルギーと平衡定数 -
- 5 酸化還元反応・電位・平衡の演習
- 6 電気化学分析法 - 原理、種類 -
- 7 電気化学分析法 - 修正ネルンスト式 -
- 8 電気化学分析法 - 構成、応答特性 -
- 9 電気化学分析法の演習
- 10 電極と電解液界面の構造
- 11 電極反応の速度
- 12 電極反応速度の演習
- 13 半導体電極 (光電気化学)
- 14 燃料電池、二次電池
- 15 電気化学応用分野の演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：80%

演習問題解答：20%

※再試験の受験資格は、期末試験を受験しており、かつ、出席が2/3以上、かつ、総合評価で合格する可能性がある者

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

期末試験について：酸化還元反応・電位・平衡や電気化学分析法に関する演習問題を含めて、電気化学の基礎と応用についてしっかり勉強しておくこと。

講義は教科書の他、演習問題やデータ集などのプリントを配布して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

河川や廃水中などの環境モニタリングにおいて、特定の無機イオンや有機物を直接分析する場合に用いられるのがポテンシオメトリーやアンペロメトリーなどの電気化学分析法である。また、現在最も注目されている電気化学の応用技術にリチウムイオン二次電池や燃料電池、太陽電池などがある。このような種々の電気化学の基礎となる酸化還元反応・電位の理論から具体的な応用例までをしっかりと理解して欲しい。

キーワード /Keywords

酸化還元反応、酸化還元電位、酸化還元平衡、電気化学分析法、電極反応、二次電池、燃料電池、電気化学キャパシター、光触媒、電気めっき

エネルギー化学プロセス

(Environments & Energy)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

産業構造としての「環境」をエネルギー消費量との関係で理解する。また、化学変換とエネルギー変換は環境問題の一つの解答であるという観点から、工業化学の上での具体的問題を取り上げることで、化学プロセス工学を実用学として演習的に理解させる。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布資料

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 化学プロセスの3因子
3. 化学プロセスの基本コンセプト
4. 物質収支
5. エネルギー収支
6. 石油化学プロセス
7. 水素化分解、接触分解
8. 石炭からの液体燃料を合成するシステム
9. フィッシャー・トロプシュ合成
10. 天然ガス化学プロセス
11. リフォーミング
12. メタノール合成
13. 低級オレフィン、低級パラフィン
14. バイオマスエネルギー
15. 期末演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習、小テスト50%
期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を予測して関係する物質名・反応を調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

触媒工学

(Catalytic Engineering)

担当者名 /Instructor 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

【概要】

触媒は化学工業において不可欠なものです。最近では環境改善やグリーンケミストリーなどに触媒技術が使用され、その重要性はますます増大しています。この授業では、化学原料や化学品の生産プロセスと触媒の関係、それぞれの反応プロセスにおける触媒の役割、環境分野における触媒の応用例などについて、触媒工学の基礎を学びます。

【学習目標】

- ・ 触媒作用のメカニズムを理解して反応速度式を導出できる。
- ・ 実用触媒の考え方を知り、工業プロセスにおいて触媒に求められる役割を説明できる。
- ・ 代表的な触媒反応プロセスを知り、各プロセスにおける触媒の機能を説明できる。
- ・ 固体触媒の調製やキャラクタリゼーションの方法を知る。

教科書 /Textbooks

新しい触媒化学 新版 (菊地英一・多田旭男・服部英・瀬川幸一・射水雄三 著) 三共出版 2,940円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 触媒化学 第2版 (御園生誠・斉藤泰和 著) 丸善出版 3,150円
- 触媒化学 (化学マスター講座) (江口浩一 編著) 丸善出版 3,570円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 触媒化学の概要
- 3 触媒反応プロセス
- 4 エネルギーと化学原料製造 1 【石油精製】
- 5 エネルギーと化学原料製造 2 【水素製造、天然ガス利用】
- 6 不均一系固体触媒反応 1 【水素化反応、酸化反応】
- 7 不均一系固体触媒反応 2 【酸触媒反応】
- 8 均一系触媒反応 1 【錯体触媒の基礎、オレフィン重合】
- 9 均一系触媒反応 2 【酸化反応、不斉合成】
- 10 環境関連触媒
- 11 固体触媒の材料と調製法
- 12 吸着と不均一系触媒反応速度式
- 13 反応速度式の演習
- 14 固体触媒のキャラクタリゼーション
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%
問題演習：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書「新しい触媒化学 (三共出版)」を購入して持参すること。
化学熱力学、化学平衡と反応速度論、および、有機化学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

触媒へ興味をもってもらうことを第一に考えて講義を行います。
化学工業における資源の流れや触媒の役割を理解することは、触媒化学分野で研究開発をおこなうために必要です。

キーワード /Keywords

触媒機能、石油化学工業、石油精製、有機工業化学、化学品製造、固体触媒、錯体触媒、環境触媒

エネルギー資源化学

(Process Chemistry for Resource Utilization)

担当者名 /Instructor 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

【概要】

人類が豊かな生活を維持しつつ秩序ある産業を発展させるためには、エネルギーの現実と将来の問題を正しく理解しておく必要があります。本授業では、石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料や、再生可能エネルギー・核エネルギーなどの非化石エネルギー、および電力についての基礎知識を身につけます。資源化学やエネルギー工学の立場から低炭素社会・循環型社会を実現するための解決策を自発的に考えられるようになることを目指します。

【学習目標】

- ・ エネルギー需給の現況とエネルギーの流れを理解し、なにが問題かを説明できるようになる。
- ・ 化石燃料の種類と用途を知り、それぞれの特徴を説明できるようになる。
- ・ 発電システムの種類と原理を説明できるようになる。
- ・ 再生可能エネルギーの種類と限界を説明できるようになる。
- ・ 未利用資源の効率的利用と省エネルギーについて考えられるようになる。

教科書 /Textbooks

資源・エネルギー工学要論 (第3版) (世良力 著) 東京化学同人 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新・有機資源化学-エネルギー・環境問題に対処する (平野勝巳、古川茂樹、菅野元行、真下清、鈴木庸一、山口達明 著) 三共出版 2,800円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 エネルギー資源と需給
- 3 化石燃料1 【石炭】
- 4 化石燃料2 【石油】
- 5 化石燃料3 【天然ガス】
- 6 バイオマスエネルギー
- 7 有機化学工業・化学品製造
- 8 中間試験
- 9 エネルギー変換の基礎
- 10 電力1 【電気エネルギー、火力発電】
- 11 電力2 【燃料電池・二次電池】
- 12 自然エネルギー1 【水力・地熱・風力など】
- 13 自然エネルギー2 【太陽エネルギー】
- 14 核エネルギー
- 15 エネルギー変換のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・・・50%、期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中間試験・期末試験について：教科書「資源・エネルギー工学要論」の該当範囲をしっかりと勉強しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化石燃料は有限であり、かつ地球温暖化などの環境問題をもたらす可能性を否定できません。持続可能な社会を実現するためには、エネルギー資源の種類と特徴を知り、バランスを考えながら、それらをできるだけ効率的に用いていくことが大切だと思います。

キーワード /Keywords

石炭、石油、天然ガス、自然エネルギー、太陽光発電、燃料電池、生物資源、グリーンサステナブルケミストリー

地圏環境論

(The Geosphere Environment)

担当者名 /Instructor 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

地圏は、土と水（地下水）で構成され、動植物生存や人間活動（農産物生産、都市形成など）の基盤となっている。土壌（地圏の特に表層）は水・物質・熱の保持・輸送・浄化機能がある。地圏環境を構成する土壌のこういった物理・化学性に係る基礎を学ぶことを目的として、土壌の性質、水分・化学物質移動などの基礎原理を理解できるように学習する。

教科書 /Textbooks

土壌物理学（宮崎毅ほか著、朝倉書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 土と水の性質
- 3 土の保水性
- 4 土中の水分移動 I (ダルシー則、飽和流)
- 5 土中の水分移動 II (不飽和流など)
- 6 土中の溶質移動 I (基本的メカニズム)
- 7 土中の溶質移動 II (拡散、移流、吸着など)
- 8 中間まとめ・演習
- 9 土中の熱移動
- 10 土中のガス移動
- 11 移動現象の基礎方程式 I (飽和・不飽和流)
- 12 移動現象の基礎方程式 II (移流分散、熱移動)
- 13 移動現象の基礎方程式 III (ガス拡散)
- 14 まとめ・演習
- 15 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 40%
(学習態度・演習等)
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前回の授業内容の復習を行うこと。関数電卓を持参すること。
適宜、演習を実施し、レポートの提出を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境を構成する大気・土・水の中で土壌物理学は、土と水の一部を取り扱う学問です。土壌に係る現象の基礎を学ぶことで、より地圏環境問題を深く理解できるようになるでしょう。

キーワード /Keywords

水処理工学

(Water Treatment Engineering)

担当者名 /Instructor 石川 精一 / Seichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

水環境の保全と水資源を有効に活用するため、既存の上水道・下水道処理技術や食品廃水、金属廃水を始めとする各種産業廃水処理技術、それに付随する污泥処理技術、最新の高度水処理技術及び水質測定技術等について、それを構成している基礎的な技術について学習する。

思考・判断・表現・水処理等における課題を発見し、分析して解決する力を養う。
 関心・意欲・態度・水処理等に関心や意欲を持ち、実践力・生涯学習力を養う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概論
- 2 沈降分離
- 3 凝集分離
- 4 浮上分離
- 5 污泥脱水
- 6 活性汚泥法
- 7 散水ろ床法
- 8 嫌気性消化法
- 9 活性炭吸着
- 10 イオン交換
- 11 電気透析法
- 12 逆浸透法
- 13 膜処理
- 14 光化学反応
- 15 塩素処理

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40%
 小テスト・・・30%
 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数式がかなり出るが、主に、水処理関係操作の基礎的知識及び技術を学ぶものである。

キーワード /Keywords

固液分離 生物処理 物理化学的処理 化学処理

高分子化学

(Polymer Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

高分子物質は、今日の生活はもとより、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなど、科学の最先端においても必要不可欠な物質である。したがって、高分子化学の基礎を習得することは、将来、化学に関わる研究者、技術者にとって必要不可欠である。本講義では、高分子化合物の生成や反応及び構造など、高分子化学の基礎について講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎高分子科学 高分子学会編 東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 高分子の化学構造
3. ラジカル重合
4. ラジカル共重合
5. イオン重合
6. 重縮合
7. 高分子の反応
8. 分子量と分子量分布
9. 孤立鎖の広がり1 二乗平均末端間距離
10. 孤立鎖の広がり2 回転半径
11. ガウス鎖
12. 高分子溶液の熱力学(格子理論)
13. 浸透圧・蒸気圧・相平衡
14. 高分子固体の構造
15. 高分子の結晶構造、結晶化の動力学

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%
全範囲にわたり出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

有機化学、物理化学の基礎を復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エネルギー循環化学演習

(Chemical Engineering , Energy and the Environment)

担当者名 /Instructor エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

化学が関連してかつ地球規模で進行している環境問題に対して、問題認識とともに具体的対策技術を、反応化学、プロセス化学の面から、最新のトピックスをまじえて演習する。環境化学プロセス工学としての環境論、専門的知見ともの考え方・考え方を習得させる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 演習ガイダンス
- 2 . エネルギー循環化学導入
- 3 . エネルギー循環化学基礎演習
- 4 . エネルギー循環化学演習
- 5 . 循環化学基礎演習
- 6 . 循環化学演習
- 7 . 分離化学演習
- 8 . 精製工学演習
- 9 . 触媒反応化学演習
- 10 . 触媒工学演習
- 11 . エネルギー化学基礎演習
- 12 . エネルギー化学演習
- 13 . 環境化学プロセス工学基礎演習
- 14 . 環境化学プロセス工学演習
- 15 . 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習・課題 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究室配属先および卒論審査会での内容を理解する。
全員参加。授業の順序が変わる可能性あり。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学に関しての卒論準備に取り掛かりましょう。

キーワード /Keywords

卒研準備

エネルギー循環化学実習

(Experiments in Chemical Engineering , Energy and Environments)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 2学期 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

エネルギー、資源循環等に関連する化学プロセスや物質合成の実験技術、環境保全に関する技術を習得する。

教科書 /Textbooks

下記(1)群のゼオライト触媒による芳香族炭化水素のアルキル化反応
下記(2)群のゼオライト合成とキャラクタリゼーション
下記(3)群の有機リン農薬分析
に関して、別途テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新しい触媒化学(新版) 菊池英一他 三共出版 2800円+税
- 粉末X線解析の実際(第2版) 中井泉, 泉富士雄 朝倉書店 2009年 5800円+税
- 機器分析のてびき(第2版)(1)~(3)及びデータ集 化学同人 1996年 各1200円+税 (データ集 1000円+税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実験は大きく以下の3テーマからなり、学生は3グループに分かれて順次3テーマを行う。

- (1)群： 固体酸触媒としてゼオライトを用いて、プロピレンをアルキル化剤としたトルエンのイソプロピル化反応を気相法で行う。固定床流通式反応装置を用いた固体触媒の性能評価方法を学び、分析機器や装置の使用法を身につけ、原料転化率や生成物収率を求める。結晶性アルミノケイ酸塩であるゼオライトの固体酸触媒機能について理解を深める。
- (2)群： 複数の合成条件でゼオライトを水熱合成し、市販のZSM-5ゼオライトとの比較を行う。Na型を合成後、水素置換を行い、粉末X線回折測定にて構造同定、窒素ガス吸着法にて比表面積ならびに細孔分布測定、フィールドエミッション形走査型電子顕微鏡にて外形観察、誘導結合プラズマ発光分光分析計にて組成定量を行う。得られたデータを総合して性能を推察する。
- (3)群： 有機リン系農薬のJIS法に準拠した分析法を学習する。水試料から対象物質の有機リン系農薬6種を固相抽出し、キャピラリーGC-FPDで測定する。実験内容は、検量線作成、添加回収試験および未知試料の分析などである。これらの実験を通して、微量化学物質分析およびGC測定の基礎、および精度管理を身につける。

以上のほか、化学または環境関連の企業や施設の見学を1日実施する。

成績評価の方法 /Assessment Method

実験への取り組み態度およびレポートにより行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記(3)群の有機リン系農薬の分析に関しては、3年前期(1学期)の「環境分析化学」と本実験テキストを熟読した上で実験に臨むこと。単に実験テキストに従って操作するだけでは、真の技術が身につかず、応用も利かない。
実験である以上、出席し実験操作を行うことは履修の大前提である。基本的に就職活動等による欠席は認めていないので就職活動を行う学生はスケジュールに留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学科としての最後の実験である。これまでの学びの成果を活かして卒業研究につながる適切な実験及び熟考した考察を期待する。

キーワード /Keywords

化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

担当者名 飯田 汎 / Hiroshi IIDA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 第2年次生、第3年次生も受講できます。

授業の概要 /Course Description

- (1) 21世紀の地球社会を持続発展的に営むために、化学産業はどうあるべきか。
 ・ 21世紀社会の展望と、産業の役割について、また、技術者の使命感について語ります。
 ・ 化学産業に、資源・エネルギー、材料、生命工学、環境など広義の化学産業技術を含みます。
- (2) 未来の展望を欠いたままで、若い技術者に、技術進歩だけを語ることはできません。
 現代社会がかかえる様々な問題を理解し、多くの課題を超えたくうえで、技術者のリーダーシップを發揮し、新しい社会を作り出すために取り組むべき課題を具体的に提示します。
- (3) 15回の講義を通して、最後に以下の質問に答えられるような課題の提示を示します。
 * 技術者としての動機づけはできたか
 * 社会と技術は密接不可分の関係にあることを理解できたか
 * 上昇志向で物事に取り組むことのキッカケが育まれたか

教科書 /Textbooks

飯田汎 『岐路に立つ日本の行方 -再び開拓・創造の躍動感を-』 丸善プラネット (2010) ※必携

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 飯田汎 『ニッポン技術者の使命』 丸善 (2005)
 ○東千秋・飯田汎・雀部博之 『技術革新を支える物質の科学』 放送大学教育振興会 (2008)
 田島慶三 『現代化学産業論への道』 化学工業日報社 (2008)

化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (1) 6回目の危機にある日本の行方 <日本のビジョン>
"文化・知識・環境融合社会"の創造
- 【第2回】1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (2) 社会と産業をめぐる5つの潮流 <技術者のミッション>
- 【第3回】2.人間社会と化学の役割
化学産業の役割と科学技術の使命 ①資源・エネルギーと化学 ②食料問題と化学
- 【第4回】2.人間社会と化学の役割
化学産業の役割と科学技術の使命 ③健康と化学 ④生活と化学
- 【第5回】3.産業構造の変革にむけた化学産業の役割
化学産業の歴史と特徴 ①近代化学工業発展の足跡 ②わが国の化学産業の現状
- 【第6回】3.産業構造の変革にむけた化学産業の役割
化学産業の歴史と特徴 ③化学産業の特徴 ④戦後の経済を支えた化学工業
- 【第7回】4.イノベーションとパラダイムの転換 の意義
(1) 科学技術とイノベーション (2) 成功度仮説とその検証 (3) グローバル化の課題
- 【第8回】5.現代社会とイノベーション
文化・知識・環境融合社会の形成にむけた課題(事例)
(1) 知識社会とイノベーション
①記録・記憶技術 ②バイオ・ゲノム科学 ③ ナノテクノロジー
- 【第9回】5.現代社会とイノベーション
(2) 環境調和社会とイノベーション
①物質の循環とプロセス・イノベーション
②未来のエネルギー資源とその利用
- 【第10回】5.現代社会とイノベーション
(3) 生活文化社会とイノベーション
①高分子材料の高性能・高機能化
②金属・無機材料の高性能化・高機能化
- 【第11回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (1) グローバル世界の国々と日本
- 【第12回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (2) 日本人の心 Jマインド
- 【第13回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (3) 日本の伝統文化と化学技術
- 【第14回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (4) 21世紀産業の開拓と化学技術
- 【第15回】まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト、自由記述	40%
最終テスト	60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講前に、一瞬、以下のことを考えて、受講に臨んでください。

- * 技術者としての動機づけ * 現代社会の姿に対する認識 * 上昇志向をもった取り組み姿勢

4～7月の毎月、2日間にわたって4コマの講義を行います。

開講日時については時間割を参照して下さい。

- 4月 4コマ 岐路に立つ日本と技術者の使命(1、2回)
人間社会と化学の役割(3、4回)
- 5月 4コマ 産業構造の変革にむけた化学産業の役割(5、6回)
イノベーションとパラダイムの転換 の意義(7回)
現代社会とイノベーション(8回)
- 6月 4コマ 現代社会とイノベーション(9、10回)
創造改革で世界のイニシアティブを(11、12回)
- 7月 3コマ 創造革命で世界のイニシアティブを(13、14回)
まとめ(15回)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会と技術は密接不可分な関係にあります。そのために、現代社会の姿についての理解が不可欠です。

こうした認識を深めるためにも、できるだけ多くの、仲間とともに参加してみてください。

本講義を受講することで、さまざまな知識とともに、社会人としての人格の大切さを身につけられるよう、一緒に考えたいと思います。

キーワード /Keywords

化学産業、化学技術、文化・知識・環境融合社会、イノベーション、パラダイム転換、グローバル教育、

化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

キーワード /Keywords

日本人の心、Jマインド、成功度仮説、化学、物質、エネルギー、生命工学、環境

資源循環工学

(Sustainable Resource Engineering)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

※お知らせ/Notice 第3年次生も受講できます。

授業の概要 /Course Description

豊かで住みよい生活を営み、様々な生産活動や社会活動を持続可能なものとするためには、環境への負荷を最小にして、有限の資源を最大限に活用する資源循環型社会を形成していくことが必要となる。このことを技術面から理解することを目標に、排水と有機性廃棄物の処理システムならびに金属とプラスチック廃棄物のリサイクルシステムについて、原理と基本的考え方を学ぶ。なお、排水と有機性廃棄物の分野では、私たちの社会で最も広く使われている生物学的処理システムに特に焦点を当てて講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生物学的処理システムの化学1 (窒素除去)
- 2 生物学的処理システムの化学2 (有機物除去)
- 3 汚濁物質 (有機物・栄養塩類) を分解する微生物の種類と処理プロセス
- 4 微生物の増殖と汚濁物質分解の関係 (CODの考え方、汚泥の生成)
- 5 生物学的排水処理システムの計算方法1 (ケモスタット)
- 6 生物学的排水処理システムの計算方法2 (活性汚泥法)
- 7 排水・有機性廃棄物の資源化技術1 (完全混合とプラグフロー)
- 8 排水・有機性廃棄物の資源化技術2 (メタン発酵システム)
- 9 金属・プラスチック類のリサイクル技術概要
- 10 金属・プラスチック類のリサイクルに関する考え方
- 11 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術1 (粉砕)
- 12 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術2 (物理的分離1)
- 13 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術3 (物理的分離2)
- 14 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術4 (物理化学的分離)
- 15 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術5 (化学的分離)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 50%
試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義の要点をノートに必ずまとめること。また、これによって授業で学習した数式・反応等を理解すること適宜、演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

資源のリサイクルに関する科目を予め受講しておくことが望ましい。

キーワード /Keywords

数値計算法

(Numerical Computation Methods)

担当者名 /Instructor 清田 高德 / Takanori KIYOTA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科

授業の概要 /Course Description

コンピュータを利用した数値計算、数値解析、数値シミュレーションは、工学のあらゆる分野において、重要な役割を果たしている。本科目では、コンピュータを使った数値計算に必要な数値計算法および数値解析の基礎と、微分方程式や連立一次方程式の解法、数値積分法などの基本的なアルゴリズムを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「数値計算法」第2版新装版 (三井田惇郎・須田宇宙著、森北出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「Excelによる数値計算法」(趙華安著、共立出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数値計算とは
- 2 誤差、2次方程式の根の公式
- 3 非線形方程式の反復解法(1) : 2分法
- 4 非線形方程式の反復解法(2) : ニュートン法
- 5 連立1次方程式の解法(1) : ガウス・ザイデル法
- 6 連立1次方程式の解法(2) : ガウス・ジョルダン法、LU分解
- 7 関数補間と近似式(1) : ラグランジュの補間法
- 8 関数補間と近似式(2) : 最小2乗法
- 9 数値積分
- 10 常微分方程式(1) : オイラーの前進公式
- 11 常微分方程式(2) : ルンゲ・クッタの公式
- 12 常微分方程式(3) : 高階常微分方程式と連立常微分方程式
- 13 常微分方程式(4) : 境界値問題
- 14 浮動小数点数
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2回 60% 2回とも提出することが条件
 期末試験 40% 得点が低い場合は不合格
 演習 未提出は減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

線形代数学、微分・積分、微分方程式の知識を前提とする。
 講義中の演習で使用するので、電卓を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

機械システム工学科の学生は、「数値計算法演習」とセットでの受講を強く勧めます。「数値計算法演習」は、本講義で習うアルゴリズムのプログラミング演習なので、理解が深まります。

キーワード /Keywords

環境保全学

(Environmental Conservation)

担当者名 /Instructor 周 国云 / Guoyun ZHOU / 非常勤講師, 竹内 真一 / Shinichi TAKEUCHI / 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

都市や国土の緑地保全、景観保全、屋上緑化空間の形成・維持など、豊かな緑と生物の多様性を確保した生態系からなる緑地を創造する技術および維持管理の手法を学ぶ。また、土壌、水、生態系、人間活動等、多様な空間情報をデータベースとして管理し、専門家のみならず多くの関係者と情報共有を可能とし、また様々な解析を可能とするツールである地理情報システム (GIS) の修得は、環境保全に必須といえる。これについては、多くの演習をこなす。2名の講師が分担して教える。

教科書 /Textbooks

各教員が配付資料を準備する。また、必要に応じて教科書を初回講義で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員の初回講義で指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ビオトープの保全・創出 (I) ビオトープの定義とビオトープの創出事例
2. ビオトープの保全・創出 (II) ビオトープの事例と生き物調査の事例
3. 緑地の創造・造園学 (I) 造園学概説
4. 緑地の創造・造園学 (II) 様々な造園技術の紹介
5. 緑地の創造・造園学 (III) 造園分野の研究紹介と造園施工事例
6. 都市の緑化技術 (I) 環境緑化技術の紹介
7. 都市の緑化技術 (II) 屋上・壁面緑化に関する研究紹介
8. 環境保全と空間情報 (地理情報システム) について
9. GISの基礎知識 (データモデル、ベクトルデータの構造、地理参照)
10. GISデータの表示 (ラベル、分類シンボル、投影法、レイアウト)
11. 検索と解析 (空間検索、属性検索、インターセクト、ディゾルブ、バッファ等)
12. データの作成と構築 (XYデータの追加、自動と半自動データ変換)
13. プロジェクト演習 1 北九州市の土地利用変遷の解析
14. プロジェクト演習 2 地下水汚染の管理システムの作成と運用演習
15. 空間技術 (GIS) を活用した環境保全の未来

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の課題 50%
レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

様々な環境保全事例 (ビオトープ・庭園・緑化事例など) を事前に見ておくこと。
集中講義で開講する。後半は、パソコンを操作しながら講義と演習を行う。GISを利用可能なパソコンの台数に応じて、受講者数を制限することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

微生物学

(Microbiology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

土壌、河川、海、空気中など地球上の至るところに微生物は存在しており、その微生物の種類は約20万種ともいわれている。微生物は多種多様な物質を栄養源として生育していることから、通常では高等動植物が存在できない極限環境にも幅広く生息している。本講義では、微生物の種類と基本的な性質について解説する。更に微生物は様々な工業分野で広く利用されており、私たちの暮らしに欠かせないものであることを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ブラック微生物学 (丸善株式会社)、林英生、岩本愛吉、神谷茂、高橋秀実監訳、1993年、7900円
- バイオのための基礎微生物学 (講談社サイエンティフィク)、扇元敬司著、2002年、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 微生物の拮抗作用と共存作用
2. 微生物の分類と命名
3. 細菌の構造と生活環
4. アーキア (古細菌)
5. 食中毒の分類と微生物
6. 様々な食中毒細菌I【感染型食中毒】
7. 様々な食中毒細菌II【毒素型食中毒】
8. 前半の復習、確認試験
9. 微生物の制御 (殺菌と静菌)
10. ウイルス・寄生虫
11. カビの分類と生活環
12. 酵母の分類と生活環
13. 放線菌の分類と機能
14. 微生物の利用I【酒類製造】
15. 微生物の利用II【様々な発酵食品】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 期末試験 (50%)
- 確認試験 (30%)
- 授業態度・課題 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業では幅広い内容を取り上げるため、専門書等を用いて復習することにより理解をさらに深めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義において微生物に関する理解を深め、私たちの暮らしに微生物は欠かせないものであることを認識してほしい。そしてこのような微生物をどのような形で活用していけば、私たちの生活に役立つか考えてほしい。

キーワード /Keywords

微生物、発酵、食品衛生

環境シミュレーション

(Environmental Computer Simulation)

担当者名 /Instructor 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19 ~) , 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

Excelのマクロプログラム (VBA) を使って、複雑と思われた自然現象や社会的事象が実は簡単な法則や規則の積み上げで起こることを理解する。身の回りにある様々な形 (人工物や自然界にある不規則な形) や人間の記憶がコンピュータの中でどう表現するのかを学び、それらを動かす基本的な法則やアルゴリズムを学習する。その際、フラクタルやモンテカルロ法などの確率論的な手法も重視する。自らプログラムを実行して考察するプログラム教材を毎回用意しており、宿題演習することでシミュレーションの面白さを実感できる。

教科書 /Textbooks

講義資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ハーベイ・ゴールド「計算物理学入門」および他の参考書は講義中に指示する。
授業中の演習や宿題に不可欠な部分は講義資料に含まれている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概要：計算機シミュレーションの歴史、差分法 (オイラー法)
- 2 差分法の簡単な例：コーヒーの冷却
- 3 粒子の運動 (2 体問題、3 体問題)：惑星の運動、価電子の運動
- 4 高精度差分法とカオス：高精度時間積分、非線形系、ロジスティック曲線
- 5 幾何学的物体の表現法：メッシュ分割、立体の可視化
- 6 不定形物の表現法：画像、フーリエ変換、電子波動関数
- 7 多粒子系の動力学：気体・個体の分子運動、相変態 (融解)
- 8 確率的現象：ランダムウォーク、拡散
- 9 統計的検定：正確確率法とミルクティー問題
- 10 地理的分布：カーネル密度推定と犯罪率地図作成
- 11 学習モデル：ベイズの定理、神経回路網
- 12 モンテカルロ法：サイコロ積分、最適化問題、光線の屈折
- 13 フラクタル：自己相似性、フラクタル次元、DLAクラスター
- 14 複雑性：臨界現象、人工生命
- 15 全く異なる計算モデル：生態系、銀河系 ~ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週の宿題及び授業内演習 60%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業の宿題はExcelおよびExcelマクロ (Visual Basic) を用いる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの中に身の回りの自然現象や人間の社会システムを再現する基本的なモデルをゲーム感覚で学んでください。これにより、コンピュータによる思考実験の結果を価値判断できるセンス (何が使える情報で、何が使えないのか) を養ってほしい。

キーワード /Keywords

環境リスク学

(Environmental Risk Management)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19 ~) , 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 開講期が第1学期から第2学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

有害化学物質や重金属などの環境汚染物質のリスクを正しく評価・理解して適切に選択・行動できるだけでなく、情報を正確に伝える技術が必要である。日常行動に伴うリスク、化学物質のリスクなどを例にとり、リスクの大きさに基づいて行動する重要性を認識する。さらに、人の健康リスクを評価するための有害性評価、暴露評価、リスク評価の手法について学び、化学物質管理やリスクコミュニケーションの事例を通して学習する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉田喜久雄・中西準子「環境リスク解析入門[化学物質編]」東京図書、2800円
矢野昌彦「リスクマネジメント・システム」大阪大学出版会、東海明宏・岸本充生・蒲生昌志「環境リスク評価論」大阪大学出版会、中西準子他「演習環境リスクを計算する」岩波書店、ほか講義中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境リスクと化学物質のリスク
- 2 リスクアセスメント
- 3 リスクアセスメントの事例
- 4 化学物質のリスクアセスメントとデータ
- 5 化学物質の有害性確認と用量反応関係
- 6 化学物質の暴露解析
- 7 リスク判定
- 8 生態リスク解析
- 9 化学物質のリスク計算1(演習)
- 10 化学物質のリスク計算2(演習)
- 11 リスクマネジメント
- 12 リスクコミュニケーション
- 13 リスクアセスメントのためのシステム
- 14 社会経済分析・費用効果分析
- 15 環境リスクと企業活動、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
小テスト・レポート 20% (上記5～10の授業では、1回前の授業内容に関するミニテストを実施する。)
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

説明が分からなかったところはそのままにせず、教員への質問や復習をすること。
日常生活の中で環境リスクに関する事項に関心を持つこと。例えば、ニュースや新聞記事に日頃から注意する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学物質を扱う企業だけでなく、一般環境や日常生活の中にも環境リスクは存在する。国際社会・地域社会における環境リスクの評価や管理の方法を学びたいという学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

化学物質 リスクアセスメント リスクマネジメント リスクコミュニケーション

錯体化学

(Coordination Chemistry)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

錯体化学を理解するためには、無機化学、有機化学、物理化学の3つの分野の基礎知識が必要です。この基礎学問を修得できると、2年生後期の有機化学実験や3年生前期の環境分析実習で、有機反応の機構や分析方法の原理を理解することができるようになります。また皆さんが将来、触媒や高分子材料、化粧品や食品、医薬品等の機能性材料を開発する際に必ず必要な知識です。

本講義は、前半は無機化学の基礎を指定教科書を用いて復習します。ここでは金属イオンと有機物からなる錯体分子の基礎事項(電子配置、化学構造、物性)について、演習を行いながら講義を進めます。

後半は、錯体が生体材料や機能性材料、化粧品に利用されている事例を通じて、光や色、発光などの物理現象に関わる基礎理論(結晶場理論)について理解を深めていきます。

教科書 /Textbooks

化学教科書シリーズ 第2版 無機化学概論 (小倉興太郎 著、丸善出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義の説明、履修のポイント
- 2 初級編① 金属元素の軌道
- 3 初級編② 電子配置の法則① (Pauliの排他原理)
- 4 初級編③ 電子配置の法則② (Hundの法則)
- 5 初級編④ d軌道の電子配置
- 6 初級編⑤ d軌道の混成軌道
- 7 演習1 (基礎編①~⑤の理解度確認)
- 8 中級編① エネルギー準位の考え方
- 9 中級編② 錯体の形成と物性
- 10 中級編③ 配位結合
- 11 演習2 (応用編①~③の理解度確認)
- 12 上級編① 結晶場理論
- 13 上級編② 錯体の色や発光(化粧品開発の事例)
- 14 演習3 (錯体化学の応用④⑤の理解度確認)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価項目：配点：比率
 平常点(10点満点)：1点×10回：10%
 演習点(40点満点)：第1回20点+2回10点+3回10点：40%
 期末試験(50点満点)：50点：50%
 ※比率の合計は100%

※注 レポート、追試等の措置は行わないので、講義に毎回出席し、演習を必ず受けること

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①講義中の画像撮影は認めない
- ②演習時は、各自の教科書、ノートの持ち込みのみ可とする(コピーの持ち込み、携帯端末等使用および保存画像情報の使用は不可)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では1年生までに学習した無機化学の基礎について、繰り返し、丁寧に解説し、演習で理解の確認をします。皆さんが今後、卒論や修論を通じて生物や化学の専門分野に入る前に、基礎事項をしっかり身につけてくれることを期待しています。本学大学院試の選択問題に錯体化学を毎年出題します。環境生命工学科では選択科目ですが、大学院進学を予定している学生は特に受講を薦めます。

錯体化学

(Coordination Chemistry)

キーワード /Keywords

遺伝子工学

(Genetic Engineering)

担当者名 /Instructor 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

過去半世紀にわたって築き上げられた分子生物学は、それを基本とした遺伝子工学の発展により社会に貢献している。本講義を通じて遺伝子工学の基本を学び、それを利用、さらには応用する力を養う。

教科書 /Textbooks

教員が準備し、配布する。
ただし、下記の演習書を本授業の問題集として指定する。
・ 生化学・分子生物学演習 第2版 猪飼・野島 著 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 遺伝子工学 - 基礎から応用まで - 野島 著 東京化学同人 (○)
- ・ 細胞の分子生物学 第5版 Alberts 他 著 ニュートンプレス (○)
- ・ ワトソン遺伝子の分子生物学 第6版 Watson 他 著 東京電機大学出版局

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 遺伝子工学概論
- 第 2 回 DNA・RNA
- 第 3 回 遺伝子工学の手法I
- 第 4 回 遺伝子工学の手法II
- 第 5 回 クローニング
- 第 6 回 PCR・遺伝子解析
- 第 7 回 タンパク質解析
- 第 8 回 ES細胞・iPS細胞
- 第 9 回 遺伝子改変動物
- 第 10 回 エピジェネティクス
- 第 11 回 遺伝子組換え作物
- 第 12 回 ncRNA
- 第 13 回 遺伝子多型
- 第 14 回 免疫
- 第 15 回 再生医療

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生物学・生化学・分子生物学の知識が基礎となります。これらを履修しなおかつ理解していることが前提です。
授業で配布する資料と演習書を利用して復習することが不可欠です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分子生物学から派生して、遺伝子工学がメインとして利用されているもの、遺伝子工学によって大きく進展した学問分野について説明を行います。自分から学ぶことをしない限りは何も得られない内容となっていますので、受講する学生は自分でしっかりと勉強するようにして下さい。

キーワード /Keywords

生態工学

(Ecological Engineering)

担当者名 上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

本講義では、生物学・生態学的な見地から、自然生態系の仕組みや機能を紹介する。自然生態系の保全や修復のための生態系の基本的知識に加え、生態系機能の強化手法および破壊された生態系の修復手法などの応用的内容について概説し、自然生態系の基本とその応用について論理的に理解できるようにする。また、自分の言葉でそれを説明できるようにする。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境修復のための生態工学 (講談社) 2002年
河口・沿岸域の生態学とエコテクノロジー (東海大学出版会) 1996年
エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化 (ソフトサイエンス社) 2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 はじめに
- 2 ビオトープによる環境修復(基礎)
- 3 ビオトープによる環境修復(応用)
- 4 湖沼生態系の保全と管理(基礎)
- 5 湖沼生態系の保全と管理(応用)
- 6 河川生態系の保全と管理(基礎)
- 7 河川生態系の保全と管理(応用)
- 8 前半のまとめ、確認テスト
- 9 干潟生態系の保全と管理(基礎)
- 10 干潟生態系の保全と管理(応用)
- 11 湿地生態系の保全と管理
- 12 エコテクノロジーの応用(バイオマニピュレーション)
- 13 エコテクノロジーの応用(植生浄化)
- 14 エコテクノロジーの応用(内湾の環境修復事例)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 30%
期末テスト 50%
日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生態学(1年次2学期開講)が基礎となっている講義科目であるので、事前に生態学を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生態工学は人類と自然との共生を可能にする技術であり、21世紀に発展が期待されている工学です。

キーワード /Keywords

自然生態系 環境修復 指標生物 バイオマニピュレーション

環境計画学

(Environmental Planning)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境計画を考える上で、必要となる意志決定ツールを中心に修得する。まず、都市や国土を規定している都市計画、国土計画の諸制度の成り立ちとその実際について学ぶ。次いで、投資判定分析、費用便益分析、多目的意志決定手法などについて学ぶ。さらに、従来経済価値を認めてこなかった環境資源の扱いも重要な課題であり、そのための環境の経済評価手法について、その基本的な概念と手法を修得する。また、合意形成プロセスのための手法と実際についても講究する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中勝 編著「循環型社会評価手法の基礎知識」技報堂出版
その他、講義中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境計画をめぐる諸状況
- 2 持続可能性評価指標
- 3 物質フロー分析【基礎的概念】
- 4 物質フロー分析【応用】
- 5 ライフサイクルアセスメント【基礎的概念】
- 6 ライフサイクルアセスメント【応用】
- 7 同上 演習
- 8 費用便益分析【基礎的概念】
- 9 費用便益分析【応用】
- 10 リスクアセスメント・リスク便益分析
- 11 環境経済評価手法【基礎的概念】
- 12 環境経済評価手法【応用】
- 13 多目的意志決定手法
- 14 合意形成
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への積極的参加) 10% ※2/3以上出席すること
レポート 30%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要に応じて、関数電卓、PC (Excel) を使用することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済縮小・人口縮小時代が到来し、社会資本ストックの更新期を迎える中で、持続可能型社会の形成という21世紀の課題に答えるべく、「社会をどのように再構築するか」「開発か環境資源を保護すべきか」といった問題に取り組むためのツールを学びます。

キーワード /Keywords

環境経営学

(Sustainable Management)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

環境経営とは、環境保全活動を推進するだけでなく生産、調達、販売、財務などを通じて経営のあらゆる場面で環境に配慮し、環境活動を通じて経営改善を図ることである。環境マネジメントシステムや環境監査、環境会計、環境報告書、ライフサイクルアセスメント、環境適合設計、環境ラベル、グリーン購入・グリーン調達など様々な環境経営支援手法がある。本講義では、それらの概要を理解する。

教科書 /Textbooks

岡本眞一編著「環境経営入門 [第2版]」日科技連、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

國部克彦他「環境経営・会計」有斐閣アルマ
エコビジネスネットワーク編「よくわかる環境ビジネス」産学社
環境省編「環境白書 各年版」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境とその管理
- 2 環境と経済
- 3 環境問題と経営
- 4 環境問題と企業
- 5 企業の環境経営・社会的責任経営
- 6 環境ビジネス
- 7 環境マネジメントシステム① (システムの概要、要求事項)
- 8 環境マネジメントシステム② (認証制度と普及状況)
- 9 環境会計
- 10 環境リスク管理と環境コミュニケーション・環境報告書
- 11 製品の環境配慮・環境適合設計・環境ラベル
- 12 環境マーケティング・グリーン購入
- 13 環境調和型社会の構築
- 14 環境マネジメントシステムのめざす方向
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポート 20%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「環境マネジメント概論」を受講しておくことが望ましい。
専門用語が頻出するので、毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に知識を習得するだけでなく、自分で考える習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

環境マネジメントシステム 環境会計 環境報告 環境ラベル 環境ビジネス

生物工学

(Biological Engineering)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

酵素、微生物、動植物細胞などを産業利用する場合、原料調製、反応、分離といった一連のプロセスを考えることが重要である。本講義では、生体触媒の特性や調製に関わるアップストリームプロセス、バイオリクター操作などのプロダクションプロセス、バイオセパレーションなどのダウンストリームプロセスを学び、バイオプロダクトの生産について理解する。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入 (生物工学とは)
- 2 バイオプロセスの構成
- 3 生体触媒の特徴
- 4 酵素反応速度論 1 【反応条件】
- 5 酵素反応速度論 2 【速度論】
- 6 細胞反応速度論 1 【反応条件】
- 7 細胞反応速度論 2 【速度論】
- 8 前半の復習、確認テスト
- 9 培養操作
- 10 バイオリクター
- 11 酸素供給
- 12 スケールアップ
- 13 バイオセパレーション 1 【破碎・遠心・抽出】
- 14 バイオセパレーション 2 【膜分離・クロマトグラフィー】
- 15 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物を利用する産業において、バイオプロセスを理解できる (理解している) ことこそが工学系出身の強みといえます。

キーワード /Keywords

食品工学

(Food Technology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

食品は生命維持の原点であり、我々の健康維持に大きな役割を担っている。また食品は様々な加工技術や保蔵技術を経て我々の口に入り、これらの過程により食品成分は様々な変化を受ける。本講義では、食品の主要な構成要素と、色・味・香りなどの嗜好成分について化学的特性と反応性、生理的機能性について紹介し、食品と生命との深いかわりについて学ぶ。更には、身近な食品を例に挙げながら食品加工や食品保蔵に関する基礎知識と技術についてやさしく解説する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

わかりやすい食品化学 (三共出版)、吉田勉監修、2008年、2500円
食品加工の知識 (幸書房)、太田静行著、1980年、2800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 食品の表示①食品衛生法、JAS法、景品表示法
2. 食品の表示②栄養増進法、薬事法、計量法
3. 食品化学①食品の色・味・香り
4. 食品化学②食品成分の反応 (褐変)
5. 食品化学③食品成分の反応 (酸化)
6. 食品栄養①三大熱量素と保全素
7. 食品栄養②栄養機能
8. 食品衛生①食品添加物の定義と安全性評価
9. 食品衛生②食品添加物各論 (食品の腐敗を防ぐ)
10. 食品衛生③食品添加物各論 (食品の色・味をつける)
11. 食品衛生④食品添加物各論 (食品どうしをつなぎあわせる)
12. 食品表示のまとめ
13. 食品製造①農産食品の加工
14. 食品製造②畜産食品の加工
15. 食品製造③水産食品の加工

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (80%)
授業態度・課題 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜、指示をする。
授業では幅広い内容を取り上げるため、専門書等を用いて復習することにより理解をさらに深めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが心身の健康を確保し、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育むためには、何よりも「食」が重要である。ところが近年、食生活をめぐる環境が大きく変化し、その影響が様々なところで顕在化している。本講義では食品に関する必要な知識と健全な食生活を送るために必要な判断力を修得してほしい。

キーワード /Keywords

食品化学、栄養学、食品保蔵学、食品加工学、食品表示

バイオインフォマティクス

(Bioinformatics)

担当者名 /Instructor 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~) , 倉田 博之 / Hiroyuki KURATA / 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

これまでに生物科学の基礎科目では、生物が様々な情報を処理する能力を持つこと、そのような情報処理がホメオスタシス、遺伝、進化など多くの生命現象の中で中心的な役割を果たしていること、生命現象のカギを握るDNA、RNA、タンパク質などの分子の構造や機能が、塩基やアミノ酸の「配列情報」として扱えることなどを学んだ。このように生命を理解するには、情報という視点が重要である。近年、情報科学・技術と分子生物学の発展により、バイオインフォマティクス (Bioinformatics、生物情報科学) とよばれる研究領域が大きな発展を遂げた。本講義では、バイオインフォマティクスの理解に必要な生命科学と情報科学の基礎を理解し、バイオ研究におけるコンピュータを使ったアプローチについて学ぶ。また、インターネット上に公開されているデータベースやツールの活用法についても学ぶ。

教科書 /Textbooks

必要に応じて教材をプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) はじめてのバイオインフォマティクス 講談社
- (2) 東京大学バイオインフォマティクス集中講義 羊土社
- (3) バイオインフォマティクス 第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) バイオインフォマティクスとは何か
- (2) バイオインフォマティクスのための分子生物学、生化学、細胞生物学
- (3) 生物による情報処理
- (4) 生物における情報記録媒体
- (5) 遺伝と進化
- (6) DNAの塩基配列とデータベース
- (7) タンパク質のアミノ酸配列とデータベース
- (8) 前半の復習、確認テスト
- (9) タンパク質の立体構造
- (10) ゲノム診断
- (11) プロテオーム
- (12) トランスクリプトーム
- (13) システム生物学 (1) システム同定・推定
- (14) システム生物学 (2) システム制御
- (15) 後半の復習、確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (積極的な授業参加、小テスト等) 20%
確認テスト 40%
期末テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自習のためのPCとインターネット環境を用意しておくこと。本講義は、夏季の集中講義として実施する予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 I

(Graduation Research I)

担当者名 /Instructor エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は学部4年間の集大成である。卒業論文I、IIを通じてこれまで学習してきた知識や考え方を基にして、与えられた研究テーマについて、研究目標及び計画の立案、調査および実験の実施等を行い、その結果を論文としてまとめ発表を行う。この卒業研究を通して、課題解決の手法を身につけ、その結果を第三者に伝える総合的な表現力を養う。

教科書 /Textbooks

各指導教員に従う

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各指導教員に従う

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4月 ガイダンスおよび研究テーマ決定
5月～実施：各指導教員の指示に従う（研究目標および計画の立案、調査、実験、討論など）
指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究実施状況の結果を総合して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各指導教員の指示に従い、安全に注意すること。
履修ガイドに記載のエネルギー循環化学科の卒業研究着手要件を満たしていること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの座学や学生実験などの授業で学んだ知識・考え方を駆使し、常に能動的な態度で成し遂げてください。

キーワード /Keywords

卒業研究 II

(Graduation Research II)

担当者名 /Instructor エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は学部4年間の集大成である。卒業論文I、IIを通してこれまで学習してきた知識や考え方を基にして、与えられた研究テーマについて、研究目標及び計画の立案、調査および実験の実施等を行い、その結果を論文としてまとめ発表を行う。この卒業研究を通して、課題解決の手法を身につけ、その結果を第3者に伝える総合的な表現力を養う。

教科書 /Textbooks

各指導教員に従う

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各指導教員に従う

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

卒業論文Iに引き続き、実施： 各指導教員の指示に従う (研究目標および計画の立案、調査、実験、討論など)
2月 卒業論文作成
卒業論文提出
卒業論文試問
卒業研究発表会
指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究実施状況、卒業論文、試問、および発表会の結果を総合して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各指導教員の指示に従い、安全に注意すること。
履修ガイドに記載のエネルギー循環化学科の卒業研究着手要件を満たしていること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの座学や学生実験などの授業で学んだ知識・考え方を駆使し、常に能動的な態度で成し遂げてください。

キーワード /Keywords

卒業研究 (基盤)

(Research for Graduation)

担当者名 基盤教育センターひびきの分室全教員
/Instructor

履修年次 4年次 単位 8単位 学期 通年 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 単位数は各学科の卒業研究にならう

授業の概要 /Course Description

学部4年間の学習の集大成として、人文社会と工学の接点に関わる研究テーマに取り組む。研究テーマに合わせた実験、調査、レポート、論文作成を通じて、科学的に事象を検証し、整理・発表する能力を養う。また指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

教科書 /Textbooks

各研究室の指導による。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各研究室の指導による。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)研究室配属

3年次3月末を目処に、教員との面接によって履習可否を決定する。
(但し、所属学科の都合により4月に面接を行うこともある)

(2)研究活動

卒業研究は、おおむね次のように進められる。詳しくは、指導教員の指示を受けること。

4月 研究テーマの絞り込み、文献調査など

5月-6月 研究準備および計画の策定

7月-12月 研究の実施・遂行

1月 口頭発表、試問 (学生の所属学科での発表が課される場合がある)

成績評価の方法 /Assessment Method

研究への取り組み姿勢 : 30%

研究成果 : 50%

口頭発表及び試問 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

様々なメディアを活用して、自分の研究に関わる情報収集に取り組むこと。

卒業研究 (基盤)

(Research for Graduation)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森本：これまでの各学科の学習内容と環境倫理学とを関連づけて、各自でテーマを検討してください。卒業研究を通して、情報をただ収集するだけでなく、関連づけて分析する仕方、それを理解しやすい形に表現する仕方を学習しましょう。

長：身の回りの「ことば」を題材に、人間の認知活動がどのように現れているのか、また日本語と英語で認知のパターンがどのように異なっているのかについて考えていきます。さらにその結果を基にして、日本語話者にとって効果的な英語学習のマルチメディア教材を開発する予定です。

辻井：卒研に取り組むことにより、これまでに得た知識を体系化して、実社会で生きていく知恵を身につけることが期待されます。自分で見つけたテーマに取り組む知的な作業には、辛い試練ばかりでなく、新しい発見の喜びも必ずついてきます。

中岡：興味のあるテーマを追求する中で、考えることのおもしろさ、達成感を共に味わいましょう。単に「調べる」「書く」だけでなく、「まとめる」「表現する」技も磨いて行きます。アジア地域に関すること、また経済全般に関心のある方、歓迎いたします。

池田：環境工学系の専門用語を題材に、「日本語」と「専門日本語」がどのように繋がっているのか、効果的な専門日本語教育を行うには何が必要なのかについて考えていきます。(留学生の場合は、留学生特別科目のうちの6単位以上を取得していることを条件とします)

植田：私たちの思考や認識と切り離すことができない「ことば」は言葉の研究にとどまらず、さまざまな分野で注目を集めています。たとえば、GUIベースのOSの背後にはデスクトップメタファーがあることはよく知られています。テクノロジーを支えていることばを探求してみましょう。

キーワード /Keywords

森本：環境倫理、功利主義、問題対応(問題発見、問題表現)

長：認知言語学、英語学習、日英対照言語学

辻井：環境、経営、戦略、組織

中岡：アジア、中国、経済、日本経済

池田：日本語教育、専門日本語、環境工学、教材開発、自律学習

植田：認知言語学、推論、メタファー

ビジネス日本語

(Business Japanese)

担当者名 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○		

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 第1学期、第2学期とも3年次生から受講可能です。

授業の概要 /Course Description

大学卒業後に日本国内の企業、あるいは母国の日系企業で活躍したいと希望している留学生のための上級日本語レベルの授業である。日本企業への就職を希望する留学生には、専門知識や技術のみならず高度な日本語コミュニケーション能力が求められている。この授業では主に就職活動に必要な日本語表現を、言語の4技能「聴く」「話す」「読む」「書く」などのトレーニングを通し、現場で即座に生かせる運用能力を育成する。

教科書 /Textbooks

- 成美堂出版編集部「15年版 こう動く！就職活動のオールガイド」(H26年度前期受講生)
- 成美堂出版編集部「16年版 こう動く！就職活動のオールガイド」(H26年度後期受講生)
- その他、適宜授業中に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Web: 『留学生のためのページ』 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション ②就活に求められる日本語能力
- 己を知る: 自己分析, 自己評価, 就活プラン1 (企業が求める日本語能力・就職活動の流れ)
- 己を知る: 自己分析, 自己評価, 就活プラン2 (効果的な自己分析・キャリアプラン)
- 業界・企業を知る: 企業選びへの業界調査
- 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)& マナー1: 問い合わせ方法
- 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)& マナー2: 資料請求葉書とメール
- 就職筆記試験: Web, SPI, CAB/GAB & 一般常識
- 己を知る: 自己PR, 志望動機, 将来設計など
- 就活アクション: 履歴書& エントリーシート1 (エントリーシートの基本常識と書き方)
- 就活アクション: 履歴書& エントリーシート2 (履歴書, 送付状, 封筒の書き方)
- 就活アクション: 会社説明会・セミナー参加
- 就活アクション: 面接 1 (面接のマナーとよく聞かれる質問)
- 就活アクション: 面接 2 (回答のポイント・面接シミュレーション)
- プレゼンテーションの準備
- プレゼンテーション

※この授業計画は状況に応じて随時変更する可能性もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的授業参加 20%
- 宿題 & 小テスト 35%
- 期末会話試験 20%
- 期末プレゼンテーション 25%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始時に指示する。

- 履修希望者は、「総合日本語A」「総合日本語B」「技術日本語基礎」のうち3単位以上を取得しておかなければならない。それ以外の受講希望者に関しては日本語担当教員からの許可を得ること。
- 学部で就活をする学生は、3年次の前期に履修するのが望ましい。大学院へ進学後就活する学生は3年次の後期がそれ以後の受講でも良い。
- 受講生は、Hibikino e-Learning Portal (moodle) に登録する必要がある。

ビジネス日本語

(Business Japanese)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後、日本企業への就職を考えている留学生の皆さん、就職活動をし社会人となるために、自分の日本語能力に自信がありますか。適切な敬語を使って話したり、書いたりすることに対する準備はできていますか。昨今の就職難の状況下では、就活時期（3年生の後期から）が始まってから就活準備を開始するのでは遅すぎます。就活時期以前の出来るだけ早期（遅くとも3年生の夏休み前まで）に、しっかりと自己分析・企業研究を終え、かつ、適切な日本語での表現力を身につけておくことが肝要です。この授業では、日本の就職活動やビジネス場面における社会人としての活動について、様々な知識とともに必要とされる上級の日本語実践能力を育成します。一緒にがんばってみませんか。

キーワード /Keywords

高度なコミュニケーション能力, 就職活動, 敬語&マナー, 書類作成, 面接, ビジネス場面

数学 (補習)

(Mathematics)

担当者名 荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代
/Instructor

履修年次 1年次 単位 0単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月5日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「微分・積分(エネルギー循環化学科・建築デザイン学科・環境生命工学科)」、「微分積分I(機械システム工学科)」、及び「解析学I(情報メディア工学科)」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

- ・微分と積分の基本的な考え方について理解し、簡単な微積分の計算や応用問題に活用できるようにする。
- ・数学に関する基礎的な問題について、自分で問題を理解し、解析し、思考発展させる能力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せずにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数と式
- 2 方程式
- 3 いろいろな関数とグラフ (1)
- 4 いろいろな関数とグラフ (2)
- 5 いろいろな関数とグラフ (3)
- 6 微分 (1)
- 7 微分 (2)
- 8 微分 (3)
- 9 指数関数と対数関数 (1)
- 10 指数関数と対数関数 (2)
- 11 指数関数と対数関数 (3)
- 12 三角関数 (1)
- 13 三角関数 (2)
- 14 微分 (4)
- 15 微分 (5)
- 16 微分 (6)
- 17 微分 (7)
- 18 微分 (8)
- 19 微分 (9)
- 20 積分 (1)
- 21 積分 (2)
- 22 積分 (3)
- 23 積分 (4)
- 24 積分 (5)
- 25 積分 (6)
- 26 積分 (7)
- 27 積分 (8)
- 28 積分 (9)・期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 20%
中間・期末試験 80% 中間試験は各分野の授業の終了後に実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校「数学I」、「数学II」、「数学III」の教科書などを復習すること。
クラス別により授業内容を変更する予定である。詳細については開講時に連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数学の勉強では積み重ねが重要です。高校で学んだ数学についてよく復習して、大学の数学科目および専門科目での学修で必要となる数学的な思考法と計算力を身につけてください。

数学 (補習)

(Mathematics)

キーワード /Keywords

物理 (補習)

(Physics)

担当者名 /Instructor 平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月5日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「物理実験基礎」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

多くの工学基礎科目および専門工学科目を受講する上で必要不可欠な「力学・熱・電気」について学習する。また、物理的思考力や応用力を養うため、各回の講義の後に演習を行う。

教科書 /Textbooks

高校で使用した物理の教科書、又は 啓林館 高等学校教科書「物理I」、 「物理II」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入，運動の表し方，速度と加速度
- 2 いろいろな力と運動の法則(1)
- 3 運動の法則(2)
- 4 運動の法則(3)
- 5 力のつりあいとモーメント
- 6 仕事
- 7 中間試験I，問題の解説
- 8 力学的エネルギー
- 9 運動量と衝突
- 10 等速円運動，慣性力と万有引力
- 11 単振動
- 12 熱(1)
- 13 熱(2)
- 14 熱(3)
- 15 中間試験II，問題の解説
- 16 電場とクーロンの法則
- 17 電位
- 18 コンデンサー
- 19 直流回路 (オームの法則)
- 20 キルヒホッフの法則
- 21 磁場と電流
- 22 ローレンツ力
- 23 電磁誘導の法則
- 24 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 20%
中間試験I，II，期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義内容に関する確認テストを実施するため、必ず予習と復習を行うこと。
授業には、必ず高校で使用した物理の教科書 (教科書が無い場合は購入すること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業進度がとても速いので、緊張感を持って授業に臨んで下さい。また、物理を始めて習う人にはハンディがありますが、あなたのガンバリで必ず克服できます。そして、この授業で習得した自然科学の法則を物作りの工学に生かして下さい。

キーワード /Keywords

化学 (補習)

(Chemistry)

担当者名 /Instructor 溝部 秀樹

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月5日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「化学実験基礎」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

- ・ 大学で「化学」を学ぶために必要な基礎学力を向上させる。
- ・ 高校化学の化学Iの理論化学分野の基礎学力の確認を行う。さらに化学IIの理論化学分野の基礎学力を向上させる。
- ・ 問題が与えられた際に「自分で参考資料を見つけ、それを参考にすれば問題を解くことができる」という基本的な学習の取り組み方を身につける。

教科書 /Textbooks

プリント配布、各自の高校化学I・IIの教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 単位換算、物質の量・濃度
2. 化学結合、結晶
3. 化学反応と量的関係
4. 化学反応と熱
5. 酸と塩基①
6. 酸と塩基②、電離平衡
7. 酸化と還元
8. 中間試験
9. 電池・電気分解
10. 気体の法則①
11. 気体の法則②
12. 溶液の性質①
13. 溶液の性質②
14. 化学平衡
15. 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40%
期末試験 40%
小テスト 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

苦手な領域は、十分に復習すること
「電卓」と「高校化学I・IIの教科書」を持参のこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「習ったのに忘れてしまった」「聞いたことはあるが、よくわかっていない」「そこはあまり習っていない」など、個人によって基礎の理解度が違うと思います。高校で習う「化学」のポイントをもう一度復習し、基礎学力を向上させることによって、大学で習う「化学」の中身を深めて下さい。

キーワード /Keywords

入門ゼミ

(Introductory Seminar)

担当者名 /Instructor 全学科 全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	問題の発見やその解決策を導くために必要な考え方や取り組み方を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	社会生活に必要な「聞く力」「理解する力」「話す力」「調べる力」「書く力」を修得する。
			入門ゼミ
			CAR101F

授業の概要 /Course Description

大学生にとってコミュニケーション能力は、専門的な知識を修得する以前に身に付けておくべき、基礎的な能力である。この入門ゼミでは、グループワークなどを通して、他者の意見を聞き、その人の言いたいことを理解した上で、自分の意見を伝えることができる力(「理解する力」「話す力」)、そして情報を収集して、レポート、報告書を作成する力(「調べる力」、「書く力」)を養成することを目的とする。また、学生が受動的ではなく能動的にグループワーク・情報収集等に取り組むことによって、問題解決能力を高め、自ら学ぶ力を養成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

担当教員の指示したもの

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員の指示したもの

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) 15週のうち、最初の1週は新入生全員を対象にガイダンスを実施する。
- (2) 2週目以降は、原則としてゼミ単位での活動とする。詳細については、担当教員の指示に従うこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度を評価する (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

入学時のガイダンスで配布されるテーマ一覧を参考に、希望するゼミを検討しておくこと。また、希望者は他の学科が提供するゼミに参加することもできる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生になった皆さんは、既に大人社会の仲間入りをしています。大人社会では、あらゆる事象において受身の体勢では、うまくいかない事が増えてきます。積極的にコミュニケーションを図る、貪欲に情報を収集する、自分の意見をしっかり持ち、常に問題意識を持つ、相手の立場を理解し協調性を養うことが重要となります。そのような魅力ある学生になれるよう頑張ってください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション, 情報

経済入門 I

(Introduction to Economics I)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会科学を学ぶ際に必要な基礎知識が身につく。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	人間の行動を数式によって表現することができる。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自身を取り巻く環境について熟考し、適応する能力が身につく。
	コミュニケーション力		
		経済入門 I	ECN111F

授業の概要 /Course Description

本講義では下記のテキストを使用し、ミクロ経済学の基礎的な内容を学習する。普段私たちがとっている消費行動（需要）、企業の生産行動（供給）、そして需要と供給の出会う「市場」の理論を学習する。経済学を学ぶことで、身の回り、または現代の日本や世界で起こっている様々な経済現象に関心を持ってほしい。授業では適宜時事問題も扱い、経済問題に対する理解も深める。

教科書 /Textbooks

前田純一著『経済分析入門I - ミクロ経済学への誘い - 』晃洋書房、2011年、2,625円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤田康範『ビギナーズミクロ経済学』ミネルヴァ書房、2009年
○三橋規宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門 改訂版』日本経済新聞出版社、最新版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 第1章 消費行動の分析(1) - 無差別曲線によるアプローチ(予算制約と無差別曲線)
- 3 第1章 消費行動の分析(1) - 無差別曲線によるアプローチ(最適消費点と需要曲線)
- 4 第2章 消費行動の分析(2) - 効用関数によるアプローチ(限界効用)
- 5 第2章 消費行動の分析(2) - 効用関数によるアプローチ(需要の弾力性)
- 6 第3章 生産行動の分析(1) - 費用分析によるアプローチ(費用曲線)
- 7 第3章 生産行動の分析(1) - 費用分析によるアプローチ(損益分岐点、企業閉鎖点)
- 8 第4章 生産行動の分析(2) - 生産関数によるアプローチ
- 9 第5章 完全競争市場の分析(完全競争市場)
- 10 第5章 完全競争市場の分析(価格、数量による調整)
- 11 第6章 資源配分の効率性
- 12 第7章 独占市場の分析
- 13 第8章 不完全競争市場の分析
- 14 第9章 市場の失敗
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70%
課題実施状況や授業への積極性 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済入門 I

(Introduction to Economics I)

履修上の注意 /Remarks

普段より経済に関する新聞記事やニュースに関心を払ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の勉強を通じて世の中に対する関心を高め、社会に出た時にもおじせず、自分の意見を発言できるようになりましょう。またニュースや記事などから経済事情を読み解き、判断することは理系出身の学生にも求められることです。授業で扱うテーマ以外にも経済に関することなら質問を歓迎します。一緒に経済を勉強していきましょう、世界が広がるはずです。

キーワード /Keywords

経済 需要 供給 市場 日本経済

心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科, 乙木 幸道 / Kodo OTOKI / 非常勤講師
内田 満 / Mitsuru UCHIDA / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体とメンタルの状況を把握し、自ら改善することができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	年齢の進行に応じた身体とメンタルのケアに必要な情報を自ら得ることができる。
	コミュニケーション力	●	身体とメンタルの状態について、他者とやりとりをしながら把握し、協力して改善することができる。
		心と体の健康学	HSS101F

授業の概要 /Course Description

将来にわたって心と体の健康を自ら維持・向上させていくための理論や方法を体系的に学ぶことが、この科目の目的である。
生涯続けられるスポーツスキルを身につけ、心理的な状態を自ら管理する方法を知ること、こころやからだのバランスを崩しがちな日々の生活を自分でマネジメントできるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回コミュニケーションゲーム① (グループワーク)
- 3 回コミュニケーションゲーム② (カラダを使って)
- 4 回ボディマネジメント① (身体的健康と精神的健康)
- 5 回ボディマネジメント② (体力の概念)
- 6 回ボディマネジメント③ (体力・身体測定・ : 体育館)
- 7 回メンタルマネジメント① (基礎)
- 8 回メンタルマネジメント② (目標設定① : 積極的傾聴・合意形成・会議力)
- 9 回メンタルマネジメント③ (目標設定② : コミュニケーション・ファシリテーション・組織論)
- 10 回メンタルマネジメント④ (目標設定③ : ワークショップ・主体的参加)
- 11 回エクササイズ① (オリエンテーリング)
- 12 回エクササイズ② (屋内個人スポーツ : 体育館)
- 13 回エクササイズ③ (屋内集団スポーツ : 体育館)
- 14 回エクササイズ④ (屋外スポーツ : グラウンド)
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度 60% レポート 20% 試験 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

履修上の注意 /Remarks

[コミュニケーションゲーム] [エクササイズ] は身体活動を伴うので、運動できる服装ならびに靴を準備すること。
[ボディマネジメント①・②] は教室での講義、[ボディマネジメント③] は体育館で行う。
[メンタルマネジメント] はワークを中心とした授業を行いますので筆記用具を持参すること。
授業への積極的な参加を重視します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目を通して、「やりたいこと」「やるべきこと」「できること」を整理し、いかに目標を明確にするかを学び、自分自身の生活にも役立てほしい。さらに、身体活動の実践を通して、スキル獲得のみならず仲間作りやノンバーバルコミュニケーション能力獲得にも役立ててほしい。

キーワード /Keywords

職業と人生設計

(Career and Life Planning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 3回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩による、大学生活についてのパネルディスカッション)
- 4回 社会人としての倫理やマナー① (傾聴、多様性理解)
- 5回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 6回 大学院進学を知る (院に合格した先輩による、受験準備についてのパネルディスカッション)
- 7回 社会人としての倫理やマナー② (アサーショントレーニング)
- 8回 働くということ (企業の人事担当者による、大学生活についてのパネルディスカッション)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 社会人としての倫理やマナー③ (ダイアログ、ワールドカフェ)
- 11回 大学院進学を知る (院生による、研究についてのパネルディスカッション)
- 12回 業界&企業研究 (業界研究および企業研究の方法、特に面白企業の探し方)
- 13回 社会人としての倫理やマナー④ (グループディスカッション、リーダーシップ)
- 14回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 15回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポートおよび授業への取り組み、宿題・・・90%
最終回のレポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※クラスは履修者をランダムに振り分け、5つのクラスに分かれて行う予定です。受講前にクラスを確認してください。
※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。
※社会人としてのマナーを身につけてもらうこともこの講義の目的の一つです。したがって以下の10項目を守っていただきます。
遅刻厳禁 / 携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) / 脱帽 / 飲食禁止 / 作業時間は守る / グループワーク以外の私語厳禁 / グループワークでは積極的に発言する / 周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける / 分からないことは聞く / 授業に「出る」ではなく「参加する」という意識で臨む

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の他学科の学生と話すため、学内の友人が増えます。本授業を通してさらに大学生活を充実したものしたい、という意味を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

経営入門

(Introduction to Business Management)

担当者名 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業の役割や仕組みについて、説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	企業の社会的な影響力の大きさを把握することができる。
	生涯学習力	●	社会現象としての企業に関心を持ち、自らの態度を適応させることができる。
	コミュニケーション力		
			経営入門
			BUS211F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、履修者の皆さんにとってビジネスがより身近なものとして感じられるようになることです。技術者として生きることは、誰かの不便を解決したり、生活を充実させたり、何かの大きな仕組み作りにも貢献したりすることにあるでしょう。企業に雇われて技術力を発揮することは、そのような技術者個人として、貢献するべき世界のビジョンを描き、具体的な「ものづくり」や「ことづくり」の延長線上にあるはず。この授業では、小さなビジネスを作って、それを実現するための企画書を書いてみることを通じて、働くこと、ビジネスをすることを自分自身のこととして捉えてもらえるようになることを目指します。

達成目標

- (1)必要項目をすべて満たしたビジネス企画書を作成することができる。
- (2)他の参加者から、ビジネス企画書を充実させるための助言を積極的に引き出すことができる。
- (3)特別講師の起業経験を理解し、その要点を整理して説明することができる。
- (4)基本的な経営用語、様々な会社制度について説明することができる。
- (5)授業で得た学びについて、以降のキャリア設計と結びつけながら説明することができる。

教科書 /Textbooks

配付資料による。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アレックス・オスターワルダー&イブ・ピニユール (2012) : ビジネスモデル・ジェネレーション、翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス あなたのビジネスの種を探そう。
- 2 ビジネスモデル・キャンパスの使い方とビジネス事例学習
- 3 ビジネス・プランの設計
- 4 ビジネス・プランの共有 (1回目)
- 5 [特別授業1] Small Start-Upの経験談
- 6 特別授業を踏まえたビジネス・プランの練り直し
- 7 ビジネス・プランの共有 (2回目) 顧客を集める
- 8 [特別授業2] 起業の成功失敗の経験談
- 9 顧客について深く考える: 共感マップの作成
- 10 価値提案、顧客関係、チャネル設計、収益の流れ
- 11 リソース、主要活動、パートナー、ビジネスのコスト構造
- 12 ビジネス・プランの共有 (3回目) 株主を集める
- 13 様々な会社制度; ビジネスモデルに適した制度の設計
- 14 [特別授業3] NPO起業の経験談
- 15 振り返り

経営入門

(Introduction to Business Management)

成績評価の方法 /Assessment Method

達成目標 1 : 30% (レポート)
達成目標 2 : 10% (レポート)
達成目標 3 : 30% (レポート)
達成目標 4 : 20% (期末試験)
達成目標 5 : 10% (レポート)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この授業では、Moodleを用いた資料配付や課題提出を行います。また、Active Mailを連絡のために用いますので、メール受信環境を整備しておいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題提出やグループ作業など、活動量の多いタフな授業になりますので、履修する場合は覚悟して下さい。

キーワード /Keywords

ビジネス・プランニング、経営、キャリア

倫理入門

(Introduction to Ethics)

担当者名 /Instructor 森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2年次
単位 /Credits 2単位 / 2単位
学期 /Semester 1学期 / 1学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル 英語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	複雑な状況下で、問題を定義し、分析することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	倫理問題を他人事ではなく、自分の立場で考え、対応することができる。	
	社会的責任・倫理観	●	主観的な関心だけでなく、社会の共通ルールを考え、身につけることができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			倫理入門	PHR211F

授業の概要 /Course Description

・この講義では、西洋の倫理学の歴史を背景にしなが、日常生活と関連する具体的な問題を考えていきます。これまでの西洋倫理思想史で善や道徳がどのようなものと考えられてきたのか、ということを実感ある現代の問題（「人を助けるためにウソをつくことは許されるか」など）を材料にして、考察します。このような考察を通じて、今日倫理を考えることがどのような意味をもつのかということ、受講する学生が自分の問題として感じ取り考えることができるように、テキストを利用しながら講義します。

教科書 /Textbooks

・『現代倫理学入門』、加藤尚武、講談社学術文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 履修説明・概要
- 2 「嘘について」その1（問題提起）
- 3 「嘘について」その2（考察と課題）
- 4 「功利主義について」その1（問題提起）
- 5 「功利主義について」その2（考察と課題）
- 6 「平等主義について」その1（問題提起）
- 7 「平等主義について」その2（考察）
- 8 「エゴイズムと道徳」その1（問題提起）
- 9 「エゴイズムと道徳」その2（考察と課題）
- 10 「判断能力の判断」その1（問題提起）
- 11 「判断能力の判断」その2（考察と課題）
- 12 「正直者の損について」その1（問題提起）
- 13 「正直者の損について」その2（考察と課題）
- 14 「他人への危害について」その1（問題提起）
- 15 「他人への危害について」その2（考察と課題）

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート（3回程度） 30%

ミニレポート（6回程度） 10%

期末レポート 60%

評価の基準：

講義内容：40%、表現・構成：40%、独自性：10%、具体性：10%

倫理入門

(Introduction to Ethics)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業中に質問ができるように、また、内容について学生に質問しますので、あらかじめテキストの該当箇所を読んでください。
- ・ 内容がつながっていますので、以前の授業内容をよく復習してください。
- ・ 宿題として、中間レポートを3回程度作成してもらいます。
- ・ また、授業中にミニレポートも6回程度作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

すぐに正しい答えを求めようとしなくて何が問題なのか、じっくりと考える練習をしてください。
また、正しい答えがあるはずだという思い込みもなるべく控えて、不満の残る選択肢の中でどれをとるかという作業を体験してください。学生のうちに、しっかりした理由があって、混乱し、迷う作業をしておくことも大事な学習です。

キーワード /Keywords

功利主義、人格主義

日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アカデミックな実用文執筆のために必要な日本語表現の課題を自ら発見し、解決の糸口を探ることができる能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	日本語による論理的な文章の書き方の基礎を身につけ、自らの主張や見解を不特定多数の読み手に伝えることができる。
			日本語の表現技術
			LIN211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、日本語における論理的な文章構成の習得、および、論述文の表現技術の向上を目的とする。とりわけ、フォーマルな場面で用いられる実用文書で使われる日本語の表現技術を身につけておくことは、教養ある社会人には必須の要素である。この授業においては、(1)「長い文章を書く」ことへの抵抗感を低減させること、(2)書き言葉として適切な表現・文体を選択すること、(3)自作の文章の論理性・一貫性を客観的に判断すること、以上の3つの軸に受講生参加型の講義を展開していく。

教科書 /Textbooks

必須教材は授業中に指示、あるいは、教員が適宜準備する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の進行に合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 環境工学研究者に必要な文章表現能力とは
2. 言語とコミュニケーション
3. 「論じる」とは / 再現性と合理性
4. 効果的な書き出し
5. 文体 話し言葉と書き言葉
6. テーマを絞る
7. 段落の概念(1)中心文と支持文
8. 段落の概念(2)文のねじれ
9. アイディアを搾り出す / ノンストップライティング
10. 目標規定文を書く
11. 事実と意見
12. 出典を記す / SIST02による表記法
13. 読者を迷子にするな / 首尾一貫した文章
14. 待遇表現
15. 期末課題のためのアウトライン作り・質疑応答

※上記の授業項目・順序等は進度に応じて修正を行うことがある。詳細な授業スケジュールはhibikino e-learning portal (<http://moodle.env.kitakyu-u.ac.jp/>) にて公開するので、授業の前後に必ず確認すること。

日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加10%
コメント10%
宿題15%
小テスト15%
中間課題5%
期末課題のための準備活動5%
期末課題40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portal (<http://moodle.env.kitakyu-u.ac.jp/>) で連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。
※1：出席率80%未満の受講生は不合格とする。
※2：留学生は「技術日本語基礎」に合格していることを履修条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業、進学、就職等、学生生活が終盤に近づくとつれ、フォーマルな表現を駆使しなければならない機会は多くなる。適切な表現をTPOに応じて繰り出すことができるよう、この授業を絶好の修練の場にしてほしい。

キーワード /Keywords

日本語、表現技術、実用文、書き言葉、受講生参加型講義

アジア経済

(Asian Economies)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2年次 / 2学期 / 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本を含むアジアの国々について説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	経済発展の各国比較を数量的に行うことができる。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アジア各国の経済成長の原動力について考察することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			アジア経済
			IRL211F

授業の概要 /Course Description

東アジアの国々は戦後高い経済成長を達成してきた。まず日本経済が1950年代後半から70年代初頭にかけて大きく成長し、アジア経済発展の牽引役を果たしてきた。韓国、シンガポールは香港、台湾と並んで1960年代以降に高成長を記録した。1967年にASEANが結成され、後を追うように東南アジア各国も経済発展の道をたどった。現在、中国のGDPの規模が世界第二位であり、その影響はアジア域内でも大きい。中国と同様、経済体制の転換をはかったベトナムも成長著しい。本講義ではアジア経済発展の過程において、日本を中心とした経済関係の構築、発展の経緯について考察を行うと同時に、各国経済について理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、1997年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 東アジアの経済発展
- 3 経済発展における工業化の重要性
- 4 アジア通貨危機
- 5 円高と産業の空洞化
- 6 アジア域内での貿易構造
- 7 時事問題
- 8 中国経済
- 9 韓国経済
- 10 シンガポール経済
- 11 マレーシア経済
- 12 インドネシア経済
- 13 タイ経済
- 13 フィリピン経済
- 14 ベトナム経済
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70%
小テスト、授業中の発言や提出物30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アジア経済

(Asian Economies)

履修上の注意 /Remarks

復習をしっかりとして下さい。また常にアジア地域に関するニュースに耳を傾けて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では東アジアの国々を事例に経済成長のメカニズムを考えます。日本経済の歴史やアジア地域との関わりについても勉強し、知識を増やしていきましょう。

キーワード /Keywords

アジア 日本経済 経済発展

地球環境システム概論

(Introduction to Environmental Systems)

担当者名 /Instructor
寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~), 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科
石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球環境システムの様々な問題について基本的な知識及び考え方を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	地球環境の現状について定量的に認識する能力を身につける。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		地球環境システム概論	ENW103F

授業の概要 /Course Description

地球環境（水環境を中心に大気，土壌，生態系，資源・エネルギーなど）の歴史から現状（発生源，移動機構，環境影響，対策など）を国土や地球規模からの視点で概観できるような講義を行い，環境保全の重要性を認識できるようにする。

教科書 /Textbooks

特になし。随時、必要と思われる資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・地球環境の変遷
- 2 文明崩壊
- 3 酸性雨とオゾン層
- 4 広がる化学物質汚染（放射性物質を含む）
- 5 地球温暖化
- 6 水汚染・浄化（水環境）
- 7 種の絶滅と生物多様性の保全
- 8 資源とエネルギー
- 9 大地を守る（土壌環境）
- 10 森を守る（環境と植生）
- 11 水資源を守る（水不足）
- 12 持続可能社会の最新技術
- 13 環境再生の事例
- 14 北九州市における環境の取組み
- 15 海を守る（富栄養化・赤潮）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地球環境システム概論

(Introduction to Environmental Systems)

履修上の注意 /Remarks

授業の最後に20分程度の演習を実施するので、各授業を集中して聞くようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境に対する問題意識や将来展望を持つことは、あらゆる専門分野で必要不可欠なものになりつつあります。講義項目は、多岐にわたりますが、現状と基本的な考え方が理解できるような講義を行います。皆さんの将来に必ずプラスになるものと確信しています。

キーワード /Keywords

エネルギー・廃棄物・資源循環概論

(Introduction to Resources Recycling)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 資源の循環利用に必要な専門的知識を修得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	● 資源の循環利用などに関する数量的知識を修得する。
思考・判断・表現	英語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

エネルギー・廃棄物・資源循環概論 ENV201F

授業の概要 /Course Description

廃棄物減量、資源循環を実現するために資源、エネルギー全般、廃棄物全般を概説する。また、それらを背景として取り組んでいるリサイクルシステム（マテリアル、エネルギー、排水・廃棄物など）について、資源、エネルギー回収と処理の観点からそれぞれの技術や社会的な仕組みを概観できるような講義を行い、科学技術が持続可能な社会形成に果たす役割を理解できるようにする。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 資源、エネルギー概論
- 2 廃棄物概論
- 3 リサイクルと3R
- 4 リサイクル技術1(回収物の評価方法)
- 5 リサイクル技術2(単体分離技術)
- 6 リサイクル技術3(物理的分離技術)
- 7 生物学的排水処理システムの基礎
- 8 物質の循環(生態系における炭素・窒素・リンの循環)
- 9 生物学的排水処理システム1(窒素除去活性汚泥法)
- 10 生物学的排水処理システム2(活性汚泥法)
- 11 生物学的排水処理システム3(リンの生物学的除去)
- 12 主な汚濁物質の分析方法
- 13 汚濁物質除去の計算
- 14 最終処分場と不法投棄
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 60%
試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

エネルギー・廃棄物・資源循環概論

(Introduction to Resources Recycling)

履修上の注意 /Remarks

講義中に配付した資料を見直し、次の講義への準備をしておく必要がある。
演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

リサイクル・水・廃棄物処理に関する体系的な知識が習得できる。

キーワード /Keywords

環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

担当者名 /Instructor
森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室, 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~)
鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~), 岡田 伸廣 / Nobuhiro OKADA / 機械システム工学科 (19~)
長 弘基 / Hiroki CHO / 機械システム工学科 (19~), 堀口 和己 / Kazumi HORIGUCHI / 情報システム工学科 (19~)
中武 繁寿 / Shigetoshi NAKATAKE / 情報システム工学科 (19~), 小山田 英弘 / Hidehiro KOYAMADA / 建築デザイン学科 (19~)
保木 和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 /Year
単位 2単位 /Credits
学期 2学期 /Semester
授業形態 演習 /Class Format
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department
【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題をテーマにした調査研究活動とチーム活動を実践することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	チームによる調査研究活動を通じて、問題を発見し解決するためのプロセスを設計することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会生活に適用できる知識や技能を修得することができる。
	コミュニケーション力	●	チーム活動を通して、情報の伝達や共有の作法が身につく。
		環境問題事例研究	
		ENW102F	

授業の概要 /Course Description

環境問題の本質を理解し、解決への糸口を見つける最善の方法は、直接現場に接することである。そして、多様な要素の中から鍵となる因子を抽出し、なぜ問題が発生したのかを考える。この環境問題事例研究では、チームごとに独自の視点で問題の核心を明らかにし、目標設定、調査手法選択、役割分担などの検討を経て、自主的に調査研究を進め、研究成果のとりまとめ・発表を行う。

教科書 /Textbooks

環境問題特別講義の教科書及びその中で紹介されている書籍、関連Webサイトを参考にすること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その他、参考となる書籍等については、その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 研究計画の発表
- 3 調査研究の実施
- 4 調査研究の実施
- 5 調査研究の実施
- 6 中間発表会
- 7 調査研究の実施
- 8 調査研究の実施
- 9 発表準備、調査研究とりまとめ
- 10 発表準備、調査研究とりまとめ
- 11 第1次発表会 (口頭発表)
- 12 調査研究とりまとめ、調査研究報告書作成
- 13 第2次発表チームの発表、調査研究とりまとめ
- 14 第2次発表会 (口頭発表、ポスター発表)
- 15 表彰式

環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

成績評価の方法 /Assessment Method

調査研究活動や発表等 50% チーム内での貢献度を評価する。
成果発表や報告書の成績 50% チーム内での貢献度を評価する。
以上を個人単位で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業計画は、あくまでも目安になるものである。この科目では、開講期間全体を通じ、時間管理を含めて、「学び」の全てとその成果を受講生の自主性に委ねている。
調査研究は、授業時間内及び時間外に行う。フィールドワークを伴うことから、配付する資料に示される注意事項を守り、各自徹底した安全管理を行うこと。連絡は、基本的にオンライン学習システムを通して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業科目は、テーマに関連した北九州の環境や生産の現場を直接訪問し、自分の目で見て、考えるとともに、分野を超えて友人や協力者のネットワークをつくる機会となる。積極的にかかわり、有意義な科目履修になることを期待する。

キーワード /Keywords

英語演習 I

(English Skills I)

担当者名 /Instructor 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室

富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師, 江口 雅子 / Masako EGUCHI / 非常勤講師
許 慧 / Hui XU / 非常勤講師, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師
林 南乃加 / Nanoka HAYASHI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語によるコミュニケーションに必要とされる基本的な英文法、語彙を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	平易な英語を用いて必要な情報を収集することができる。
		英語演習 I	ENG100F

授業の概要 /Course Description

この科目では、コミュニケーションの道具として英語を用いるのに最低限必要とされる受信力（読む・聞く）を向上させることを目指す。そのためTOEICテスト形式の問題を素材として様々なトピックを扱い、高等学校までに学習した基本的な英文法および語彙を復習する。また、この授業を通して、卒業後の英語学習に活用できる学習方法やスキルを習得および実践する。

この授業では以下の4つを到達目標とする。

- ① 基本的な英語の文法の定着
- ② 基本的な英語の語彙の定着
- ③ TOEICテストにおいて400点以上の英語力の習得
- ④ 自律的な学習習慣の確立

教科書 /Textbooks

- ① Tactics for the TOEIC® Test: Listening and Reading Test Introductory Course. (By Grant Trew) Oxford University Press. ¥3,000 (本体価格)
- ② 『Newton e-learning』 ¥3,200 (なお、「英語コミュニケーションI」の再履修学生については別途指示する。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者より指示する。

英語演習 I

(English Skills I)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <合同授業> オリエンテーション・eポートフォリオの説明
- 2回 Listening Test Part 1: 名詞・動詞、写真から予測する技術、移動を表す前置詞
- 3回 Listening Test Part 2-A: 依頼・許可の表現、誤答を避けるための方法
- 4回 <合同授業> TOEIC模擬試験
- 5回 Listening Test Part 2-B: 付加疑問文
- 6回 Listening Test Part 3-A: 申し出・提案の表現、選択肢の単語から予測する技術
- 7回 Listening Test Part 3-B: 言い換えの技術
- 8回 Listening Test Part 4-A: アナウンスで用いられる表現、選択肢の単語から予測する技術
- 9回 Listening Test Part 4-B: Whoとwhereで始まる疑問文
- 10回 Reading Test Part 5-A: 未来を表す表現、時間を効率よく使う方法
- 11回 Reading Test Part 5-B: 過去を表す表現
- 12回 Reading Test Part 6-A: 品詞、時間を賢く使う方法
- 13回 Reading Test Part 6-B: 接尾辞から単語の品詞を見分ける技術
- 14回 Reading Test Part 7-A: 選択肢の難易度を見分ける技術、具体的な情報を見つける技術
- 15回 Reading Test Part 7-B: 文脈から単語の意味を推測する技術

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① TOEICのスコア50%
- ② 小テスト・課題30%
- ③ 課題 (eラーニング) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

成績評価の対象となるTOEICのスコアは、本学に入学後に受験した公開試験、カレッジTOEICもしくはTOEIC IPのものとなりますので、第1学期中に必ずいずれかの試験を受けてください。詳細は第1回の授業にて説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「テニスがうまくなりたい」としよう。テニスの試合を見ているだけでうまくなるだろうか。決してそんなに甘いものではない。自ら地道に毎日トレーニングを積み重ねて初めて、試合で満足のいくプレイができるようになるだろう。英語も同じである。授業を受けている(見ている)だけでは、決して上達しない。毎日の学習・練習・実践が必要である。学生一人ひとりの自覚と努力を期待する。

キーワード /Keywords

TOEIC基礎

(Introductory TOEIC)

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	TOEICの出題形式をもとに、基本的なリスニング力、リーディング力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	平易な英語を用いて、ビジネスの場面において必要な情報を収集することができる。
		TOEIC基礎	ENGI20F

授業の概要 /Course Description

本授業は、TOEICについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な英文法・語彙を復習するとともに、TOEICで必要とされる英語のリーディング力・リスニング力の養成を図る。特にTOEICで出題されやすい文法事項および語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図るとともに、少なくとも授業終了時までにはTOEICにおいて400点程度のスコアを取れる英語力をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol. 5』国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト：Part 1～4（リスニング）の概要
- 3回 TOEICテスト：Part 5～7（リーディング）の概要
- 4回 Part 1、Part 5と関連する文法の学習
- 5回 Part 2、Part 5と関連する文法の学習
- 6回 Part 3、Part 5と関連する文法の学習
- 7回 Part 4、Part 5と関連する文法の学習
- 8回 復習
- 9回 Part 6と関連する文法の学習、読解練習
- 10回 Part 7と関連する文法の学習、読解練習
- 11回 Part 1～4 総合復習
- 12回 Part 5～7の総合復習
- 13回 総合復習（全パート）
- 14回 読解練習
- 15回 模擬テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・40% 単語テスト・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修希望者が40名を超えるクラスについては、履修制限をかけることがある。

TOEIC基礎

(Introductory TOEIC)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICテストの難易度は高いが取り組み方により結果を出すことができるので、与えられた課題は必ず学習し準備してから授業に臨むこと。

キーワード /Keywords

英語演習 II

(English Skills II)

担当者名 /Instructor 植田 正暢 /UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師, 富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師
 江口 雅子 / Masako EGUCHI / 非常勤講師, 許 慧 / Hui XU / 非常勤講師
 林 南乃加 / Nanoka HAYASHI / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語によるコミュニケーションに必要とされる文法、語彙を習得する。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	比較的平易な英語を用いて、必要な情報を収集することができる。	
			英語演習 II	ENG110F

授業の概要 /Course Description

この科目では、コミュニケーションの道具として英語を用いるのに必要とされる受信力（読む・聞く）を向上させ、限られた範囲内であれば業務上のコミュニケーションも可能なレベルを目指す。そのためにTOEICテスト形式の問題を素材として扱い、卒業後にそれぞれの専門分野においてコミュニケーションの道具として英語を使うために最低限必要とされる英語の基本的な受信力（読む・聞く）を伸ばす。また、この授業を通して、卒業後の英語学習に活用できる学習方法やスキルを習得および実践し、自律的に学習する態度を養う。この授業では特に以下の4つを到達目標とする。

- ① 基本的な英語の文法の定着
- ② 基本的な英語の語彙の定着
- ③ TOEICテストにおいて470点以上の英語力の習得
- ④ 自律的な学習習慣の確立

教科書 /Textbooks

- ① Tactics for the TOEIC® Test: Listening and Reading Test Introductory Course. (By Grant Trew) Oxford University Press. ¥3,000 (消費税別)
- ② 『Newton e-learning』 ¥3,200 (なお、「英語コミュニケーションII」の再履修学生については別途指示する。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者より指示する。

英語演習 II

(English Skills II)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Listening Test Part 1-A: 現在時制、よくある誤答を見分ける技術
- 2回 Listening Test Part 1-B: 場所を表す前置詞
- 3回 Listening Test Part 2-A: 質問に間接的に答える方法、疑問詞と時制に注意を払って聴く技術
- 4回 Listening Test Part 2-B: Yes/noを用いないで答えるyes/no疑問文
- 5回 Listening Test Part 3-A: 意見を述べる表現、「40秒ルール」
- 6回 Listening Test Part 3-B: Whatで始まる疑問文
- 7回 Listening Test Part 4-A: 留守番電話・ボイスメール、具体的な情報を聴きとる技術
- 8回 Listening Test Part 4-B: When, why, howで始まる疑問文
- 9回 Reading Test Part 5-A: 不定詞と動名詞、接頭辞から意味を推測する技術
- 10回 Reading Test Part 5-B: 名詞と前置詞のコロケーション
- 11回 Reading Test Part 6-A: 接続詞、内容を理解することが求められる穴埋め問題
- 12回 Reading Test Part 6-B: 代名詞
- 13回 Reading Test Part 7-A: 大意と推論、ダブルパッセージ
- 14回 Reading Test Part 7-B: NOTの設問
- 15回 Review Test

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① TOEICのスコア50%
- ② 小テスト・課題30%
- ③ 課題 (eラーニング) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

成績評価の対象となるTOEICのスコアは、本学に入学した後に受験した公開試験、カレッジTOEICもしくはTOEIC IPのいずれかで、第1学期の成績評価のために使用していないものとなります。詳細は授業で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Basic R/W I

(Basic R/W I)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	目的にあった読み方で身近な話題について理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	簡単な英語を用いて自分の考えを適切に書き表すことができる。
		Basic R/W I	
		ENG203F	

授業の概要 /Course Description

英語の文章を読み理解するためにはパラグラフの構成を正しく理解していることが必要不可欠である。そのため、本科目では、身の回りの様々なトピックや時事問題に関する比較的平易な英語の文章を通して、英語のパラグラフの構成を理解するとともに、英語の基本的なリーディングストラテジーを身につける。特に、英語の基本的な文法・語彙について、リーディングを通して復習する。またモデルとなる文章を参考にしながら、自分の考えを簡単な英語を用いて表現できる力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 1 --Reading in Chunks--
成美堂 ISBN978-4-7919-3111-8

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 シラバスと概要の説明
- 2 回 Unit 1 All You Have to Do Is Press a Key (読解)
- 3 回 Unit 1 All You Have to Do Is Press a Key (文法と演習)
- 4 回 Unit 1 のまとめと復習
- 5 回 Unit 2 Why Does It Feel Easier to Run Counter-clockwise? (読解)
- 6 回 Unit 2 Why Does It Feel Easier to Run Counter-clockwise? (文法と演習)
- 7 回 Unit 2 のまとめと復習
- 8 回 Unit 3 Crusaders: Their Influence Is Still Felt (読解)
- 9 回 Unit 3 Crusaders: Their Influence Is Still Felt (文法と演習)
- 10 回 Unit 3 のまとめと復習
- 11 回 Unit 4 Beethoven, the First Composer to Keep His Independence (読解)
- 12 回 Unit 4 Beethoven, the First Composer to Keep His Independence (文法と演習)
- 13 回 Unit 4 のまとめと復習
- 14 回 Unit 5 The Plague Carried by Rats (読解)
- 15 回 Unit 5 The Plague Carried by Rats (文法と復習) 及びまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の演習及び課題、小テスト(30%)
授業への参加度(20%)
試験の成績(50%)

Basic R/W I

(Basic R/W I)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Basic R/W II

(Basic R/W II)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 富永 美喜 / Miki TOMINAGA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語のパラグラフ構造を理解して英文を読むことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	自分の考えを論理的に英語で表現し、パラグラフを作成することができる。
		Basic R/W II	ENG213F

授業の概要 /Course Description

論理的かつ英語らしい文章を書くためには、英文法・語彙について正確な知識を身につけていると共に、パラグラフの構成を正しく理解して書く必要がある。本科目では、自分の身の回りのトピックに関して、論理的かつ明快な英語の文章が書けるように、英語で文章を書く際によく用いられる表現や文法・語彙について学ぶとともに、英語による文章作成手法を学ぶ。授業で学んだスキルを活用して、授業終了時まで、目的に応じた文章が書けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

English Composition Workbook, Second Edition
MACMILLAN LANGUAGEHOUSE ISBN978-4-7773-6069-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバスと概要の説明
- 2回 Unit 1 Self-Introduction (be動詞、一般動詞)
- 3回 Unit 2 My Family, My Friends Chapter (名詞の単数・複数, 冠詞, 形容詞)
- 4回 Unit 3 My Room (there構文・前置詞)
- 5回 Unit 4 Everyday Activities (現在形・現在進行形)
- 6回 Unit 5 Recipes (他動詞・自動詞)
- 7回 Unit 6 Buying a Computer (副詞・比較級・最上級)
- 8回 課題作成 1
- 9回 Unit 7 Asking Questions (wh疑問文)
- 10回 Unit 8 Diary (5文型・過去形)
- 11回 Unit 9 Making a Reservation (未来形・would like to)
- 12回 Unit 10 Writing a Postcard (受動態)
- 13回 Unit 11 Job-Hunting (助動詞)
- 14回 Unit 12 Writing a letter (to不定詞)
- 15回 課題作成 2 及びまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度...10%
課題...30%
小テスト...20%
試験...40%

Basic R/W II

(Basic R/W II)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された英文に出てくる慣用表現、熟語、注意すべき表現は確実に覚えておくこと。
課題が多いので、欠席のないように注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物理実験基礎

(Fundamentals of Experiments in Physics)

担当者名 /Instructor
村上 洋 / Hiroshi MURAKAMI / 機械システム工学科 (19~), 松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~), 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19~)
古閑 宏幸 / Hiroyuki KOGA / 情報システム工学科 (19~), 京地 清介 / Seisuke KYOCHI / 情報システム工学科 (19~)
高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 小山田 英弘 / Hidehiro KOYAMADA / 建築デザイン学科 (19~)
加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習物理の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物理現象の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	技術者として必要な基本的な実験技術、解析技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験データの解析方法、物理現象に関する考察の進め方を修得する。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス及び結論を適切な方法で表現する手法を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	自分の考えを相手に効果的に伝え、討論できる能力を身につける。

※学科により、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物理実験基礎

PHY101M

授業の概要 /Course Description

高度に細分化した工学の分野において理解を深めるには、基礎的な物理現象を把握することが何より不可欠である。本授業では、各種物理実験を体験し、測定を主体とする実験法の実習の解析手法を学習する。工学分野の基礎となる物理量の測定を通して様々な計測装置に触れるとともに、測定の進め方、測定データの解析方法、物理現象に対する考察の進め方、レポートの作成方法を習得する。

教科書 /Textbooks

初回のガイダンスの時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校の物理の教科書や参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目： ガイダンス (履修上の諸注意)

2回目以降： 以下の実験項目より、指定された数種を行う。なお、レポート作成後は指定された日に査読を受けること。修正の指摘に応じレポートを再提出すること。

- ・ 密度測定
- ・ ボルタの振り子
- ・ 熱起電力
- ・ 金属の電気抵抗の温度係数測定
- ・ Planck定数の測定
- ・ 強磁性体の磁化特性
- ・ ダイオードとトランジスタのIV特性

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・52% レポート・・・48%
(レポート未提出者は、単位を認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

物理実験基礎

(Fundamentals of Experiments in Physics)

履修上の注意 /Remarks

実験を行う前に実験テキストに目を通しておくこと。
指定された日に必ず実験を行い、自分の力でレポートを仕上げる事。他人のレポートや著作物を丸写し（引き写しともいう）して作成したレポートを提出した場合は単位を認めない。詳しくは初回のガイダンス時に指示があるので、聞き漏らすことのないように注意する事。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在行われている最先端の実験の多くは、これら基本的な測定法の積み重ねといえます。そこで人任せにしたりせず、自分の経験とするよう心がけましょう。この授業での発見と感動が、やがて偉大な大発明へとつながるかも知れないのですから。

キーワード /Keywords

物理，力学，重力加速度，電磁気，電流，電圧，温度，科学，密度，振り子，熱起電力，電気抵抗，Planck定数，磁気，ダイオード，トランジスタ

微分・積分

(Calculus)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19~), 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習数学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	関数としての微分、積分の基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	化学・生物化学の分野でよく使用する微分、積分のスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

微分・積分

MTH102M

授業の概要 /Course Description

本講義は、化学及び環境工学を学ぶなかで使用される数学について講義します。微分・積分を含む数学を習得することにより、化学・環境分野の問題を理論的・定量的に解くための能力を育成することを目標としています。

教科書 /Textbooks

ピーター・テビット 「化学を学ぶ人の基礎数学」 化学同人 1997年 ¥3,675

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川 末 「環境のための数学」 朝倉書店 2005年 ¥3,045
石村 園子 「大学新入生のための微分積分入門」 共立出版 2004年 ¥2,100
石村 園子 「やさしく学べる微分積分」 共立出版 1999年 ¥2,100

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 履修の注意説明：前半
 - 特殊関数 - 1) 変数と関数の一般形
- 2 特殊関数 - 2) 指数関数・対数関数
- 3 特殊関数 - 3) 三角関数
- 4 微分 - 1) 導関数と還元公式
- 5 微分 - 2) 様々な関数の微分
- 6 微分 - 3) 二次導関数とその応用：気体の状態方程式
- 7 微分 - 4) 偏微分とその応用：化学熱力学の法則
- 8 前半まとめ
- 9 履修の注意説明：後半
 - 積分 - 1) 微分の復習と積分
- 10 積分 - 2) 基本関数の積分・置換積分
- 11 積分 - 3) 部分積分
- 12 積分 - 4) 定積分
- 13 積分 - 5) 積分の応用例
- 14 積分 - 6) 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

微分・積分

(Calculus)

履修上の注意 /Remarks

判らない点があれば、授業の後やオフィスアワーを利用して質問して下さい。それ以外の時間も可能な範囲で対応します。
講義の前半・後半それぞれの初回に担当教員から履修上の注意を説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

一般化学

(General Chemistry)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 機械システム工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	化学分野の専門科目の理解に必要な基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

一般化学

CHM100M

授業の概要 /Course Description

化学の基礎を学ぶために、身近な物質を題材として構造や性質を化学および物理の原理に基づいて学ぶ。まず、身近な有機・無機材料の構造や性質について学習する。いくつかの例についてはどのようにして工業的に製造されるかを学ぶ。また、暮らしの中の先端材料について学び、化学物質、材料について関心を持つ。これらの内容を通じて、複雑そうに見える物質や材料あるいは化学現象でも周期表の見方と化学結合の基礎に立てば、比較的単純な物理や化学の法則を用いて理解できることを学ぶ。

教科書 /Textbooks

一般化学(芝原寛泰、斉藤正治) 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

現代有機化学(上)第4版(K. ピーター C. ヴォルハルト / ニール E. ショアー) 化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 原子と分子の構造・物質とは
- 2 気体の特徴、気体分子運動論
- 3 化学結合の形成と性質
- 4 固体、液体
- 5 化学変化とエネルギー
- 6 反応速度と化学平衡
- 7 酸と塩基
- 8 酸化と還元
- 9 電解質と電気化学
- 10 有機化学(1) 有機化合物とは
- 11 有機化学(2) 炭化水素化合物の命名法
- 12 有機化学(3) 官能基をもつ有機化合物の命名法
- 13 有機化学(4) 有機化合物の構造の特徴
- 14 有機化学(5) 有機化合物の結合
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 30%
レポート 20%
試験 50% (小試験および講義全体を範囲とした期末試験)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

一般化学

(General Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

高校での化学1および化学2について十分復習する。
授業は導入が主体であるので、与えられた教科書により十分復習することが必要である。
特に、エネルギー循環化学科、環境生命工学科の学生については、今後の大学における化学系科目を履修する上で大前提となる科目なので、十分な学習が必要である。
第2学期開講の基礎有機化学(エネルギー循環化学科、環境生命工学科必修科目)では、ここでの有機化学の内容が修得されているものとして講義が進められますので、履修予定の学生はよく理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考えるとき、物質の化学的変化への認識は避けられません。我々の生活やその他の生命活動、資源の利用などの根本が物質の真の変化に基いていることを理解しましょう。また、化学は本当は単純で理解し易いものです。複雑な化学式を理解しなくても化学は分かるのです。

キーワード /Keywords

化学実験基礎

(Basic Chemistry Experiments)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 実験・実習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習化学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	化学実験の基礎技術を学習し、薬品、器具類の正しい使用法を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験結果の分析や解釈の方法を学び、正しく評価する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	●	実験の目的、方法、結果及び結果の解釈や考察をレポートとしてまとめるための基礎的な能力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実験手順や作業の意味を考え理解するとともに、よりよい方法を考えて実践する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	化学物質や実験器具の操作に対する危険性を把握し、常に安全を意識する姿勢を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	チームで行う共同実験を通じてメンバー間のコミュニケーションをはかり、さらに実験指導の教員、EA、TAとの会話能力を身につける。
			化学実験基礎
			CHM101M

授業の概要 /Course Description

化学実験に関する基本的な知識、考え方、技術などを習得する。

教科書 /Textbooks

「実験テキスト」、「化学のレポートと論文の書き方」（監修：小川雅彌ら、化学同人）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス・安全講習・レポートの書き方講座
- 実験器具・試薬の取り扱い方
- 重量測定・容量測定 1日目
- 重量測定・容量測定 2日目
- レポート指導
- 温度・熱量測定 1日目
- 温度・熱量測定 2日目
- 中和滴定 1日目
- 中和滴定 2日目
- レポート指導・実技試験 1日目
- レポート指導・実技試験 2日目
- レポート指導・実技試験 3日目
- 酸化還元滴定 1日目
- 酸化還元滴定 2日目
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実験の実施 50%
レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学実験基礎

(Basic Chemistry Experiments)

履修上の注意 /Remarks

事前に実験テキストを熟読し、目的や方法などを各自でまとめて実験に臨むこと。
本実験を通して習得する基礎知識、考え方、取り扱い方、まとめ方などは、2年次以降で行われる各種専門実験や卒業研究の基礎となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学は実験によって進歩してきた学問です。高等学校ではほとんど化学実験が行われなくなっている今、実験がいかに大切で難しいかを体験してもらいたいと思います。

キーワード /Keywords

微分方程式

(Theory of Differential Equations)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 寺嶋 光春 / Mitsuharu TERASHIMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	微分方程式の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	修得した微分方程式の基礎知識を演習により実践し、技術開発に活用する技能を身につけている。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力		
			微分方程式 MTH106M

授業の概要 /Course Description

本講義では2年生から本格的に専門の講義が開始されるのに先立ち、化学と関係の深い数学分野につき基礎的学力を養うことを目的とする。具体的には、微積分の基礎の復習から入り、線形微分方程式の解法と、近似解の求め方へと学習を進める。

教科書 /Textbooks

「やさしく学べる微分方程式」(共立出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「化学を学ぶ人の基礎数学」(化学同人)、「工業数学上・下」(ブレイン図書出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、微分方程式とは
- 2 微分方程式と解
- 3 微分方程式を解く前に 微分の復習を兼ねて
- 4 微分方程式を解く前に 積分の復習を兼ねて
- 5 変数分離形の微分方程式
- 6 変数分離形に直せる微分方程式
- 7 1階線形微分方程式
- 8 演習
- 9 線形微分方程式の解
- 10 2階定係数線形同時微分方程式
- 11 2階定係数線形非同時微分方程式 未定係数法
- 12 2階定係数線形非同時微分方程式 定数変化法
- 13 高階線形微分方程式
- 14 近似解
- 15 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 20%
期末テスト 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校の理系の数学(微分・積分を含む)を習得しておくこと。

微分方程式

(Theory of Differential Equations)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者・技術者は、現象を理解するだけでなく、それをモデル化し、定量的に解析することも要求される。そのために必要とされる数学的素養をしっかりと身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

基礎有機化学

(Basic Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	有機化合物の構造、結合、反応に関する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	本講義で修得する知識を組み合わせ、有機化学に関する諸問題を解決するための論理的思考力を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			基礎有機化学
			CHM120M

授業の概要 /Course Description

有機化学は、化学の中で物理化学や無機化学などと並んで極めて重要な学問領域である。本講義では、有機化合物の構造や反応性について理解し、有機化学の基礎を修得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

現代有機化学(上)第4版(K. ピーター C. ヴォルハルト / ニール E. ショアー) 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 有機分子の構造と結合 (1) 原子の電子配置、化学結合とオクテット則
- 2 有機分子の構造と結合 (2) 化学結合とオクテット則、極性をもつ結合
- 3 有機分子の構造と結合 (3) 分子軌道と共有結合、混成軌道
- 4 共鳴構造 (1) 共鳴理論
- 5 共鳴構造 (2) 共鳴構造の相対的重要性、共鳴極限構造からわかること
- 6 構造と反応性 (1) 化学反応の速度論と熱力学
- 7 構造と反応性 (2) 酸・塩基
- 8 構造と反応性 (3) 酸・塩基、官能基
- 9 アルカン(1) アルカンの構造・立体配座
- 10 アルカン(2) アルカンの反応
- 11 シクロアルカン
- 12 立体異性体 (1) 立体異性体 (1) キラルな分子、光学活性
- 13 立体異性体 (2) 絶対配置、複数の立体中心を持つ分子
- 14 ハロアルカンの性質と反応 (1) ハロアルカンの性質、求核置換反応
- 15 ハロアルカンの性質と反応 (2) 求核置換反応の反応機構と反応性に影響を与える因子

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 40% 第1~8回までの範囲にわたり出題
期末テスト 60% 全範囲にわたり網羅的に出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基礎有機化学

(Basic Organic Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

テキストをよく読み、演習問題を解くこと

2年次で開講される有機化学I、有機化学IIおよび有機化学実験の基礎となる科目であるので十分に予復習を行い、理解すること。

1年次1学期に開講される一般化学のうち、有機化学分野の内容(命名法など)が理解されていることを前提として講義を行います。十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テキストに出てくる専門用語や記述の仕方になれることが大事です。そのためによく予習、復習を行うようにしてください。

キーワード /Keywords

基礎無機化学

(Basic Inorganic Chemistry)

担当者名 /Instructor 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	元素の性質を決定付けている電子軌道の概略と各元素特性についての基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各族ごとに有する特性を理解し、環境に関する諸問題を解決するための論理的思考力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

基礎無機化学

CHM130M

授業の概要 /Course Description

環境問題を解決するためには多くの化学製品が活躍しているが、耐久性の観点からその多くは無機物質にてまかなわれている。環境化学材料の基礎となる無機化学のうち、本講義では原子の姿、元素分類、化学結合などについて講義する。反応に関与する基礎的な電子状態についての理解と、各元素各論の学習を目標としている。

教科書 /Textbooks

(基礎化学シリーズ9) 基礎無機化学 佐々木義典、他著 朝倉書店)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ムーア 基礎物理化学 上・下巻 Walter J. Moore著、細谷治夫ら訳、東京化学同人)
ベーシック無機化学 鈴木普一郎・中尾安男・櫻井武著 化学同人
Rock and GEM, Ronald Louis Bonowitz, DK Publishing

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 原子の姿 ポーアの水素模型とエネルギー順位
3. 原子の姿II 波動方程式
4. 原子の姿III 電子軌道の形
5. パウリの排他則とフント則
6. 周期律表
7. 原子軌道と蛍光X線
8. 前半まとめ演習
9. 演習の解説
10. 元素各論 水素とアルカリ金属
11. 元素各論II アルカリ土類と希ガス系元素
12. 元素各論III 遷移金属元素
13. 元素各論IV 重元素
14. 放射性同位体と原子力発電
15. 化学結合

成績評価の方法 /Assessment Method

前半のまとめ演習 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基礎無機化学

(Basic Inorganic Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

前半のまとめ演習、演習の解説の2回は関数電卓を持参すること。
講義はパワーポイントファイルの映写をメインに、随時板書を併用して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学の基礎は、原子周囲を取り巻く電子軌道の理解から始まります。波動方程式なども少しか扱いますが、式の変形や解き方はあまり本講義では扱いません。それよりも式の各項の持つ意味や、電子軌道の概形/特性の大きな理解、個別元素の特性理解を目的に講義を行います。二年次で開講される無機化学・演習に内容が繋がっていますから、最初で躓かぬよう頑張ってください。

キーワード /Keywords

環境統計学

(Statistics for Environmental Engineering and Planning)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year
単位 /Credits 2単位 /2 Credits
学期 /Semester 1学期 /1st Semester
授業形態 /Class Format 講義 /Lecture
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 基本的な分布、母集団の平均値の比較など、データの統計解析の基礎となる事項を実際に使える形で身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境統計学

ENV210M

授業の概要 /Course Description

環境問題の考察においては、ある事象と別の事象との間に明らかな差があるかどうか判定が必要となるケースが多い。たとえば、「自動車のアイドリングをストップすると本当に二酸化炭素排出量を減らすことができるか」という疑問に答えるためには、測定データを統計的に解析して、ストップの有無における有意差を判定することになる。一方、実験や調査で得られる測定データにはさまざまな誤差が含まれているため、科学的な結論を得るには、統計の技法で誤差を適切に処理する必要がある。環境統計学では、これらの基本的な技法を学ぶ。また、演習問題として環境問題の解析事例を取り上げ、解析のポイントと直感力を養う。これら技法学習と事例演習の組み合わせにより、基礎学問の数学を実践的に活用していくことができるようになる。

教科書 /Textbooks

石村園子(2006)「やさしく学べる統計学」共立出版、2100円(消費税額によって変更の可能性あり)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 母集団と標本、確率の表現1 (例: ポワソン分布)
- 母集団と標本、確率の表現2 (例: 二項分布)
- データの特徴を捉える1 (ヒストグラム、スタージェスの公式)
- データの特徴を捉える2 (正規確率紙による可視化)
- 母集団と標本、確率の表現3 (例: 正規分布、確率密度関数)
- 母集団と標本、確率の表現4 (例: 指数分布、確率密度関数)
- 母集団と標本、確率の表現5 (例: 確率紙による可視化)
- 中間演習(1)
- 最小二乗法と回帰直線
- 統計的推定 (よい推定量とは、点推定と区間推定)
- 統計的検定1 (母平均は狙った値か: 正規分布による検定)
- 統計的検定2 (母平均は狙った値か: t分布による検定)
- 統計的検定3 (母平均は狙った値か: t分布による検定つづき)
- 統計的検定4 (2つの母平均は等しいか: t分布による検定)
- 統計的検定5 (発展的問題)、中間演習(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・レポート 20%
中間演習 40%
期末テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境統計学

(Statistics for Environmental Engineering and Planning)

履修上の注意 /Remarks

ポワソン分布、二項分布、指数分布、正規分布等について予習しておくこと。
関数電卓、定規、方眼紙を持参すること。
知識を身につけるために原則として毎回課題（小テスト、レポート、中間演習等）をだす。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境研究や実験データ分析に不可欠な統計学の基本を学ぶ。統計的思考法に慣れてほしい。

キーワード /Keywords

物理化学実験

(Experiments in Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓红 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) ,Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	物質の物理化学的性質を測定する実験技術や、実験結果の理論的な解析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験を通して物理化学的な思考力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	レポートの作成訓練を通して、プレゼンテーション力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実験技能の訓練を通して、実践に役立つ能力を修得する。
	社会的責任・倫理観	●	実験の計画、安全確保、適正な破棄物の処理などの訓練を通して社会的責任・倫理観を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	グループのメンバーと協力しながら実験を進めていくためのコミュニケーション力を修得する。
			物理化学実験
			CHM280M

授業の概要 /Course Description

物理化学の各種測定技術や、実験結果の理論的な解析手法を習得し、それを通じて物理化学的な思考ができるよう訓練する。

教科書 /Textbooks

実験テキスト

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

物理化学実験のてびき (化学同人) など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 粘度測定
3. 密度測定
4. pH測定
5. 反応速度
6. 酸解離定数
7. 凝固点降下
8. 分配係数
9. 相互溶解度
10. 粒子径分布
11. 流動状態観察
12. 表面電位
13. 表面積
14. 吸着
15. 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作・態度50%

レポート50%

ただし、すべての実験を行い、それぞれの実験に対するレポートを期限内に提出した者だけを評価の対象とする。なお、未完成のレポートの提出は認めない。

物理化学実験

(Experiments in Physical Chemistry)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に実験テキストをよく読んでおくこと。実験に関連する内容について、物理化学の教科書や参考書などを通読しておくこと。スタッフの指示に従い、安全に十分注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実験を通して物理化学の講義で学んだことの理解を深めてください。

キーワード /Keywords

化学平衡と反応速度

(Chemical Equilibrium and Rate of Reaction)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物理化学の基礎をなす化学平衡、反応速度論に対する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	平衡計算、反応速度解析、予測法について、演習を通して実践に役立つ能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	化学反応で観察される現象を、物理化学的な観点から理論的に解釈、考察する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

化学平衡と反応速度

CHM211M

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶ人にとっては必要不可欠なものである。本講義では化学熱力学に引き続き、化学平衡および反応速度論について学習する。

教科書 /Textbooks

アトキンス物理化学 第8版 (上、下) (東京化学同人)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

アトキンス物理化学問題の解き方(学生版) 第8版 英語版 (東京化学同人)
「これならわかる熱力学」 鈴木孝臣著(三共出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、相図
- 2 相の安定性と相転移
- 3 混合物の熱力学的な記述
- 4 自発的な化学反応
- 5 平衡状態
- 6 平衡に対する圧力の影響
- 7 平衡の温度による変化
- 8 演習
- 9 反応速度
- 10 積分型速度式 1次反応
- 11 積分型速度式 2次反応
- 12 平衡に近い反応
- 13 反応速度の温度依存性
- 14 速度式の解釈
- 15 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 20%
期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学平衡と反応速度

(Chemical Equilibrium and Rate of Reaction)

履修上の注意 /Remarks

予習・復習および演習を十分に行うこと。授業には関数電卓を持参すること。
化学熱力学の履修を前提として講義を進める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要である。

キーワード /Keywords

有機化学 I

(Organic Chemistry I)

担当者名 /Instructor 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

 授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	有機化合物の官能基構造、反応性、合成の反応機構に関する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	有機化合物の反応性、反応機構を官能基や立体構造、電子移動の観点から考察する力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

有機化学 I

CHM221M

授業の概要 /Course Description

 基礎有機化学で学んだ分子構造や結合をベースに有機化学反応の反応機構および合成を学ぶ。特に、求核反応や脱離反応に対する反応機構と速度論、それに関連した官能基化合物（例えば、アルコール、アルケン、アルキン、 π 電子系）の反応と性質、合成について解説する。

教科書 /Textbooks

現代有機化学（上）第6版（K. ピーター・C. ヴォルハルト / ニール・E. ショアー） 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎有機化学（R. J. Fessenden/J. S. Fessenden）化学同人の他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 二分子求核置換反応(SN2)
- 一分子求核置換反応(SN1)
- ハロアルカンの脱離反応(E1とE2)
- アルコール性質、合成および合成戦略
- アルコールの反応
- エーテルの化学
- 中間まとめと例題演習
- アルケンの求電子付加反応
- アルケンの反応：ヒドロホウ素化 - 酸化の他
- アルキンの性質と結合
- アルキンの求電子付加反応
- 非局在化した π 電子系
- 共役ジエンの特性と反応
- 例題演習
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

 中間試験 35%
 レポート 20%
 期末試験 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

練習問題や章末問題は、講義内容を理解するのに役に立ちます。基礎有機化学で学んだ炭素結合や軌道論を復習しておくことを勧めます。

有機化学 I

(Organic Chemistry I)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今後、高級有機化学反応を学ぶ際の準備として、テキストに登場する新しい用語・人名反応をしっかりと覚えるとともに関連した例題を自分の力で解いてみる練習が必要です。

キーワード /Keywords

求核置換反応、脱離反応、アルコール、エーテル、アルケン、アルキン、非局在化

無機化学

(Inorganic Chemistry)

担当者名 /Instructor 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原子の特性に基づいた分子の性質に関する知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	物質が示す特性を原子・分子の性質に立脚して論理的に考察する能力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		
			無機化学
			CHM231M

授業の概要 /Course Description

原子の性質は電子の存在状態に依存し、原子と原子の結合にも電子の状態が大きく影響を与える。本講義では、原子中における電子の配置や挙動に基づいて、原子間に形成される結合状態や分子の性質・構造について解説する。
本講義を通して、原子中の電子状態と原子同士の結合の仕組みや結合の種類との関連性についての基礎知識を身に付け、分子の性質・構造を電子状態から理解する能力を養う。

教科書 /Textbooks

『基礎無機化学』 佐々木義典、服部豪夫、小松優、掛川一幸、岩館泰彦著 朝倉書店出版 1997年 3,780円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『化学結合の量子論入門』 小笠原正明、田地川浩人著 三共出版社 1995年 2,310円
- 『化学結合と分子の構造』 三吉克彦著 講談社 2006年 3,990円
- 『シュライバー・アトキンス無機化学第4版(上・下)』 田中勝久、平尾一之、北川進訳、東京化学同人 2008年 6,825円(上)、6,720円(下) (他の版も図書館蔵書)
- 『無機化学-その現代的アプローチ-第2版』 平尾一之、田中勝久、中平敦著 東京化学同人 2013年 3,675円 (初版は図書館蔵書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 水素原子
2. 電子の軌道
3. 多電子原子の軌道
4. イオン結合【イオン化】
5. イオン結合【結晶状態】
6. 共有結合【電子配置】
7. 共有結合【原子価結合法】
8. 演習I
9. 共有結合【分子軌道法】
10. 共有結合【分子軌道法・単純系】
11. 共有結合【分子軌道法・複雑系】
12. 配位結合
13. 演習II
14. 水素結合
15. 金属結合と固体の構造

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

無機化学

(Inorganic Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

「基礎無機化学」で学習した内容、特に量子化学の箇所を理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初学者には難度が高い内容になるので、集中して取り組むこと

キーワード /Keywords

原子構造、分子構造、結晶構造、電子状態

有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19 ~)
中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~) , 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 4単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	有機反応・合成を実践する際に必要な基本的なスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	実験の結果を詳細に分析し、その結果が得られた原因を解き明かす能力を修得する。
	プレゼンテーション力	●	実験の成果をまとめて他人に分かるように報告する能力を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	座学で得られる知識をより確実なものにするために、化学では実験が必要不可欠であることを確認する。
	社会的責任・倫理観	●	有機化合物が社会に対してどのような影響を与えるのかを理解し、正しく取り扱う倫理観を養う。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	グループのメンバーと協力しながら実験を進めていくためのコミュニケーション力を修得する。
			有機化学実験
			CHM281M

授業の概要 /Course Description

有機化学実験の基礎技術を修得し、それらを組み合わせた応用実験へと展開できる能力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

独自に作成したものを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1週目 安全講習、レポートの書き方、前半の実験内容に関する講義
- 2週目 合成・反応実験 (1) Diels-Alder反応
- 3週目 合成・反応実験 (2) Grignard試薬の合成
- 4週目 合成・反応実験 (3) アルコールの酸化
- 5週目 合成・反応実験 (4) ケトンの還元
- 6週目 合成・反応実験 (5) ルミノールの合成と化学発光
- 7週目 合成・反応実験 (6) スペクトル解析
- 8週目 後半の実験内容に関する講義
- 9週目 合成・反応実験 (7) 求核置換反応
- 10週目 合成・反応実験 (8) 求核置換反応
- 11週目 合成・反応実験 (9) 芳香族求電子置換反応
- 12週目 合成・反応実験 (10) 芳香族求電子置換反応
- 13週目 合成・反応実験 (11) 反応速度論
- 14週目 合成・反応実験 (12) 反応速度論
- 15週目 総括

有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

成績評価の方法 /Assessment Method

すべて出席し、実験を行ったものに対して、レポート(試験・口述諮問に代替する場合あり)で評価する。
レポートの評価基準は下記の通りである。

1. 実験内容の理解度・論理性 60%
2. 実験操作に対する理解度 30%
3. 書式・体裁 10%

ただし、締切期限を過ぎて提出されたレポートは評価されない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず、実験の予習を行ってこよう。予習内容は、実験で取り扱う反応、操作の原理、操作のフローチャートの作成です。
また、基礎有機化学、有機化学I、有機化学IIの内容と関連しているので、講義内容に十分に学習し、実験操作や結果の意味がすぐに理解できるようにしておくこと。
実験ですので、出席して実験を行うことが何よりも必要です。したがって、出席が重視されますので、必ず出席し、実験を行ってください。遅刻も厳禁です。欠席1回で単位はつきません。遅刻は3回で欠席1回とみなします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学実験は、正しく行えば安全で楽しいものです。しかし、僅かな誤操作が大きな事故につながる危険性を持っています。きっちりと予習をし、安全に実験を行うことを心がけてください。

キーワード /Keywords

Diels-Alder反応、Grignard反応、酸化と還元、化学発光、求核置換反応、求電子置換反応、反応速度論

分析化学

(Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	分析化学、溶液化学を理解するための基礎知識と計算力を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	環境分析、材料分析に必要な基礎知識と問題解決能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			分析化学【化学】
			CHM241M

授業の概要 /Course Description

分析化学は、物質をプローブとして物質系からその情報を取り出す方法論に関わる学問であり、自然科学とその応用技術分野を結びつける重要な役割を果たしている。また、環境指標の評価においても不可欠な基礎的学問である。この講義では、物質の分析法の基礎となっている溶液内化学反応について解説し、これを応用した定性的及び定量的な分析法について具体的事例を示しながら講義する。

教科書 /Textbooks

環境分析化学（合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田共著、三共出版）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 溶液化学基礎 - 化学平衡、活量、イオン強度、活量係数 -
- 2 酸塩基平衡 - 質量作用則、物質収支、電荷収支 -
- 3 酸塩基平衡 - 弱酸の平衡 -
- 4 酸塩基平衡 - 弱塩基の平衡 -
- 5 酸塩基平衡 - 強酸・強塩基、多塩基酸・多酸塩基の平衡 -
- 6 酸塩基平衡 - 両性電解質の平衡 -
- 7 演習問題解答会
- 8 前半総括
- 9 錯生成平衡 - 錯体と錯イオン、錯生成反応 -
- 10 錯生成平衡 - 錯生成定数、安定度定数 -
- 11 沈殿生成平衡 - 沈殿生成反応、溶解度積 -
- 12 沈殿生成平衡 - 共通イオン効果、異種イオン効果 -
- 13 酸化還元平衡 - 酸化還元反応、ネルンスト式 -
- 14 酸化還元平衡 - 電池と起電力、酸化還元滴定 -
- 15 演習問題解答会

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験：40%

期末試験：40%

演習問題解答など日頃の講義への取組：20%

※再試験の受験資格は、中間試験と期末試験を受験しており、かつ、出席が2/3以上、かつ、総合評価で合格する可能性のある者

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分析化学

(Analytical Chemistry)

履修上の注意 /Remarks

中間試験について： 溶液化学基礎、酸塩基平衡について勉強しておくこと。
期末試験について： 錯生成平衡、沈殿生成平衡について勉強しておくこと。
講義は教科書の他、演習問題などのプリントを配布して行う。
この講義はエネルギー循環化学科の学生対象であり、環境生命工学科の学生は再履修や再試験を含めて環境生命工学科用の分析化学を履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境指標を定性的あるいは定量的に評価するための分析化学について、その基礎となる理論から応用までをしっかりと理解して欲しい。
この講義は3年の環境分析実習と直結しているので、操作法や技術は実践で身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

溶液化学基礎、酸塩基平衡、錯形成平衡、沈殿生成平衡

化学工学

(Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	流体中の粒子の運動や伝熱に関する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	流体中の粒子の運動や伝熱の状態に関する問題解決能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で扱う化学プロセスの状態を、計算した数値に基づいて定量的に判断する能力を修得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※エネルギー循環化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。

化学工学

CHM261M

授業の概要 /Course Description

本講義では、化学工学のうち「流体と粒子の分離」、「エネルギーと伝熱」について学習する。これらの操作が実際の工業プロセスでどのように使われているかを意識しながら、講義と演習により授業を進める。本講義の到達目標は、

- ・ 流体中の粒子の運動方程式を立式し、終末速度を導くことができる
- ・ 粒子がどのような運動領域にあるかを判断し、正しい数値解を求めることができる
- ・ 伝熱の様式の違いを理解し、それぞれの様式における伝熱量を正しく計算することができる
- ・ 熱交換器の熱移動量に関する理論を理解し、伝熱量を正しく計算することができる

である。

教科書 /Textbooks

化学工学会編 『基礎化学工学』 培風館 1999年 ¥2,800 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション -工業プロセスと化学工学-
- 2 流れとレイノルズ数
- 3 流体中の単一粒子の運動(1) - 運動方程式と終末速度 -
- 4 流体中の単一粒子の運動(2) - Stokes域、Allen域、Newton域 -
- 5 流体からの粒子の分離(1) - 重力分離装置 -
- 6 流体からの粒子の分離(2) - ろ過 -
- 7 粒子系の評価 -分布と平均-
- 8 前半の演習
- 9 伝熱(1) -伝導-
- 10 伝熱(2) -対流-
- 11 伝熱(3) -熱抵抗と総括伝熱係数-
- 12 伝熱(4) -放射-
- 13 伝熱(5) -演習-
- 14 熱交換器
- 15 総合演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%
ただし出席率が70%を下回った場合、期末試験を受けることはできない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学工学

(Chemical Engineering)

履修上の注意 /Remarks

2年次・第1学期に開講される「基礎化学工学」の内容をよく理解しておくこと。
毎回、関数電卓必携。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工学を理解するには授業を聞くだけでは不十分です。授業の前に予習を行い、授業で演習問題を自分の手で解いていく課程で理解が深まりますので、授業には積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本の表層文化のみならず、その根柢に潜在する深層文化をも理解し、日本社会において自信を持って生活することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も良識ある社会人として日本社会に参画できるよう、日本文化に関する深い知識の探求を継続することができる。
	コミュニケーション力	●	日本人と相互に理解し合えるように、日本人の考え方を知り、異文化において自分を活かせるコミュニケーション方法を習得する。
			日本事情
			JPS100F

授業の概要 /Course Description

この授業では、外国人学生が日本に関する知識を学ぶだけでなく、深層文化である日本人の考え方、観念などに関しても考え、主体的に日本の文化・社会に参加し、かつ日本風に主張もできる能力を身に付けることを目指す。現代日本の文化・社会に関するテーマについて討論し理解を深め、異文化間コミュニケーションが円滑に行なえるようにする。授業の中で、日本人学生や地域の人々を招き興味あるテーマに関して討論会なども行い、日本人との交流を通して学ぶ。

教科書 /Textbooks

『文化の壁なんてこわくない』,水本光美・池田隆介,北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室,2011.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ホームページの教材 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション&クラスのルールについて
- 2 時間の感覚 1 : 適切な時間とは
- 3 時間の感覚 2 : 「ちょっと」ってどのくらい？
- 4 病気・ケガ対処法 : 健康保険は払えば得する
- 5 事故の対処法 : 交通規則を知っている？
- 6 お礼・お詫び : 日本人は2度言う
- 7 不正行為 1 : たった1回が命取り
- 8 不正行為 2 : レポートなのに不正行為？
- 9 お願い : 保証人が必要だけど
- 10 期末プレゼンテーションの計画
- 11 日本人とのつきあい 1 : 本音と建て前
- 12 ゲスト大会 : 日本人と話し合っって日本を知ろう！
- 13 ゲスト大会 : 日本人と話し合っって日本を知ろう！
- 14 お金の感覚 : たかが100円、されど100円
- 15 プロジェクトワーク (日本事情スキット大会) の準備

※予定は状況によって変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的授業参加（討論含む）20%
宿題&課題 30%（作文・発表準備を含む）
小テスト 30%
期末プレゼンテーション 20%

※ 出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1. 視聴覚教材は「留学生のホームページ」 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/> 参照。
2. 受講生は、Hibikino e-Learning Portal (moodle) に登録する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在の日本に関する様々な知識を学びながら日本人、日本文化をより深く理解しましょう。異文化の中にありながら自分らしさを失わずに上手に異文化コミュニケーションをする方法を身につけ、今後の留学生活を楽しく有意義なものにしましょう。

キーワード /Keywords

表層文化, 深層文化, 考え方, 異文化間コミュニケーション, キャンパス生活適応, 地域社会への主体的参加

総合日本語 A

(Integrated Advanced Japanese A)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	必要な情報を適切な手法で収集し、正確に理解するための日本語能力を身につける。
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、様々な状況で応用可能なアカデミック・ジャパニーズ能力を習得する。
	コミュニケーション力	●	留学生が大学生活に適應するために必要な日本語能力を総合的に身につける。
			総合日本語 A
			JSL100F

授業の概要 /Course Description

一般的な日本語でのコミュニケーション能力を向上させ、話す聴く読む書くの4技能を上級の中レベル以上に発達させることが、大学生活を円滑に送るために必須の日本語能力である。この授業では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、長文をできるだけ短時間で、かつ、正確に理解する訓練を繰り返し行い、また、単語・文の羅列ではなく、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールできるレベルの作文能力を身に着けることを目指す。

教科書 /Textbooks

池田隆介『総合日本語A』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室日本語教育プログラム）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

総合日本語A

(Integrated Advanced Japanese A)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 論理的な文章の書き方 1 書き言葉
 2. 論理的な文章の書き方 2 「は」と「が」の区別
 3. 論理的な文種の書き方 3 名詞化
 4. メールの使い方
 5. 会話 1: 依頼
 6. 会話 2: 断り
 7. 発表 1: プロジェクトの説明
 8. 発表 2: 資料の引用
 9. 発表 3: 事実と意見
 10. 発表 4: 音読試験
 11. 発表 5: レジユメを書く(1)名詞化
 12. 発表 6: レジユメを書く(2)インデント
 13. 発表 7: PowerPointの注意点
 14. 発表 8: 司会・進行
 15. 発表 9: ミニ発表会
 16. 中間課題
 17. 読解ユニット 1 「環境と経済」(1)読む前に
 18. 読解ユニット 1 「環境と経済」(2)重要表現
 19. 読解ユニット 1 「環境と経済」(3)精読
 20. 読解ユニット 1 「環境と経済」(4)精読・理解チェック
 21. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(1)読む前に
 22. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(2)重要表現
 23. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(3)精読
 24. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(4)精読・理解チェック
 25. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(1)読む前に
 26. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(2)重要表現
 27. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(3)精読
 28. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(4)精読・理解チェック
 29. プレゼンテーションのための質疑応答
 30. 資料確認のための質疑応答
- ※各回の素材・内容・順番は変更する可能性がある。授業中の連絡に注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文・発表 10%
口頭試験 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。
プレイメントテストにおいて日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語基礎」に合格した学生のみを対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な表現も、論理的な表現も、繰り返し使用するほどに運用の力は向上していく。この授業は論理的な日本語表現の基礎になる部分を学ぶ貴重な機会となるので、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

上級日本語、書き言葉、アカデミックジャパニーズ、環境工学系読解教材、プレゼンテーション

総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	得られた情報を適切な手法を用いて誤解なく他者に伝達するための日本語能力を身につける。
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	やや複雑で困難な課題にも対処し得るだけのアカデミック・ジャパニーズ能力を習得する。
	コミュニケーション力	●	留学生が大学生活を円滑に進めるために必要な日本語能力を総合的に身につける。
		総合日本語B	JSL110F

授業の概要 /Course Description

「総合日本語B」では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、複雑な状況、緊張感を伴う場面においても、最低限のタスクを遂行できる会話能力を養成し、また、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールしながら運用する訓練を繰り返し行っていく。この授業を通じて、日本語を使って積極的に情報発信を行い得る能力と、積極的に問題提起を行える態度を養成することで、日本語を「運用」できる範囲を広げていくことが、受講生の主な目的となる。

教科書 /Textbooks

池田隆介『総合日本語B』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 授業のルール
 2. 作文1: 懸賞論文とは
 3. 作文2: 作文の構成1 段落
 4. 作文3: 作文の構成2 起承転結
 5. 作文4: 文の首尾一貫性
 6. 作文5: 引用
 7. 作文6: 作文発表会
 8. 上級聴解1: ディクテーション / 不正確な発話を理解する
 9. 上級聴解2: 話し言葉を書き言葉に変換する
 10. 会話: 「お金」の交渉
 11. 討論1: 討論会とは
 12. 討論2: 情報伝達・方法説明の表現
 13. 討論3: 事実・意見の主張
 14. 討論4: テーマを決める
 15. 討論5: 積極的な聞き取り&質問
 16. 討論6: 様々な意見をまとめる
 17. 討論7: 討論会のための資料収集
 18. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(1)読む前に
 19. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(2)VTRを見ながら内容を理解する
 20. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(3)重要表現
 21. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(4)精読(レジюме作りと発表)・理解チェック
 22. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(1)重要表現
 23. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(2)第1節 精読(レジюме作りと発表)・理解チェック
 24. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(3)第2節 精読(レジюме作りと発表)・理解チェック
 25. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(4)第3節 精読(レジюме作りと発表)・理解チェック
 26. 読解ユニット2 『環境問題の錯覚』(5)第4節 精読(レジюме作りと発表)・理解チェック
 27. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(1)重要表現
 28. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(3)第1・2節 精読(レジюме作りと発表)・理解チェック
 29. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(4)第3・4節 精読(レジюме作りと発表)・理解チェック
 30. 討論に関する個別質疑応答
- ※読解ユニットの素材・内容は変更する可能性もある。授業中の連絡に注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文 10%
討論会 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。
プレイメントテストにおいて日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語A」に合格した学生のみを対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やや専門的な内容の日本語資料を正確に理解し、さらに、それを周囲に伝達できる能力を育成するための授業である。教員の指示を待つだけでなく、自分から積極的に問題提起をし、議論を進めていく積極的な姿勢の学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

上級日本語、文レベルから段落レベルへ、情報発信、討論、ディクテーション、作文

電気工学基礎

(Introduction to Electrical Engineering)

担当者名 水井 雅彦 / Masahiko MIZUI / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【必修】 機械システム工学科 【選択】 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 電気工学に関する基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力	

* 機械システム工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

電気工学基礎

EIC100M

授業の概要 /Course Description

「知っておくと卒業研究で便利な電気の知識」
を講義のテーマに、様々な分野で応用できる電気技術の
周知と習得を目標にしている。
具体的には、
センサで計測した情報の記録・モータ制御を、
パソコンから行う知識を想定する。
受講する皆さんが、様々な研究で活用できる技術を取り扱う。

数式表現を少なく、動作原理を中心に解説する。

教科書 /Textbooks

「基礎から実践まで理解できるロボット・メカトロニクス」, 共立出版, ISBN978-4-320-08186-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「Arduinoをはじめよう」, オライリー・ジャパン, ISBN978-4-87311-398-2
Prototyping Lab 「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ, オライリー・ジャパン, ISBN978-4-87311-453-8

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 電気基礎
2. 電子部品 1 (抵抗)
3. 電子部品 2 (コンデンサ・コイル)
4. 電子部品 3 (ダイオード)
5. 直流回路 (微分回路・積分回路)
6. 交流回路
7. まとめ1 (前半の復習)
8. センサの種類と特性 (実演)
9. モータの特性
10. モータの種類と特性
11. デジタルとアナログ
12. 論理回路
13. デジタル回路
14. カウンタ
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% 講義内容の確認テストを行う
期末試験 80% 小テストを中心に出题

電気工学基礎

(Introduction to Electrical Engineering)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまで学んできた電気の知識を復習しながら，工学での応用を学びます．
苦手意識をもたず，毎回受講してください．

毎回行う小テストの結果が，成績評価に重要です．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

電気を用いた機器の仕組みを，動作原理中心に解説します．
しかし，定量的（数式を用いた）な物理現象の表現も必要です．

ここでは物理で学んだ知識を，工学として活用する話します．
様々な分野の知識を融合し，生活を便利にするアイデアを大切にしてください．

キーワード /Keywords

電気，電子回路，ロボット，マイコン，Arduino，アナログ，デジタル

力学基礎

(Dynamics)

担当者名 /Instructor 岡田 伸廣 / Nobuhiro OKADA / 機械システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 機械システム工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 力学に関する基礎学力を身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※機械システム工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

力学基礎

PHY140M

授業の概要 /Course Description

本講義では、物体の運動を説明・予測する力学の基礎を学びます。力学は物理学の基本で、現象を数式でモデル化することで説明し、数式を解くことで現象を予測するという、理工学で必要な論理的思考法に慣れ親しむのに有効です。本講義の目的は、力と物体の運動の関連を理解し、さらに工学系専門科目で必須となる数式を用いて現象を表現することを学ぶことです。

教科書 /Textbooks

「グラフィック講義 力学の基礎」, 和田純夫, サイエンス社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 物理量と単位
- 第2回 速度と位置 (微分積分の関係)
- 第3回 加速度
- 第4回 等加速度運動
- 第5回 運動方程式と力
- 第6回 色々な力 (抗力, 張力, 摩擦力, 抵抗力)
- 第7回 等速円運動
- 第8回 演習 (第1回~7回の内容)
- 第9回 エネルギーと運動量
- 第10回 エネルギー保存の法則
- 第11回 運動量保存の法則
- 第12回 回転運動の方程式
- 第13回 剛体の慣性モーメント
- 第14回 角運動量とその保存則
- 第15回 まとめと演習 (第9回~14回の内容)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 : 60%, 演習 (2回) : 40% . 欠席は減点します .

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で物理学, 数学の微積分を履修していることが望ましいです . 予習・復習を十分に行ってください .

力学基礎

(Dynamics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義を通して、数学が現象を表現し、予測するのに強力なツールであることを学んでほしいと思います。また、力学の理工学への応用についても興味を持ってもらえることを期待します。

キーワード /Keywords

力, 位置, 速度, 加速度, 運動方程式, エネルギー保存の法則

確率論

(Probability Theory)

担当者名 /Instructor 高島 康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 情報メディア工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 確率・統計に関する基礎理論及び基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力	

※情報メディア工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

確率論

MTH101M

授業の概要 /Course Description

一見、何の関係も無く発生している様々な事象が、ある一つの枠組みとして議論できることがある。この議論の中心が確率である。本講義では、確率について離散、連続のそれぞれの場合について、講義する。また、適宜演習を行なうことにより、確率の様々な性質を実感として触れる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス，確率とは
- 2 離散確率の基本性質
- 3 条件付き確率
- 4 演習1
- 5 確率変数(離散)
- 6 確率変数(連続)
- 7 モーメント
- 8 多次元確率
- 9 2項分布，大数の法則
- 10 演習2
- 11 正規分布
- 12 その他の分布
- 13 相関
- 14 モンテカルロ法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%
講義中の課題：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

離散数学の内容を理解しておくこと

確率論

(Probability Theory)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代では、物事の傾向を「確率」という道具で捉えることが非常に多くなっています。本講義を通じて、この道具を身につけるよう取り組んで下さい。

キーワード /Keywords

条件付き確率，分布，モーメント

認知心理学

(Cognitive Psychology)

担当者名 /Instructor 中溝 幸夫 / Sachio NAKAMIZO / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 認知心理学に関する基礎理論及び基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*情報メディア工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

認知心理学

PSY242M

授業の概要 /Course Description

認知心理学は、文系系にまたがる学際科学であり、その中には脳の科学、心理学、情報科学、言語学、文化人類学、哲学などが含まれています。その目的は、人間・動物の＜脳と心＞の仕組みを科学的に理解することです。

本講義では、心理学と脳科学を主な内容として、皆さんにとってはおそらく未知の世界である脳と心の仕組みについて講義します。中でも情報入力系である＜感覚・知覚＞、情報貯蔵系である＜記憶＞、行動変容系である＜学習＞、情報通信系である＜言語＞など認知心理学のトピックを脳科学の知見を交えながら講義します。

授業のねらいは、認知心理学がどんな方法で、どんな知識が得られているかを自分のことばで説明できることです。心という目に見えない“主観的な世界”を、科学的に探究するということは何を意味しているのか、それは果たして科学と呼べるのか...、読心術や占いとはどこがどう違うのか...、認知心理学は科学の歴史の中でどのようにして生まれたのか...、このような疑問に皆さんが答えることができるような知識と思考能力を身につけてもらうことがこの講義における私の“仕事”です。

教科書 /Textbooks

教科書は使いません。毎回の授業でプリントの資料とパワーポイントのスライドを使って講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、授業の最初に「読書案内」をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 授業のオリエンテーション(授業の進め方、シラバス内容の説明、脳・心の科学とは)
- 2回目 科学革命と心理学誕生のドラマ (1) <近代科学革命、ニュートン物理学、機械論的生物学、>
- 3回目 科学革命と心理学誕生のドラマ (2) <心理物理学、ヴントの科学的心理学の誕生>
- 4回目 認知心理学の誕生と研究課題<計算機科学、認知革命、認知心理学の誕生>
- 5回目 視覚は“心理”である<視覚の要素、1次視覚野、両眼立体視、錯視、脳損傷、PET>
- 6回目 イリュージョンの科学<サイクロピアン・イリュージョン、視方向の法則>
- 7回目 パターン認知<鑄型モデル、特徴モデル、トップダウン処理、ボトムアップ処理>
- 8回目 中間試験
- 9回目 記憶システム (1) <感覚記憶、短期記憶、長期記憶>
- 10回目 記憶システム (2) <手続き記憶、意味記憶>
- 11回目 知識表現<外的表現、内的表現、アナログ表現、命題表現、意味的ネットワーク>
- 12回目 認知地図<心の地図、アナログ表現の例、環境心理学、ユニバーサルデザイン>
- 13回目 デザインの認知心理学<日常生活における器具のデザイン、ユーザビリティ、ユニバーサルデザイン>
- 14回目 感情システム<感情体験、感情表出、感情の理論、感情と表情、感情の脳内基盤>
- 15回目 認知心理学の近未来と講義のまとめ<認知科学の3タイプ、認知科学の近未来像>

認知心理学

(Cognitive Psychology)

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の試験成績(中間:30%、期末:30%、合計:60%)
2回のビデオレポート(20%)
毎回の授業課題・授業コメント(20%)

以上を総合して、成績評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を重視しています。そのために、毎回、授業課題(クエッション・カード)を解いたり、問題発見をしてもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学で<学ぶ>とは、単に知識・スキルを習得するだけではなく、それらを使って自分で疑問を持ち、問題を発見し、それを解決するために実践し、最終的に問題を解決することができるような<知力>を身に付けることだ!そのためにこれまで試験勉強し、大学では高い学費を払い、授業に出席しているのだ...ということを忘れないでほしい。私は、君たちのそういう努力を最大限、サポートしたいと思っています。

キーワード /Keywords

大学での<学び>、脳と心の科学、認知心理学、科学史の中の心理学、感覚・知覚・認知、学習、言語活動、頭の中の地図(認知地図)、感情(情動)

環境問題特別講義

(Introductory Lecture Series on Environmental Issues)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19 ~) , 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19 ~)
森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /1 Year 単位 /Credits 1単位 /1 Semester 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域及び地球規模での環境問題について、その仕組みと基本的な対応に関する知識を正しく理解する。
技能	情報リテラシー	●	環境問題に関する情報源は多数ある。その中から科学的な情報を適切に入手する能力を修得する。
	数量的スキル	●	環境問題に関する課題（エネルギー消費や水質指標）についての演習を行い、環境問題を数量的に把握する能力を修得する。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		環境問題特別講義	
		ENV101F	

授業の概要 /Course Description

環境問題は、地球規模の問題であるとともに地域の問題でもある。目前に見える今日の課題から地球温暖化のように将来の課題まで含んでいる。そして、私たち日常生活のみならず産業経済や政治も環境問題にどのように対応するかが重要なテーマである。本授業では、各分野で活動する専門家の講義を受けるとともに、演習や見学を通して環境問題の概略を理解する。

到達目標は次のとおり。

- ・ 地域及び地球規模での環境問題について、その仕組みと基本的な対応に関する知識を正しく理解する。 [総合的知識・理解]
- ・ 環境問題に関する情報源は多数ある。その中から科学的な情報を適切に入手する能力を取得する。 [技能：情報リテラシー]
- ・ 環境問題に関する課題（エネルギー消費や水質指標）についての演習を行い、環境問題を数量的に把握する能力を取得する。 [技能：数量的スキル]

教科書 /Textbooks

日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会編著「エコアクションが地球を救う！第2版」丸善

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都研究会編著「環境首都 - 北九州市」日刊工業新聞社
米本昌平「地球環境問題とは何か」岩波新書
門脇仁「最新環境問題の基本がわかる本 [第2版] 」秀和システム
ほか授業中に紹介する。

環境問題特別講義

(Introductory Lecture Series on Environmental Issues)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境問題とは何か
- 2 環境と科学
- 3 環境問題演習① (エネルギー消費)
- 4 環境問題演習② (環境負荷 : BOD)
- 5 北九州市の環境政策
- 6 環境問題と市民の役割
- 7 環境問題と企業の役割
- 8 環境問題と報道の役割
- 9 環境産業 (技術) の発展
- 10 自然史・歴史博物館の見学と講義
- 11 エコタウン施設の見学
- 12 環境問題事例研究ガイダンス① (チーム編成)
- 13 環境問題事例研究ガイダンス② (研究テーマの検討)
- 14 環境問題事例研究ガイダンス③ (テーマ決定、夏期休暇中の活動)
- 15 まとめ
(講義の順番は講師の都合により入れ替る)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20% (講義内容への質問等も評価する)
レポート 30% (レポートは、講義内容や施設見学に関するもの)
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義内容に関する演習、小論文、課題提出等を課す。常に授業への集中力を持続すること。
講師の都合等で、講義内容に変更が生じる場合がある。土曜日に施設見学を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義内容のノート・メモをとり、聴きながら整理する習慣をつけ、学校生活のペースを身につけること。そのためには、講義内容に関係した記事を新聞雑誌で読んだり、参考書で学習すること、友人と意見交換することを奨める。

キーワード /Keywords

環境問題 生態系 環境負荷 エネルギー消費 北九州市 エコタウン

生物学

(Biology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生物学の基礎に関する内容について、自分の言葉で説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	生物の階梯について定性的に理解する。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			生物学
			BI0111F

授業の概要 /Course Description

生物学の導入として、(1) 細胞の構造と細胞分裂、(2) 遺伝、(3) 生殖と発生、(4) 系統進化と分類、(5) 生物の生理、の各分野について概説します。本講義では、生物学を初めて学ぶ者にも理解できるように基本的な内容を平易に解説し、全学科の学生を対象に自然科学の教養としての生物学教育を行うとともに、生物系の専門課程の履修に最低限必要な生物学の基盤教育を行います。

教科書 /Textbooks

生物学入門 第2版 石川統 ほか 著、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生体構成物質
- 2 細胞の構造
- 3 細胞の機能
- 4 細胞分裂
- 5 遺伝の法則
- 6 遺伝子
- 7 ヒトの遺伝
- 8 適応
- 9 進化
- 10 系統分類
- 11 配偶子形成
- 12 初期発生
- 13 植物の発生
- 14 刺激と反応
- 15 恒常性の維持

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 絶対評価します
課題 20% 講義期間中に随時課します
出席 評点には含めませんが、極力全講義に出席してください

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生物学

(Biology)

履修上の注意 /Remarks

平易な解説を行います。講義はすべて積み重ねであるので、一部の理解が欠如するとその後の履修に支障が生じます。そのため、毎回の講義を真剣に受講し、その場ですべてを完全に理解するように心がけてください。生物学の理解のためには、化学、物理学の基礎的知識が必要です。本講義では、生物学を初めて学ぶ学生にも理解できるような平易な解説を行います。高校までの化学、物理学の知識は再確認しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物学が好きな学生、嫌いな学生ともに、基礎から学べるような講義を行います。すでに生物学を学んだことのある人は再確認を行い、また生物学初学者は基礎をしっかりと身につけ、専門科目へのつなぎを作ってください。

キーワード /Keywords

細胞・遺伝・系統分類・進化・発生・生理

生態学

(Ecology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生態学にかかわる基礎的内容について各自の言葉で説明することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	生態現象を支配する理論に関して、定性的にその概念を理解する。
	英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			生態学 BI0112F

授業の概要 /Course Description

生態系は、私たち人間も含めた生物と環境との相互作用によって成り立っています。この相互作用の基本となるものは物質とエネルギーで、生態系における物質・エネルギーの挙動と生物との関係を正しく理解する事が、諸々の環境問題の正しい理解とその解決策の検討には不可欠です。本講義では、このような観点から、(1) 生態系の構造と機能、(2) 個体群と生物群集の構造、(3) 生物地球化学的物質循環、を中心に生態学の基礎的内容を講述します。

教科書 /Textbooks

生態学入門 -生態系を理解する- (原口昭 編著) 生物研究社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本の湿原(原口昭 著) 生物研究社
 - 攪乱と遷移の自然史(重定・露崎編著) 北海道大学出版会
- ほか必要に応じて講義の中で指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地球環境と生物 - 生態系の成り立ち
- 2 生態系の構成要素 - 生物・環境・エネルギー
- 3 生物個体群の構造
- 4 種内関係
- 5 生態的地位
- 6 種間関係
- 7 生態系とエネルギー
- 8 生態系の中での物質循環
- 9 生態系の分布
- 10 生態系の変化 - 生態遷移
- 11 土壌の成り立ちと生物・環境相互作用
- 12 生態系各論：森林生態系・海洋生態系
- 13 生態系各論：陸水生態系・湿地生態系
- 14 生態系各論：農林地生態系・熱帯生態系
- 15 生態系各論：エネルギー問題と生態系

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 80% 絶対評価します
レポート 20% 講義中に随時実施します
出席 評点には加えませんが、極力すべての講義に出席してください

生態学

(Ecology)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義の積み重ねで全体の講義が構成されていますので、毎回必ず出席して、その回の講義は完全に消化するよう努めてください。工学系の学生にとっては初めて学習する内容が多いと思いますが、何よりも興味を持つことが重要です。そのために、生態系や生物一般に関する啓蒙書を読んでおくことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考える上で生物の機能は不可欠な要素です。これまで生態系に関する講義を履修してこなかった学生に対しても十分理解できるように平易に解説を行いますので、苦手意識を持たずに取り組んでください。

キーワード /Keywords

生態系・生物群集・個体群・エネルギー・物質循環・生態系保全

環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科
野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~), 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~)
加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境マネジメントのスキルとして、環境問題の現状把握・将来予測・管理手法等に関する基礎的専門知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題に対して、改善のための目標をどのように設定し、対策を施し、進行管理を行うか、企業や行政の現場で直面する具体的な事例をもとに理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	工学の環境問題に対する社会的責任と倫理観を理解し、社会に出て技術者として何ができるか考える基礎とする。
	生涯学習力 コミュニケーション力		
		環境マネジメント概論	
		ENW212F	

授業の概要 /Course Description

多様な要素が関係する環境問題を解きほぐし、その対策・管理手法を考えるための基礎知識を修得することが目標である。まず、人間活動がどのように環境問題を引き起こしているのか、その本質的原因を知るために、経済システムや都市化、工業化、グローバル化といった視点から環境問題を捉える。次に、環境の現況把握のための評価手法、目標設定のための将来予測の考え方を学び、さらに、環境マネジメントの予防原則に則った法制度、国際規格、環境アセスメント、プロジェクト評価手法、環境リスク管理等の基礎を習得する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない（講義ではプリントを配付する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境システム（土木学会環境システム委員会編、共立出版）○
環境問題の基本がわかる本（門脇仁、秀和システム）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- < 環境問題を考える視点 >
- 1 環境システムとそのマネジメント（松本）
- < 環境問題の原因を考える >
- 2 都市化・工業化・国際化（二渡）
- 3 市場と外部性（加藤）
- < 環境の状態をつかみ目標を決める >
- 4 地域環境情報の把握と環境影響予測（野上）
- 5 製品・企業の環境パフォーマンス（乙間）
- 6 地球環境の把握と将来予測（松本）
- 7 経済学的手法による予測（加藤）
- < 環境をマネジメントする >
- 8 国内・国際法による政策フレーム（乙間）
- 9 国際規格による環境管理（二渡）
- 10 開発事業と環境アセスメント（野上）
- 11 環境関連プロジェクトの費用と便益（加藤）
- 12 環境リスクとその管理（二渡）
- 13 環境情報とラベリング（乙間）
- < 事例研究 >
- 14 企業（野上）
- 15 行政（松本）

環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト 42%
期末試験 58%

※2/3以上出席すること

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する小テストを実施するので集中して聞くこと。
欠席すると必然的に小テストの得点はゼロとなる。
小テストは講義の最後なので、早退の場合も欠席同様、小テストの得点はゼロとなるので注意が必要である。
30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境生命工学科環境マネジメント分野の教員全員による講義です。環境問題の本質をつかみ、理解し、解決策を見出すための理念と基礎手法を解説します。工学部出身者として、今やどの分野で活躍する場合でも習得しておくべき知識と言っていいでしょう。

キーワード /Keywords

環境と経済

(The Environment and Economics)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的な現象を数理モデルを使って分析するための枠組みを理解する。
思考・判断・表現	英語力		
	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の対策について、経済学的な視点から基本的な考察することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	環境問題に関わるステークホルダーの立場に配慮しつつ、望ましい解決に向かうための考え方を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		環境と経済	ENW211F

授業の概要 /Course Description

環境問題に関し、経済学的な観点から、社会にとって良い政策とは何かを考える。2部構成とし、第一部では、ミクロ経済学の知識を必要な範囲で伝授する。第二部では、環境税や排出権取引のしくみを説明する。実際の政策の議論では、さまざまな論点が混じり合い、これらの対策の本来の意義が見えにくくなっているため、原点に立ち返ることを学ぶ。

教科書 /Textbooks

説明用のプリントを配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日引聡・有村俊秀(2002)「入門 環境経済学」中公新書 819円(消費税増額による変更の可能性あり)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：環境問題と経済学
- 2 需要曲線と消費者余剰
- 3 費用と供給曲線1【費用の概念】
- 4 費用と供給曲線2【供給曲線の導出】
- 5 供給曲線と生産者余剰
- 6 市場と社会的余剰1【市場の機能】
- 7 市場と社会的余剰2【社会的余剰の算出】
- 8 中間テストと前半の復習
- 9 環境問題と環境外部性
- 10 環境税のしくみ1【社会的余剰最大化】
- 11 環境税のしくみ2【汚染削減費用最小化】
- 12 排出権取引のしくみ1【汚染削減費用最小化】
- 13 排出権取引のしくみ2【初期配分の意義】
- 14 環境税と排出権取引の比較
- 15 まとめと全体の復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・中間テスト 45%
期末テスト 45%
レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境と経済

(The Environment and Economics)

履修上の注意 /Remarks

高校レベルの微分積分および基本的な偏微分の知識を前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題に対する経済学的対処法に興味がある人は、ぜひ受講してください。理解促進のために5回程度の小テストを実施予定です。

キーワード /Keywords

化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	熱力学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	熱力学で必要とされる基礎データや数式などを、課題に対応して利用できる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	実際の熱化学現象に対して、熱力学的考察の進め方を提示することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

化学熱力学

CHM110M

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶものにとっては必要不可欠なものである。本講義では、物理化学の基礎として極めて重要な熱力学について講義する。

教科書 /Textbooks

アトキンス 物理化学(上)第8版 東京化学同人 (ISBN978-4-8079-0695-6)
ビギナーズ化学熱力学 共立出版、上江洲一也、後藤宗治著 (2014年9月出版予定)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

化学熱力学(物理化学入門シリーズ) 裳華房 (ISBN978-4-7853-3418-5)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 有効数字、次元、単位
- 気体の性質 完全気体の法則
- 気体の性質 完全気体の状態方程式
- 気体の性質 実在気体の状態方程式
- 熱力学第1法則 仕事と熱、内部エネルギー
- 熱力学第1法則 エンタルピー
- 熱力学第1法則 状態関数、熱容量
- 前半のまとめ
- 熱力学第2法則と第3法則 カルノーサイクルと熱効率
- 熱力学第2法則と第3法則 エントロピー
- 熱力学第2法則と第3法則 標準反応エントロピー
- 熱力学第2法則と第3法則 いろいろな過程のエントロピー変化
- 自由エネルギー ギブズエネルギー
- 自由エネルギー 熱力学の基本式、マクスウェルの関係式
- 自由エネルギー いろいろな過程のギブズエネルギー変化

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小テスト等) 20%
中間テスト 20%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

履修上の注意 /Remarks

テキストをよく読んでくること。小テストの復習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要です。講義の中で適宜、演習を行いますので、積極的に取り組み、計算にも慣れてください。

キーワード /Keywords

基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

担当者名 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19~)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 生化学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎生物化学

BI0110M

授業の概要 /Course Description

生物内では膨大な化学反応が効率的に営まれ、生命活動を維持している。本講義では、生命活動の基本となる生体分子（アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸）の化学、および生体膜の特徴と酵素反応を学ぶことによって、生物化学の基礎知識を習得する。

教科書 /Textbooks

田宮信雄・村松正實・八木達彦・遠藤斗志也 訳 「ヴォート基礎生化学第3版」 東京化学同人 2010年 ¥7,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入（生物化学の重要性）
2. 生体分子と水
3. アミノ酸 1（構造と分類）
4. アミノ酸 2（性質）
5. タンパク質 1（構造）
6. タンパク質 2（性質）
7. タンパク質 3（解析）
8. 糖質
9. 前半の復習、確認テスト
10. 核酸 1（構造）
11. 核酸 2（性質）
12. 脂質
13. 生体膜
14. 酵素
15. 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず復習すること。

基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、我々の体の中で起こっている現象を理解するための学問です。また、環境と生体は密接な関係にあり、環境技術を学ぶ中で生命現象を理解しておくことは非常に重要です。

キーワード /Keywords

基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

担当者名 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 化学工学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 化学工学で必要とされる基礎データや数式などを、課題に対応して利用できる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 工業プロセスに対して、化学工学的考察の進め方を提示することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎化学工学

CHM260M

授業の概要 /Course Description

化学工学の目的とその学問体系について概説する。また、化学工学を習得するために不可欠な物質収支・エネルギー収支などの工学計算を、単位系(SI単位)を意識して行えるようにする。さらに、化学装置内の流れを理解するために、流体の分類、流動状態、および流体の圧力損失などについて学習する。

教科書 /Textbooks

基礎化学工学(化学工学会編) 培風館 (ISBN 978-4-5630-4555-5)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

化学工学 改訂第3版 一解説と演習一 朝倉書店 (ISBN 978-4-2542-5033-6)
化学工学の計算法(化学計算法シリーズ) 東京電機大学出版局 (ISBN 978-4-5016-1690-8)
ベーシック化学工学 化学同人 (ISBN 978-4-7598-1067-7)
はじめて学ぶ化学工学 工業調査会 (ISBN 978-4-7693-4202-1)
化学工学便覧 改訂六版 丸善 (ISBN 978-4-6210-4535-0)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進め方の説明、化学工学の目的とその学問体系
- 2 単位換算
- 3 物質収支(1)基礎式
- 4 物質収支(2)反応操作の物質収支
- 5 エネルギー収支(1)エンタルピー収支式
- 6 エネルギー収支(2)物理的過程のエンタルピー変化
- 7 前半の復習、確認テスト1
- 8 流体の圧縮性と粘性
- 9 円管内の流れ(1)Reynolds数、層流と乱流
- 10 円管内の流れ(2)摩擦係数とFanningの式
- 11 充填層の流れ
- 12 流れ系のエネルギー収支(1)機械的エネルギー保存の法則
- 13 流れ系のエネルギー収支(2)配管内流れのエネルギー損失
- 14 流体輸送と流体混合
- 15 後半の復習、確認テスト2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業態度、小テスト等) 30%
確認テスト 20%
期末テスト 50%

基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

用語・公式・定義などが多いので、確実な理解のために復習して講義に臨むこと。
計算問題は、基本的に手計算。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工業においてプラントを設計・制御するためには、化学工学の素養が不可欠です。将来、化学分野の技術者を目指している学生は、化学工学の目的とその体系を理解した上で、工学計算が苦もなくできるように努力してください。

キーワード /Keywords

物質収支、エネルギー収支、化学装置内の流れ、工学計算

生物化学

(Biochemistry)

担当者名 /Instructor 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	エネルギー代謝など生命科学の基礎としての生物化学の考え方を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	酵素反応速度論、代謝制御を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	タンパク質の構造と機能、代謝経路、情報伝達経路についての課題を通じて自主的に学習することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生物化学

BI0220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、「基礎生物化学」で学んだ内容を基礎に、生体内で起きるエネルギー代謝など化学反応についての詳細を学び、生物化学からみた生命像の理解を目指す。具体的には、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、光合成など代謝とエネルギー生産の基礎、生体分子の合成と分解など物質代謝の基礎、遺伝子の発現と複製など、機能面から生物化学に関する知見を深める。また、物質輸送、細胞内情報伝達、遺伝子発現制御による代謝制御の仕組みについても学び、動的な生命現象の理解を目指す。また、代謝制御の理解のために酵素の反応速度論についても理解を深める必要がある。

教科書 /Textbooks

田宮信雄他訳「ヴォート基礎生物化学」第3版、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Albertsら著、中村・松原監訳「細胞の分子生物学」第5版、ニュートンプレス
福岡伸一監訳「マッキー生化学」第4版、化学同人
生化学辞典第4版、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション 「生物化学とは」、「生命の誕生と生化学」、「生化学反応の場としての細胞とオルガネラ」
- 2 代謝とエネルギー I 解糖系と糖新生
- 3 代謝とエネルギー II TCA回路
- 4 代謝とエネルギー III 電子伝達系とATP収支
- 5 代謝とエネルギー IV 光合成(1)【明反応、電子伝達系】
- 6 代謝とエネルギー V 光合成(2)【暗反応、炭素固定】
- 7 生体分子の合成と分解
- 8 前半の復習、確認試験
- 9 生体膜と物質輸送
- 10 細胞内情報伝達を担う分子たち
- 11 遺伝情報と遺伝子
- 12 遺伝子の発現と複製(1)【核酸の構造、DNAの複製、修復、組換え】
- 13 遺伝子の発現と複製(2)【転写、RNAプロセッシング、翻訳】
- 14 遺伝子発現制御と代謝制御
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題、レポート 20% 適宜指示する(2回程度)
確認試験 40% 第1回~7回の範囲から出題
期末試験 40% 主に第9回以降の範囲から出題

生物化学

(Biochemistry)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書の「IV代謝」と「V遺伝子の発現と複製」の範囲を読んで十分な予習をすること。また、配布物およびワークシートに従って予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年次の「基礎生物化学」の内容をよく復習して講義に臨んでください。

キーワード /Keywords

統計熱力学

(Thermodynamics and Statistical Mechanics)

担当者名 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	熱力学の復習と、統計力学の基礎的な考え方（特にボルツマン分布とその応用）について学ぶ。
技能	専門分野のスキル	●	統計力学的な思考方法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観 生涯学習力 コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計熱力学

CHM212M

授業の概要 /Course Description

統計熱力学について学ぶ。熱力学の知識の上にたち、統計熱力学は、多数の原子・分子から構成されている物質の特性を微視的状態の集合として捕らえる考え方の基礎について学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学系の統計力学入門 Benjamin Widomt著 甲賀研一郎訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 熱力学の復習 (1) 【第 1 法則】
- 2 熱力学の復習 (2) 【第 2 法則】
- 3 熱力学の復習 (3) 【熱力学関数】
- 4 熱力学の演習
- 5 ボルツマン分布則と分配関数 (1) 【ボルツマン分布】
- 6 ボルツマン分布則と分配関数 (2) 【分配関数、期待値】
- 7 分配関数の応用
- 8 理想気体の統計熱力学 (1) 【内部エネルギー】
- 9 理想気体の統計熱力学 (2) 【2 原子分子】
- 10 演習 (講義第 1 回 ~ 第 9 回)
- 11 分配関数と平衡定数
- 12 高分子鎖の統計力学
- 13 演習 (講義第 11 回 ~ 第 12 回)
- 14 演習 (全体)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% (追試あり)、期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をしっかりと行うこと。
講義は板書と配布資料でおこなう。

統計熱力学

(Thermodynamics and Statistical Mechanics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

熱力学の分子論的根拠を与える重要な分野であり、ボルツマン統計をしっかりと学んで欲しい。

キーワード /Keywords

分子生物学

(Molecular Biology)

担当者名 /Instructor 木原 隆典 / Takanori KIHARA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	特にDNAの複製と転写を中心に、分子生物学に関する基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	遺伝子を中心とした生命の基本戦略を理解・分析する能力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

分子生物学

BI0221M

授業の概要 /Course Description

分子生物学は現代の生命科学の基礎となる学問である。特に本講義では、DNAの複製、RNAへの転写、タンパク質への翻訳といった内容を中心に講義をする。

教科書 /Textbooks

教科書の代わりものとして授業の資料を配布する。
代わりに、以下の問題集を本授業の問題集として指定する。
・ 生化学・分子生物学演習 第2版 猪飼・野島 著 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

分子生物学 第2版 柳田・西田・野田 編 東京化学同人
細胞の分子生物学 第5版 Alberts 他 著 ニュートンプレス (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 分子生物学概論
- 2 . DNAの構造
- 3 . RNAの構造
- 4 . クロマチン構造
- 5 . DNAの複製
- 6 . DNAの変異と修復
- 7 . DNAの組換え
- 8 . 転写
- 9 . RNAの加工
- 10 . 翻訳
- 11 . タンパク質のフォールディング
- 12 . 転写調節
- 13 . エピジェネティクス
- 14 . 細胞生物学I
- 15 . 細胞生物学II

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分子生物学

(Molecular Biology)

履修上の注意 /Remarks

生物学および生化学の内容を前提としているため、授業の前に十分に復習しておくこと。
さらに、配布資料と演習書で復習し、授業の理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分子生物学は20世紀における最大の科学革命であり、さらに今もなお新しい発見が行われている分野です。
是非、生命が作り出した素晴らしい分子機構を楽しんでもらえたらと思います。

キーワード /Keywords

環境政策概論

(Introduction to Environmental Policy and Administration)

担当者名 /Instructor 乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	環境政策で必要とされる基礎知識を文献や情報調査により収集・解析し、環境政策の要点を抽出する技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	環境政策分野における国際的な視野をもって広く社会に貢献することができる。
	社会的責任・倫理観	●	環境政策が社会に及ぼす影響を理解し、社会的責任感と倫理観を身につけ、他者と協力しながら行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策概論

ENV220M

授業の概要 /Course Description

環境政策および法制度では、新しい政策課題に対応する形で、さまざまな原則が提案され、新しい制度が導入されつつある。本科目では日本の基本的な環境政策の動向、問題の状況、法的な枠組み、さらには国際的な動向について概説する。具体的な分野としては、温暖化、廃棄物、化学物質などを中心とする。関連する新聞記事の解説も行い、報道内容が的確に理解できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定はしない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

倉坂秀史「環境政策論」(信山社,2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本の法制度の枠組み
- 第3回 わが国の公害、環境政策の変遷(その1:黎明期)
- 第4回 わが国の公害、環境政策の変遷(その2:公害対策基本法)
- 第5回 わが国の公害、環境政策の変遷(その3:環境庁の政策)
- 第6回 わが国の公害、環境政策の変遷(その4:環境問題の変容)
- 第7回 わが国の公害、環境政策の変遷(その5:環境基本法)
- 第8回 地球温暖化(その1:現象とメカニズム)
- 第9回 地球温暖化(その2:国際協調)
- 第10回 地球温暖化(その3:COPと議定書)
- 第11回 地球温暖化(その4:IPCC報告書)
- 第12回 循環型社会とリサイクル
- 第13回 リサイクル法
- 第14回 化学物質管理政策
- 第15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加及び宿題 40%
試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

環境政策概論

(Introduction to Environmental Policy and Administration)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境関連の時事問題に関心を持ち、問題の核心を理解し、今必要な政策は何かを考える学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

有機化学 II

(Organic Chemistry II)

担当者名 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	芳香族の有機化学、カルボニル基等の官能基の有機化学を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	有機化学と合成化学に関する基礎を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※環境生命工学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

有機化学 II

CHM222M

授業の概要 /Course Description

化学の最も重要な基礎学問の一つである有機化学を発展的に理解し、官能基の化学反応に関して、反復演習によって理解力を積み上げる。随時、有機化学の応用分野である、生物学や医学、工学での実例を紹介する。

教科書 /Textbooks

ボルハルト・シヨアー現代有機化学（下）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ベンゼン環と芳香族求電子置換反応
- 2 ベンゼン環の置換基の位置選択性
- 3 芳香族の化学の演習
- 4 アルデヒドとケトン（1）【カルボニル基の反応性】
- 5 アルデヒドとケトン（2）【求核反応】
- 6 エノラートとアルドール縮合（1）【アルドール縮合】
- 7 エノラートとアルドール縮合（2）【保護基】
- 8 カルボン酸の化学（1）【マイケル付加】
- 9 カルボン酸の化学（2）【ロビンソンの環化反応】
- 10 アミンの化学（1）【アミノ基】
- 11 アミノの化学（2）【ホフマン分解】
- 12 Claisen縮合とエノラート（1）【Claisen縮合】
- 13 Claisen縮合とエノラート（2）【マロン酸エステル】
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40%（追試あり）、期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

復習をしっかりすること

有機化学 II

(Organic Chemistry II)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学は化学の最も重要な基礎学問の一つである。化学系の専門分野での仕事には不可欠な学問分野であることを十分に自覚して講義にのぞむこと。

キーワード /Keywords

ことばとジェンダー

(Language and Gender)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	ジェンダーを表現することばを認識し、責任ある社会人として倫理的な言動をすることができる。
	生涯学習力	●	社会においてジェンダー表現に関する課題を発見し解決するために、倫理的言動をすることができる。
	コミュニケーション力	●	ジェンダーバイアスに支配されない正しい知識と精神力でもって、お互いを尊重しつつコミュニケーションを取ることができる。
		ことばとジェンダー	GEN211F

授業の概要 /Course Description

「ジェンダー」とは、人間が持つて生まれた性別ではなく、社会や文化が培ってきた「社会的・文化的な性のありよう」です。この講義では、ジェンダーに関する基礎知識を身につけるとともに、生活言語、メディア言語などが持つ様々なジェンダー表現を観察、検証することにより、日本社会や日本文化をジェンダーの視点から考察します。この授業では、社会におけるジェンダー表現に関する課題を発見し解決するために、責任ある社会人として倫理的言動をすることができる能力を養成します。

教科書 /Textbooks

- 『ジェンダーで学ぶ言語学』, 中村桃子編, 世界思想社, 2012.
- 『ことばとジェンダー』, 水本光美, 北九州市立大学基盤教育センター日本語プログラム, 2013.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション ②ジェンダーとは 1
- ①ジェンダーとは 2 ②「男らしさ、女らしさ」とは：ジェンダーからことばを見る
- 作られる「ことば」女ことば
- 作られる「ことば」男ことば
- メディアが作るジェンダー：マンガ 1 (構造とジェンダー表現)
- メディアが作るジェンダー：マンガ 2 (ストラテジーとしてのジェンダー表現)
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ 1 (テレビドラマと実社会のことばの隔たり)
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ 2 (テレビドラマの女性文末詞)
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン 1 (差別表現とは何か)
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン 2 (ジェンダーについて語る言説と表現ガイドライン)
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 1 (ことばは認識を変える力をもつ)
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 2 (セクシュアル・ハラスメントのインパクト)
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント 3 (セクシュアル・ハラスメントはなくせるか)
- 私のまわりのジェンダーについて考える
- 期末プレゼンテーションの準備

* 授業スケジュールは、状況に応じて、適宜、変更される場合もある。

ことばとジェンダー

(Language and Gender)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
宿題・小テスト 30%
事前調査・ディスカッション 20%
期末プレゼンテーション 30%
* 出席率80%未満は、不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本人と留学生の混合小規模クラス。

異文化間でのディスカッションも実施するため、授業で積極的に発言する意志のある学生の履修を希望。

留学生は「技術日本語基礎」が日本語能力試験1級(N1)に合格していること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちの生活は、数多くのジェンダー表現に囲まれています。それらは、どのような価値観、社会慣習などによるものが分析することによって、無意識に自己の中に形成されている男性観・女性観・差別意識について一緒に考えてみませんか。単に講義を聴くという受身的姿勢から脱して自発的に発言し、事例収集などにも積極的に取り組む態度を期待します。

キーワード /Keywords

ジェンダーイデオロギー、ジェンダー表現、性差別語、性差別表現、ジェンダーをつくることば

技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
授業形態 /Class Format 演習 / 演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	一般的な科学理解に必要な日本語による基礎的情報収集能力を習得する。
	数量的スキル 英語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり科学技術を学ぶために必要な日本語能力を習得する。
	コミュニケーション力	●	理系のアカデミックライフにおいて、日本語を用いた円滑なコミュニケーションを実現する能力を習得する。
		技術日本語基礎 JSL230F	

授業の概要 /Course Description

主に、環境工学と情報技術に関するテーマを扱った放送番組や新聞記事など、本工学部の全5学科に対応する内容の教材を扱いながら、理系の語彙増強と書き言葉の表現能力および聴解力の向上を目指す。また、著作物の引用や参考文献の書き方などを学び、専門科目のレポートや卒業論文の執筆の基礎能力を養成する。

< 主な目的 >

- (1) 理系語彙増強
- (2) 説明文の文構造、段落構造、文体、表現の特徴の把握
- (3) 複段落単位の説明文の記述
- (4) 説明文を要約し複段落で口頭説明
- (5) 理系語彙を含む聴解力増強
- (6) 著作物の引用方法と参考文献の書き方

教科書 /Textbooks

『技術日本語への架け橋 (2011年度改訂版)』, 水本光美・池田隆介, 北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室・日本語教育プログラム, 2011. ← 授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○DVD 『HAYABUSA Back to the Earth』 はやぶさ大型映像制作委員会(有限会社ライブ 2011年)。詳細は授業中に説明する。

技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ①Orientation ②北九州工コタウン 1
- 2 ①北九州工コタウン2 ②改まったスタイル1
- 3 ①改まったスタイル2 ②改まったスタイル3
- 4 段落構成
- 5 WTCビル崩壊の謎
- 6 植物で土壌を蘇らせる
- 7 ①引用の仕方 ②出典や参考文献の書き方
- 8 改まったスタイル4：書き言葉表現
- 9 二酸化炭素隔離技術 1
- 10 二酸化炭素隔離技術 2
- 11 ロボット世界1：ロボットの用途
- 12 ロボット世界2：人間型ロボット
- 13 はやぶさの挑戦 1：はやぶさの偉業と旅の道筋
- 14 はやぶさの挑戦 2：イオンエンジンの開発とイトカワ着地
- 15 はやぶさの挑戦 3：様々な困難を克服して地球帰還

- ※ 予定は変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。
- ※ 試験期間中に、期末試験を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- 宿題 30%
- 小テスト 20%
- 期末試験 30%

- ※ 出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うビデオは、「留学生のホームページ」にアクセスして、必ず予習しておくことが必要である。

URL: <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

詳細は別途配布の「授業概要」を参照。

- 1 留学生のうち、「総合日本語A」または「総合日本語B」に合格した学生対象の専門技術日本語入門コースである。それ以外の受講希望者に関しては日本語担当教員からの許可を得ること。
- 2 Hibikino e-Learning Portal (moodle)への登録必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが工学部で専門分野や環境問題に関する知識を得るために最低知っていただけない理系の基礎的で、一般的な語彙やレポートや論文に必要な表現法を学びます。また、一般の成人向け科学番組を視聴し内容を理解することにより、アカデミック聴解力を養います。予習や宿題が重要な授業ですので、十分な準備をして、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

環境工学, 情報技術, 科学番組, 理系語彙増強, 表現力, 書き言葉, 聴解能力向上